

十二年十二月十八日貿易辭書取調掛ヲ置ク
 十三年四月七日寫字生掛ヲ置ク十一月二十二日編纂掛ヲ分テ編纂徵收簿書ノ三掛ヲ置キ洋文ノ事務ヲ簿書掛ニ屬セシム
 明治十五年一月十七日分課ヲ改メ照查課照印課徵收課編輯課簿書課雜務課ト爲ス編輯課ニ沿革誌取調掛舊幕府理財會要取調掛貿易辭書取調掛寫字生掛ヲ並屬セシム七月八日寫字生掛ヲ雜務課ニ屬セシム
 十六年十二月二十七日舊幕府理財會要取調掛ヲ廢ス
 十七年十一月十四日貿易辭書取調掛ヲ改メテ貿易備考取調掛ト爲ス
 十九年一月十六日分課ヲ廢シ更ニ編輯照查ノ二課ヲ置ク
 十一 印刷局 明治十一年十二月十日紙幣局ヲ廢シテ印刷局ヲ置クヤ處務章程ハ舊ニ仍ル
 十二年十一月二十八日貨幣史編纂掛ヲ編輯掛ト改稱ス
 十三年七月一日庶務計算調度三掛ヲ改メテ課ト稱シ編輯掛ヲ庶務課ニ並ス
 十四年六月十三日製造事務所掛ヲ調度課ニ並ス七月八日庶務課ヲ改メテ庶務部ト稱シ計算課ヲ改メテ審査部ト稱シ調度課ヲ改メテ調度部ト稱ス
 十五年一月十七日分課ヲ改メ庶務部審査部調度部及工場トス三月一日監查監視ヲ廢シ更ニ整理監查工業監查ヲ置ク十一月二十日監工長ヲ置ク
 十八年二月二十六日庶務審査ノ兩課會計印刷鈔紙ノ三部ヲ置ク
 十二 商務局 明治十二年一月九日商務局ヲ建ツルヤ分課ハ姑ラク舊勸商局ノ所定ニ據ル庶務

掛兼書記通商掛考案掛報告掛編纂掛製品畫圖掛是ナリ十二月十七日度量掛ヲ置ク(先是八年十月議案課ニ屬ス)
 十三 書記局 明治十二年十二月十六日書記局ヲ建ツルヤ分課ヲ定メ傳票翻譯銀行統計受付用度ノ六課及簿書掛ト爲ス
 十三年三月二十九日外國品調度掛ヲ置キ各應需用ノ外國品購買供給ノ事ヲ管ス五月七日銀行課ヲ廢シ別ニ銀行局ヲ置ク同月二十七日簿書掛ヲ廢シ共事務ヲ記録局ニ屬セシム
 十四年四月十四日舊商務局殘務取調掛ヲ置ク是ヨリ先キ同月七日同局ノ廢止セラレタルニヨルナリ六月二十九日用度課ヲ廢ス七月二日翻譯統計二課ヲ廢シ報告課ヲ置キ傳票課ノ次ニ列ス同月七日外國品調度掛ヲ廢シ殘務ヲ報告課ニ屬セシム十月七日舊商務局殘務取調掛ヲ廢ス十一月十九日橫濱正金銀行管理掛ヲ置ク同月二十四日火災保險取調掛ヲ議案局ニ轉ス十二月五日日本鐵道會社會計監查掛ヲ置ク
 十五年一月二十五日橫濱正金銀行管理掛ヲ廢ス
 十七年五月八日庶務局ヲ廢スルニ當リ庶務課官報掛ヲ置ク六月三十日開拓使事業報告編纂殘務掛ヲ置ク
 十八年六月二十四日國債局ノ管セル貸付金及繰替貸其他返納金ノ事務ヲ庶務課ニ並ス十月二十三日報告書取調委員ヲ置ク
 十九年一月十六日分課ヲ改メテ往復報告審議備荒儲蓄監督整理ノ六課ヲ置キ處務條款ヲ改定ス同月二十一日整理課及舊庶務課ノ管理セル貸金事務ヲ管ス二月十七日開拓使事業報告編纂殘務掛ヲ廢ス

十四 議案局 明治十二年十二月十六日日本局(名)議案課ヲ改メテ議案局ト爲スヤ別ニ分課スル所ナシ

十四年十一月二十四日書記局所管ノ火災保險取調掛ヲ管セシカ十五年六月三十日同掛ヲ廢サレ

十五 精算局 明治十三年三月六日精算局ヲ建ツルヤ同月八日分課ヲ定メ豫算掛照査掛簿記掛諸務掛編集掛ト爲ス

十六 銀行局 明治十三年五月七日書記局中ノ銀行課ヲ廢シ銀行局ヲ置クヤ暫ク分課ヲ定ムルニ至ラス

十五年一月十七日分課ヲ定メ常務課調查課紙幣課報告課編纂課受付課ノ六課ヲ置ク三月七日取調課ヲ置ク

十六年四月三十日審査課ヲ置ク

十九年一月十六日常務調查報告ノ三課ヲ改置ス

十七 調査局 明治十三年六月十九日精算局ヲ改メテ調査局ト爲スヤ其分課ハ即チ舊ニ仍ル

十四年十一月二十一日編集掛ヲ諸務掛ニ並ス

十五年一月十七日分課ヲ改置シ豫算課照査課簿記課決算課諸務課ト爲ス十二月六日照査簿記兩課ヲ廢シ收支規律兩課ヲ置ク

十六年十一月二十四日物品會計法掛ヲ置ク

十七年三月十二日出納檢査掛ヲ置ク五月九日分課ヲ改メ本部諮問會及委員ヲ以テ成ル故ニ常員ヲ置カス第一部帝室費及太政官大藏省元老院ノ會計ヲ掌ル第二部外部文部工部司法四省ノ會計

ヲ掌ル第三部内務省ノ會計ヲ掌ル第四部陸軍海軍兩省ノ會計ヲ掌ル第五部農商務省ノ會計ヲ掌ル第六部各府縣ノ會計ヲ掌ル簿記掛規律掛物品會計掛出納檢査掛統計掛庶務掛ト爲ス同月二十九日起業基金整理掛ヲ置ク

十八 會計局 明治十四年六月二十七日會計局ヲ建ツルヤ七月二十五日處務順序ヲ定メ調查部用度部計算部營繕掛庶務掛ノ分課ヲ置ク

十五年一月十七日分課ヲ改メテ調查課用度課計算課營繕課庶務課ト爲ス

十六年八月三日用度課ヲ廢シ出納支給物品ノ三課ヲ置ク十一月二十八日處務條款ヲ定メ分課ヲ改定シ調査支給物品出納計算營繕庶務ノ七課ト爲ス

十九年一月十六日分課ヲ改置シテ調查用度營繕ノ三課ト爲ス

十九 庶務局 明治十五年十一月四日庶務局ヲ置クヤ分課ヲ定メ第一課第二課第三課第四課第五課ト爲ス

十六年五月十四日文書課ヲ置ク

二十 主稅局 明治十七年五月二十日主稅局ヲ置クヤ分課ヲ定メ本部第一部第二部第三部第四部ト爲ス其二十二日分掌規程ヲ定メ本部ニ書記編輯課庶務課ヲ置キ舊關稅局ノ事務ハ第一部ニ屬セシメ部中整理審査製表收納ノ四課ヲ置キ第二部ニ地租船車稅水產稅雜種稅計算收納ノ六課第三部ニ酒稅印紙稅地方稅會社稅計算收納ノ六課第四部ニ統計出納用度雜收入ノ四課ヲ置ク此日本部中ニ地租改正殘務掛及租稅誌編纂掛ヲ置ク七月八日分掌規程ヲ更正シ第一部中ニ新ニ通商史編纂掛ヲ置キ第四部中出納用度ノ二課ヲ廢シテ更ニ徵稅費會計ノ二課ヲ置キ又新ニ稅關(部名)

ヲ設ケテ検査、鑑定、收稅、倉庫、文書、製表、監視、會計ノ八科ヲ置ク八月十四日第一部ニ諸務掛ヲ置ク十月二日第四部ヲ廢シ同日本部中統計、會計ノ二課ヲ置ク

十八年六月三十日地租改正殘務掛ヲ廢ス

二十一 預金局 明治十八年二月二十六日預金局ヲ置キ勘査出納、計算、庶務ノ四課ヲ設ク

十九年一月十六日分課ヲ改置シテ勘査、收支、計算ノ三課ト爲ス

二十二 主計局 明治十九年一月十六日調査局ヲ主計局ト改稱スルヤ主簿、總豫算、決算、歲入、歲出

第一、歲出第二、地方財務、官有財產物品會計、雜種金ノ八課ヲ置ク

二十三 官房 明治十九年一月十六日官房ヲ置クヤ書記局中ノ傳票課ヲ廢シ官房中ニ傳票掛ヲ置ク

二十四 金庫局 明治十九年一月十六日金庫局ヲ設置ス仍テ分課ヲ定メテ主金、收支、計算ノ三課トス

第四 諸局ノ班次

明治十年一月十一日本省諸局ノ班次ヲ定メ本局、租稅局、關稅局、檢査局、國債局、出納局、造幣局、紙幣局、常平局、記錄局ト爲ス

十一年十二月十日紙幣局ヲ印刷局ト改稱シ隨テ造幣局ノ次ニ列ス

十二年一月九日商務局ヲ置キ關稅局ノ次ニ列ス十二月十六日本局ヲ廢シテ書記局及議案局ヲ置キ租稅局ノ上ニ列ス

十三年三月六日精算局ヲ置キ商務局ノ次ニ列ス五月七日銀行局ヲ置キ國債局ノ次ニ列ス六月十日

九日精算局ヲ調査局ト改稱シ隨テ商務局ノ次ニ班ス

十四年七月七日會計局ヲ銀行局ノ次ニ列ス

十五年十一月四日庶務局ヲ置キ銀行局ノ次ニ列ス其後ニ新設セラレタル諸局ニ就テハ特ニ班次ヲ定メス

第三目 職員

明治十年一月十一日官制ヲ改革シ各省中寮ヲ廢シ局ヲ置クコト、スルヤ大少丞以下ヲ廢シ卿、大少輔、正權、大少書記官及一等乃至十等屬ヲ置ク是ニ於テカ書記官ノ内一名ツ、各局長トナリテ局務ヲ統轄シ其他ハ課長又掛長トナリテ課務又ハ掛務ヲ管理シ屬之ニ分屬ス

十三年三月二十七日省中見廻及門番ヲ廢シ巡視ヲ置ク十二月二日本省職制ヲ改定ス

十四年十一月十日諸省事務章程ヲ定メ各省卿及輔官ノ職務ヲ規定ス

十五年五月二十日主稅官ヲ置キ職制ヲ定ム同月二十七日技監竝ニ一等ヨリ四等ニ至ル技師、一等ヨリ十等ニ至ル技手及技生ヲ置ク

十八年五月二十日取次ノ者ヲ廢シ巡視ヲ以テ取次ノ勤務ニ從事セシム十二月二十二日各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ大臣ヲ置クニ及ヒ本省亦之ニ從フ

造幣局 明治十年一月二十九日造幣大、中少技師、一等乃至十等ノ技手及技生ヲ置ク

十五年五月二十七日大藏省中ニ技監以下ヲ置クニヨリテ本局ノ技師以下ヲ廢止ス

主稅局 明治十七年五月二十日租稅關稅二局ヲ廢シテ主稅局ヲ置クヤ職制中ニ追加シ主稅官長

一等乃至四等主稅官及一等乃至十等主稅屬ヲ置ク

第四目 雜件

第一 支 衙

- 一 租稅局出張所 明治十二年十月十日租稅局出張所ヲ大阪廣嶋熊本名古屋仙臺ノ五箇所ニ置キ諸稅檢査ノ事ヲ管理セシム
十四年八月二十四日更ニ之ヲ靜岡松江岡山高知松山長崎鹿兒嶋福井新潟長野福嶋盛岡秋田青森ノ十四所ニ増置シ諸稅監査及收稅ノ事ヲ併管セシメ賦稅收稅庶務ノ三掛ニ分テテ事務ヲ分掌セシム此日萬世橋租稅局出張所七年九月十五日設置ニ係ルヲ改メテ東京出張所ト稱ス
十五年五月十三日租稅局出張所ヲ東京箱崎町ニ設ケ北海道海產稅事務ヲ管セシム
十六年二月二十八日租稅局出張所ヲ函館ニ置ク三月三日東京箱崎町出張所ヲ廢シ五月二十九日盛岡青森兩出張所ヲ廢シ福井出張所ヲ石川縣下金澤ニ移シ改メテ金澤出張所ト稱ス
十七年五月二十日租稅關稅ノ二局ヲ併セ主稅局ト爲スニ及ヒ各地ノ租稅局出張所ヲ廢シ其事務ヲ府縣ニ屬セシム
- 二 關稅局出張所 明治十年一月二十三日舊租稅寮築地出張所ヲ改メテ關稅局出張所ト稱ス
- 三 國債局出張所 明治十四年六月三十日國債局大阪支局ヲ廢シ十五年十二月九日舊常平局大阪出張所ヲ國債局出張所ト改稱ス十九年一月二十日更ニ之ヲ廢ス
- 四 出納局出張所及派出所

- (一) 出納局出張所 明治十年二月三日大阪仙臺長崎ノ舊出納寮出張所ヲ改メテ出納局出張所ト稱ス十四年五月三十一日仙臺長崎兩出張所ヲ廢シ十九年一月二十日大阪出張所ヲ廢ス
- (二) 出納局派出所 明治十四年五月三十一日仙臺長崎兩派出所ヲ置キ九月二十二日之ヲ廢止ス
- 五 造幣局出張所 明治十二年九月十六日日本局(名議案課ノ造幣事務掛ヲ廢シ造幣局出張所ヲ本省内ニ設置ス)二十三年七月造幣支局ト改稱ス(附屬機關參照)
- 六 常平局出張所 明治十一年六月十七日大阪米廩ヲ以テ常平局出張所ト爲ス十五年十二月九日國債局出張所ト改稱ス
- 七 主稅局出張所 明治十七年六月二日築地元關稅局出張所ヲ改メテ築地主稅局第一部出張所ト稱ス(十九年三月十六日更ニ改メテ築地稅關出張所ト稱ス)
- 八 金庫局出張所 明治十九年一月二十一日出納局大阪出張所ヲ廢シ金庫局大阪出張所ヲ置キ其地ノ金庫ヲ管セシム

第二 附屬署衙

- 一 本省附屬署衙
 - (一) 征討費總理事務局 明治十一年八月一日太政官所轄ノ本局ヲ本省ニ移ス(十年十一月二十二日設置スル所ニ係ル)十二年十二月二十五日之ヲ廢ス
 - (二) 內國勸業博覽會事務局 明治十二年六月二十五日內國勸業博覽會事務局ヲ置キ內務省ト共ニ之ヲ管セシム十四年九月局ヲ廢シ殘務ヲ農商務省ニ屬ス
 - (三) 地租改正事務局 明治十四年六月三十日地租改正事務局ヲ廢シ其殘務ヲ本省ニ移シ七月四日

之ヲ租稅局ニ並ス

(四)日本銀行創立事務取扱所 明治十五年六月二十九日之ヲ設ク

(五)舊開拓使會計殘務整理委員詰所 明治十五年六月三十日之ヲ租稅局東京箱崎町出張所ニ設ク
十七年六月三十日之ヲ廢シ書記局中ニ開拓使事業報告編纂殘務掛ヲ置ク

(六)三池、佐渡、生野各工業所 明治十九年一月十三日三池、佐渡、生野三礦山ニ各工業所ヲ置ク

二 銀行局附屬署衙

銀行事務講習所 明治十五年三月二日之ヲ置ク蓋シ十年一月三十一日銀行學傳習所ヲ省中ニ開
キ銀行課ノ擔當トシ專ラ簿記法ヲ傳習セシメ十二年六月三十日之ヲ閉ツ後又神田錦町ニ簿記傳
習所ヲ設ケ是ニ至リテ改メテ銀行事務講習所ヲ其地ニ設ク十九年五月十六日文部省ニ轉屬ス

第三 派出員

會計局派出員 明治十四年九月十六日各稅關及各局出張所ニ會計局派出員ヲ置キ派出員ハ會計
局長ノ命令ニヨリ稅關及各局出張所ノ會計即チ雜收入經費ニ係ル一切ノ事務ハ成規定例ニ基キ
調理スルモノトス而シテ同派出員廢止ノ期日ニ關シテハ未ダ詳ナラスト雖モ蓋シ各稅關ニ於ケ
ルモノハ十七年七月四日稅關事務章程並分掌規程ヲ定メ分科ノ一トシテ會計科ヲ設置シ經費及
財產ニ屬スル事項等ヲ掌ラシムルニ及ヒテ廢止セラレ又各局出張所ニ於ケルモノハ當該出張所
ノ廢止ニ伴ヒテ自ラ消滅ニ歸シタルモノナラン

第三款 第三期

第一項 管務

明治十九年二月二十六日勅令第二號大藏省官制ニ於テ本省ノ管掌事務ヲ規定シ大藏大臣ハ歲入
歲出租稅、國債、貨幣及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ地方ノ財務ヲ監督ストセリ

二十三年六月二十四日勅令第六號大藏省官制ニ於テハ大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出
納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村ノ財務ヲ監督スルモノト
シ二十四年七月二十四日發布八月十六日施行ノ勅令第八十九號大藏省官制モ亦同様ノ規定ヲ設
ケリ

二十六年十月三十日勅令第三百三十五號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正シ大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄
シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村及公共組合ノ財
務ヲ監督スルモノトシ十一月十日之ヲ施行ス

三十年四月二十一日勅令第二百二十號ノ改正官制並ニ三十一年十月二十二日勅令第二百六十九號
ニヨリ改正シ十一月一日施行シタル官制モ亦同様ノ規定ヲ存ス

第二項 分掌

第一目 諸局ノ廢置

明治十九年二月二十六日勅令第二號各省官制通則ハ各省ニ大臣官房、總務局、會計局ノ一房二局ヲ
置クヘキコトヲ規定シ同日勅令同號ノ大藏省官制ハ本省ニ主稅、關稅、主計、出納、國債、金庫、銀行、預金

記録ノ九局ヲ置ク而シテ從來本省中ノ一局タリシ造幣印刷ノ二局ハ特別ノ一局トシテ本省ニ附屬シ印刷局ハ三十一年十月内閣ニ屬セリ

二十三年三月二十七日勅令第五十號ヲ以テ各省官制通則ヲ改メ各省ニ大臣官房總務局ノ一房一局ヲ置クヘキコトヲ規定シ六月二十四日勅令第六號ノ改正大藏省官制ハ本省ニ主計主稅關稅出納國債銀行預金會計ノ八局ヲ置ク

二十四年七月二十四日勅令第八十一號ヲ以テ各省官制ノ一部ヲ修正シ總務局ヲ廢シテ其事務ヲ大臣官房ニ移シ同日勅令第八十九號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正シ本省ニ主計主稅國債監査預金ノ五局ヲ置ク

二十六年十月三十日勅令第二百二十二號ヲ以テ各省官制通則ヲ改正シ各省ニ大臣官房ヲ置キ同日大藏省官制ヲ改正シ本省ニ主計主稅國債ノ三局ヲ置ク

三十年四月改正ノ大藏省官制ハ本省ノ分掌ヲ改メテ主計主稅理財監督ノ四局トス大臣官房故ノ如シ

三十一年十月改正ノ大藏省官制ハ本省ノ分掌ヲ改メテ主計主稅理財ノ三局トス大臣官房故ノ如シ然ルニ越エテ三十三年四月二十六日勅令第六十一號ヲ以テ各省官制通則ノ一部ヲ修正シ各省ニ總務局ヲ設置ス

第二目 諸局ノ管務

第一 明治十九年二月制定ノ各省官制通則及大藏省官制ハ官房及各局ノ管掌事務ヲ規定シテ左

ノ如クス

- 一 大臣官房 大臣官房ハ機密文書ヲ掌リ大臣次官ノ官印及省印ヲ管守シ大臣親展ノ文書機密事務所部官吏ノ進退身分ニ關スル事務及大臣ニ屬スル一切ノ事務ヲ掌ル
- 二 總務局 總務局ハ省務ノ全部ヲ統轄シ局中文書課往復課報告課傳票課監督課備荒儲蓄課及整理課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
 - 文書課 省中各局成案ノ回議ヲ審査シ諸文案ヲ起草スル事ヲ掌ル
 - 往復課 凡テ本省ニ到達スル公文書類及成案文書ヲ接受シ竝ニ發送ノ事ヲ掌ル
 - 報告課 各局課ニ就キ統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調製シテ大臣ノ査閱ニ供シ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スル事ヲ掌ル
 - 傳票課 國庫金ノ支出傳票ノ事ヲ掌ル
 - 監督課 保護會社ノ會計ヲ監督シ及官鑛工業ノ景況等ヲ調査スル事ヲ掌ル
 - 備荒儲蓄課 中央及府縣ノ備荒儲蓄金穀ニ關スル事ヲ掌ル
 - 整理課 諸貸付金取立ノ事ヲ掌ル
- 三 會計局 會計局ハ本省及所轄廳費ノ豫算決算省中ノ會計事務及所轄ノ地所建物ニ關スル事務ヲ掌リ局中出納課檢查課及用度課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
 - 出納課 本省及所轄廳費ノ豫算決算金錢ノ出納諸帳簿ノ整頓竝ニ計算表ノ調整ヲ掌ル
 - 檢查課 金錢出納ノ當否及各般ノ證書ヲ檢查スル事ヲ掌ル
 - 用度課 所轄ノ地所建物其他一切ノ需用品ニ關スル事務ヲ掌ル

四 主稅局 調査課 地租課 酒稅課 印紙稅課 雜種稅課 地方稅課 監査課 計算課 徵稅費課 及統計課ヲ
置キ其事務ヲ分掌セシム

調査課 稅則ノ執行ニ關スル事ヲ掌ル

地租課 地租ニ關スル事ヲ掌ル

酒稅課 酒造稅等ニ關スル事ヲ掌ル

印紙稅課 諸印紙稅等ニ關スル事ヲ掌ル

雜種稅課 諸種ノ雜稅ニ關スル事ヲ掌ル

地方稅課 地方稅ニ關スル事ヲ掌ル

監査課 府縣稅務監査ノ事ヲ掌ル

計算課 諸稅計算ノ事ヲ掌ル

徵稅費課 府縣徵稅費ニ關スル事ヲ掌ル

統計課 租稅ニ關スル諸統計ノ事ヲ掌ル

五 關稅局 常務課 調査課 及製表課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

常務課 海關稅諸規則ノ執行ニ關スル事ヲ掌ル

調査課 内外物品ノ市價及海關稅率ノ當否調査ノ事ヲ掌ル

製表課 貿易ニ關スル諸表編製ノ事ヲ掌ル

六 主計局 主簿課 總豫算決算課 歲入課 歲出第一課 歲出第二課 地方財務課 官有財產物品會計課
雜種金課 及調査課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

主簿課 歲入歲出ノ原簿、日記簿、補助簿等登記ノ事ヲ掌ル

總豫算決算課 國庫總體ノ歲入歲出總算書及決算報告書調製ノ事ヲ掌ル

歲入課 各廳所屬歲入ノ豫算決算及收入調理ノ事ヲ掌ル

歲出第一課及第二課 各廳歲出ノ豫算決算及支出調理ノ事ヲ掌ル

地方財務課 地方費ニ關スル收入支出ノ事ヲ掌ル

官有財產物品會計課 政府所有ノ財產及各廳物品出納調理ノ事ヲ掌ル

雜種金課 起業基金、中山道鐵道基金、其他各種別途金ノ事ヲ掌ル

調査課 各廳及府縣ノ會計規程及支給法ニ關スル事ヲ掌ル

七 出納局 配賦課 準備金課 及監査課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

配賦課 國庫金運轉配賦ノ事ヲ掌ル

準備金課 準備金ニ關スル事ヲ掌ル

監査課 金庫、國庫金取扱所現金支拂所監査ノ事ヲ掌ル

八 國債局 公債課 恩給課 及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

公債課 諸公債、紙幣、證券等ニ關スル事ヲ掌ル

恩給課 文武官其他ノ恩給年金等ニ關スル事ヲ掌ル

計算課 簿記計算整理ノ事ヲ掌ル

九 金庫局 主金課 收支課 及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

主金課 金庫ノ開閉現金ノ出納及國庫金取扱所現金支拂所管理ノ事ヲ掌ル

- 收支課 各應經費金ノ支拂及納付金ノ受入損傷紙幣交換ノ事ヲ掌ル
 - 計算課 簿記計算整理ノ事ヲ掌ル
 - 十 銀行局 常務課調査課及報告課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
常務課 各銀行營業上ニ關スル事ヲ掌ル
 - 調査課及報告課 各銀行ノ景況ニ就キ統計報告ノ事ヲ掌ル
 - 十一 預金局 勸查課收支課及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
勸查課 各種預金ニ關スル運用利殖等ノ事ヲ掌ル
 - 收支課 各種預金ノ出納ニ關スル事ヲ掌ル
 - 計算課 各種預金ノ計算簿記ノ事ヲ掌ル
 - 十二 記録局 編輯課及照查課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
編輯課 省中一切ノ諸公文原書及書籍ヲ保管スル事ヲ掌ル
 - 照查課 各種公債證書紙幣及大藏省證券ノ押印又ハ消印ノ事ヲ掌ル
- 第二 明治二十三年三月ノ各省官制通則及同六月ノ大藏省官制ハ官房及各局ノ管掌事務ヲ規定シテ次ノ如クス
- 一 大臣官房 大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 機密文書ニ關スルコト
 - 二 機密事務ニ關スルコト
 - 三 官吏ノ進退身分ニ關スルコト

- 四 大臣ノ官印及省印ヲ管守スルコト
 - 二 總務局 本省中省務ノ全部ヲ統轄スル爲メニ總務局ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム
 - 一 各局ノ成案ヲ審査シ及公文ヲ起草スルコト
 - 二 公文書類及成案文書ヲ接受發送スルコト
 - 三 統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調整シテ大臣ノ査閱ニ供シ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スルコト
 - 四 本省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存スルコト
 - 五 大藏省所管ノ收入經費及特別會計ノ計算書下検査ニ關ハル事項
 - 六 大藏省所屬出納官吏ノ身元保證及損失金辨償ニ關スル事項
 - 七 大藏省所管營造物ノ監督ニ關スル事項
 - 八 政府ノ特別資金ニ關スル事項
 - 九 貨幣制度ニ關スル事項
 - 十 訴訟ニ關スル事項
 - 十一 保護會社會計ノ監督ニ關スル事項
 - 十二 外國文書ノ翻譯ニ關スル事項
- 三 主計局 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 總豫算總決算ニ關スル事項
 - 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項

- 三 仕拂豫算ノ檢視ニ關スル事項
- 四 歳入歳出現計書ノ調製ニ關スル事項
- 五 主計簿ノ登記ニ關スル事項
- 六 豫備金支出並報告ニ關スル事項
- 七 定額繰越過年度支出ノ承認及定額戻入年度開始前現金支出ノ檢視ニ關スル事項
- 八 收入支出ノ科目並報告ニ關スル事項
- 九 出納官吏ノ監督ニ關スル事項
- 十 出納官吏ノ身元保證ニ關スル事項
- 十一 國庫ヨリ下付スル金額ニ對シ府縣市町村ヨリ支出スヘキ金額ノ認可ニ關スル事項
- 十二 物品會計ニ關スル事項
- 四 主稅局 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 内國稅ノ賦課ニ關スル事項
 - 二 内國稅ノ徵收ニ關スル事項
 - 三 内國稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 四 土地臺帳ニ關スル事項
 - 五 内國稅收入官吏ノ監督ニ關スル事項
 - 六 内國稅徵收費ノ仕拂豫算ニ關スル事項
 - 七 内國稅ノ收入計算書及徵收書ノ計算書下検査ニ關スル事項

- 八 印紙類ノ出納命令ニ關スル事項
- 九 府縣稅市町村稅ニ關スル事項
- 五 關稅局 關稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 海關稅則及關稅諸規則ノ施行ニ關スル事項
 - 二 海關稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 三 海關稅及稅關諸收入ノ計算書下検査ニ關スル事項
 - 四 海關稅率ノ調査ニ關スル事項
 - 五 外國貿易ノ形況調査及製表ニ關スル事項
 - 六 保稅借庫及稅關倉庫ニ關スル事項
 - 七 海外貿易ノ船舶及納稅未濟品運漕ノ車艇取締ニ關スル事項
 - 八 特別輸出港ニ航行スル外國船雇入ニ關スル事項
 - 九 稅關ノ地所建物船舶其他ノ物件ニ係ル調査ニ關スル事項
- 六 出納局 出納局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國庫金ノ管理出納ニ關スル事項
 - 二 國庫金ノ運轉配賦ニ關スル事項
 - 三 國庫出納簿ノ登記ニ關スル事項
 - 四 金庫ノ管理監督ニ關スル事項
 - 五 國庫ノ出納計算書調製ニ關スル事項

- 六 金庫出納設計算書ノ下検査ニ關スル事項
- 七 金庫ノ區域ニ關スル事項
- 七 國債局 國債局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公債ノ募集借入及償還ニ關スル事項
 - 二 公債原簿ノ登記ニ關スル事項
 - 三 紙幣公債證書大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
 - 四 豫備紙幣公債證書及大藏省證券用紙ノ出納命令ニ關スル事項
 - 五 國債計算書ノ調製ニ關スル事項
 - 六 年金恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
 - 七 公債元利金公債取扱手数料年金恩給及諸祿ノ仕拂豫算ニ關スル事項
 - 八 國債費ノ支拂命令調製ニ關スル事項
 - 九 國債恩給及諸祿計算書ノ下検査ニ關スル事項
 - 十 府縣郡ノ公債及市町村ノ負債ニ關スル事項
- 八 銀行局 銀行局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國立銀行私立銀行其他特別ノ法律ニ據リテ設立シタル銀行ノ監理ニ關スル事項
 - 二 日本銀行兌換銀行券及國立銀行紙幣ニ關スル事項
 - 三 國立銀行紙幣用紙ノ出納命令ニ關スル事項
- 九 預金局 預金局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 政府ニ於テ保管スル金錢證券ノ受渡ニ關スル事項
- 二 預金計算書ノ調製ニ關スル事項
- 三 預金及預金利子仕拂元金ノ運用ニ關スル事項
- 四 預金及預金利子仕拂元金ニ屬スル證券ノ保管及出納ニ關スル事項
- 五 預金簿ノ登記ニ關スル事項
- 六 預金利子ノ計算ニ關スル事項
- 七 預金利子仕拂元金ノ豫算決算調製ニ關スル事項
- 八 預金利子仕拂元金ノ仕拂命令ニ關スル事項
- 九 預金利子仕拂元金ノ收入ニ關スル事項
- 十 會計局 會計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 大藏省所管經費ニ屬スル豫定經費要求書仕拂豫算決算報告書ノ調製及定額戻入繰越過年度支出ニ關スル事項
 - 二 大藏省經費ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
 - 三 大藏省所管ノ收入ニ關スル事項
 - 四 大藏省所用ノ官有財産ニ關スル事項
 - 五 大藏省所用ノ物品保管及出納ニ關スル事項
 - 六 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル事項
 - 七 稅關經費ノ計算書下検査ニ關スル事項

第三 明治二十四年七月改正ノ各省官制通則並ニ大藏省官制ノ規定ニ依レハ官房及各局ノ管掌事務左ノ如シ

- 一 大臣官房 大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 二 機密文書ニ關スルコト
- 三 機密事務ニ關スルコト
- 四 官吏ノ進退身分ニ關スルコト
- 五 大臣ノ官印及省印ヲ管守スルコト
- 六 各局ノ成案ヲ審査シ及公文ヲ起草スルコト
- 七 公文書類及成案文書ヲ接受發送スルコト
- 八 統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調製シテ大臣ノ査閲ニ供シ統計ノ材料ヲ統計局ニ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スルコト
- 九 本省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存スルコト
- 十 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並ニ會計ニ關スルコト
- 十一 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スルコト
- 十二 大藏省所屬出納官吏ノ身元保證及損失金辨償ニ關スル事項
- 十三 訴訟及訴願ニ關スル事項
- 十四 主計局 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 總豫算總決算ニ關スル事項

- 一 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
- 二 仕拂豫算ノ檢視ニ關スル事項
- 三 國庫簿ノ登記ニ關スル事項
- 四 歳入歳出現計書ノ調製ニ關スル事項
- 五 豫備金支出ニ關スル事項
- 六 定額繰越過年度支出ノ承認及定額戻入年度開始前支出ノ檢視ニ關スル事項
- 七 收入支出ノ科目ニ關スル事項
- 八 國庫金ノ出納管理ニ關スル事項
- 九 國庫金ノ出納計算書ニ關スル事項
- 十 國庫金ノ出納計算書ニ關スル事項
- 十一 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
- 十二 金庫ノ管理監督ニ關スル事項
- 十三 貨幣ノ制度ニ關スル事項
- 十四 物品會計ニ關スル事項
- 十五 主稅局 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
 - 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 三 土地臺帳ニ關スル事項
 - 四 稅關輸出入ノ形況調査ニ關スル事項

- 五 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
- 六 印紙類ノ出納保管ニ關スル事項
- 七 府縣北海道及稅關ノ諸收入ニ關スル事項
- 八 府縣郡市町村ノ租稅ニ關スル事項
- 四 國債局 國債局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公債ノ募集借入及償還ニ關スル事項
 - 二 公債原簿ノ登記ニ關スル事項
 - 三 紙幣公債證書大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
 - 四 紙幣公債證書及大藏省證券用紙ノ出納保管ニ關スル事項
 - 五 國債計算書ノ調製ニ關スル事項
 - 六 年金恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
 - 七 公債元利金公債取扱手数料年金恩給及諸祿ノ仕拂豫算ニ關スル事項
 - 八 國債費ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
 - 九 政府ノ特別資金ニ關スル事項
 - 十 國債恩給及諸祿計算書ノ下檢査ニ關スル事項
 - 十一 府縣郡市町村ノ公債ニ關スル事項
- 五 監査局 監査局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 諸銀行ノ監理ニ關スル事項

- 二 日本銀行兌換銀行券及國立銀行紙幣ニ關スル事項
- 三 大藏省所管營造物ノ監督ニ關スル事項
- 四 大藏省所管出納官吏ノ計算書下檢査ニ關スル事項
- 五 保護會社會計ノ監督ニ關スル事項
- 六 國立銀行紙幣用紙ノ出納保管ニ關スル事項
 - 一 寄託金及供託物ノ出納ニ關スル事項
 - 二 寄託金及預金局特別資金ノ收支運用ニ關スル事項
 - 三 寄託金及預金局特別資金計算書ノ調製ニ關スル事項
 - 四 寄託金利子仕拂元金ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
- 第四 明治二十六年十月改正ノ各省官制通則竝ニ大藏省官制ハ官房及各局ノ管掌事務ヲ規定シテ左ノ如クス
 - 一 大臣官房 大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 機密ニ屬スル事項
 - 二 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
 - 三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
 - 四 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
 - 五 統計報告ノ調製ニ關スル事項

- 六 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
- 七 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算並ニ會計ニ關スル事項
- 八 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
- 九 銀行ニ關スル事項
- 十 貨幣ニ關スル事項
- 十一 保護鐵道會社ノ會計監督ニ關スル事項
- 十二 印紙類ノ出納保管ニ關スル事項
- 二 主計局 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 總豫算總決算ニ關スル事項
 - 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
 - 三 仕拂豫算ニ關スル事項
 - 四 國庫簿ノ登記ニ關スル事項
 - 五 歳入歳出現計書ノ調製ニ關スル事項
 - 六 豫備金支出ニ關スル事項
 - 七 定額繰越ノ承認及定額戻入、年度開始前支出ニ關スル事項
 - 八 收入支出ノ科目ニ關スル事項
 - 九 國庫ノ出納管理監督ニ關スル事項
 - 十 國庫ノ出納計算書ニ關スル事項

明治四十二年第一号

- 十一 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
- 十二 物品會計ニ關スル事項
- 十三 預金、保管物及供託物ニ關スル事項
- 三 主稅局 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
 - 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 三 民有地地種目變換ニ關スル事項
 - 四 土地臺帳ニ關スル事項
 - 五 稅關輸出輸入ノ狀況調査ニ關スル事項
 - 六 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
 - 七 大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項
 - 八 府縣郡市町村其他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項
 - 四 國債局 國債局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國債ノ募集、借入及償還ニ關スル事項
 - 二 國債簿ノ登記ニ關スル事項
 - 三 紙幣、國債證券、大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
 - 四 紙幣、國債證券及大藏省證券用紙ノ出納保管ニ關スル事項
 - 五 國債計算書ノ調製ニ關スル事項

- 六 年金、恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
 - 七 國債元利金、國債取扱手数料、年金恩給及諸祿ノ仕拂豫算ニ關スル事項
 - 八 國債費ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
 - 九 備荒儲蓄金ニ關スル事項
 - 十 國債、恩給及諸祿計算書ノ下検査ニ關スル事項
 - 十一 府縣都市町村其他公共組合ノ公債ニ關スル事項
- 第五 明治三十年四月改正ノ大藏省官制ハ各局ノ管掌事務ヲ規定シテ左ノ如クス
- 一 大臣官房 故ノ如シ
 - 二 主計局 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 總豫算、總決算ニ關スル事項
 - 二 特別會計ノ豫算、決算ニ關スル事項
 - 三 仕拂豫算ニ關スル事項
 - 四 主計簿ノ登記ニ關スル事項
 - 五 歳入歳出現計書ノ調製ニ關スル事項
 - 六 豫備金支出ニ關スル事項
 - 七 定額繰越ノ承認及定額戻入、年度開始前支出ニ關スル事項
 - 八 收入支出ノ科目ニ關スル事項
 - 九 金錢及物品會計ノ統一ニ關スル事項

- 十 府縣都市町村其他公共組合ノ歳計ニ關スル事項
- 三 主稅局 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
 - 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 三 民有地地種目變換ニ關スル事項
 - 四 土地臺帳ニ關スル事項
 - 五 稅關輸出輸入ノ調査ニ關スル事項
 - 六 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
 - 七 保稅倉庫ニ關スル事項
 - 八 業煙草專賣ニ關スル事項
 - 九 大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項
 - 十 府縣都市町村其他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項
- 四 理財局 理財局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國資ノ運用出納ニ關スル事項
 - 二 國庫ノ出納管理ニ關スル事項
 - 三 國庫ノ出納計算書ニ關スル事項
 - 四 國債ノ募集借入、償還及利拂ニ關スル事項
 - 五 國債簿及國庫簿ノ登記ニ關スル事項

- 六 貨幣ニ關スル事項
- 七 紙幣國債證券、大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
- 八 國債計算書調製ニ關スル事項
- 九 年金恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
- 十 備荒儲蓄ニ關スル事項
- 十一 國立銀行紙幣交換基金ニ關スル事項
- 十二 預金保管物及供託物ニ關スル事項
- 十三 一般金融ニ關スル事項
- 十四 府縣郡市町村其他公共組合ノ公債ニ關スル事項
- 五 監督局 監督局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 銀行ノ管理監督ニ關スル事項
 - 二 金庫ノ監督ニ關スル事項
 - 三 諸計算書ノ下検査ニ關スル事項
 - 四 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
 - 五 地方財務ノ監督ニ關スル事項
 - 六 會社債券ニ關スル事項
 - 七 鐵道補助金ニ關スル事項
 - 八 本省所管造營物ノ監督ニ關スル事項

第六 明治三十一年十月二十二日改正ノ大藏省官制並ニ三十三年四月一部修正ノ各省官制通則ニ依レハ各局ノ管掌事務ハ左ノ如シ

- 一 大臣官房
 - (イ)三十三年四月以前 故ノ如シ
 - (ロ)三十三年四月以後
 - 一 機密ニ屬スル事項
 - 二 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
 - 三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
- 二 總務局(三十三年四月以後)
 - 一 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
 - 二 統計報告ノ調製ニ關スル事項
 - 三 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
 - 四 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並ニ會計ニ關スル事項
 - 五 會計ノ監査ニ關スル事項
 - 六 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
- 三 主計局
 - 一 總豫算總決算ニ關スル事項
 - 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項

- 三 仕拂豫算ニ關スル事項
 - 四 主計簿ノ登記ニ關スル事項
 - 五 歳入歳出現計書ノ調製ニ關スル事項
 - 六 諸計算書ノ下検査ニ關スル事項
 - 七 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
 - 八 豫備金支出ニ關スル事項
 - 九 定額繰越ノ承認及定額戻入年度開始前支出ニ關スル事項
 - 十 收入支出ノ科目ニ關スル事項
 - 十一 金錢及物品會計ノ統一ニ關スル事項
 - 十二 府縣郡市町村其他公共組合ノ歳計ニ關スル事項
- 四 主税局
- 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
 - 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 三 民有地地種目變換ニ關スル事項
 - 四 土地臺帳ニ關スル事項
 - 五 稅關輸出輸入ノ調査ニ關スル事項
 - 六 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
 - 七 保稅倉庫ニ關スル事項

五 理財局

- 八 大藏省所管外諸稅收入ニ關スル事項
 - 九 府縣郡市町村其他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項
- 五 理財局
- 一 國資ノ運用出納ニ關スル事項
 - 二 國庫ノ出納管理ニ關スル事項
 - 三 國庫ノ出納計算書ニ關スル事項
 - 四 國債ノ募集借入償還及利拂ニ關スル事項
 - 五 國債簿及國庫簿ノ登記ニ關スル事項
 - 六 貨幣ニ關スル事項
 - 七 紙幣國債證券大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
 - 八 國債計算書ノ調製ニ關スル事項
 - 九 年金恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
 - 十 備荒儲蓄ニ關スル事項
 - 十一 金庫ノ監督ニ關スル事項
 - 十二 銀行ノ管理監督ニ關スル事項
 - 十三 國立銀行紙幣交換基金ニ關スル事項
 - 十四 預金保管物及供託物ニ關スル事項
 - 十五 地方財務ノ監督ニ關スル事項

- 十六 會社債券ニ關スル事項
- 十七 一般金融ニ關スル事項
- 十八 府縣郡市町村其他公共組合ノ公債ニ關スル事項

第三目 諸局ノ分課

- 第一 明治十九年二月制定ノ各省官制通則並ニ大藏省官制ハ本省諸局ノ分課ヲ定メテ次ノ如クス
 - 一 大臣官房
 - 二 總務局 文書課 往復課 報告課 傳票課 監督課 備荒儲蓄課 整理課
 - 三 會計局 出納課 檢査課 用度課
 - 四 主稅局 調查課 地租課 酒稅課 印紙稅課 雜種稅課 地方稅課 監査課 計算課
徵稅費課 統計課
 - 五 關稅局 常務課 調查課 製表課
 - 六 主計局 主簿課 總豫算決算課 歲入課 歲出第一課 歲出第二課 地方財務課 官有財產物品會計課 雜種金課 調查課
 - 七 出納局 配賦課 準備金課 監査課
 - 八 國債局 公債課 恩給課 計算課
 - 九 金庫局 主金課 收支課 計算課

明治十九年二月制定ノ各省官制通則並ニ大藏省官制ハ本省諸局ノ分課ヲ定メテ次ノ如ク

- 十 銀行局 常務課 調查課 報告課
- 十一 預金局 勘査課 收支課 計算課
- 十二 記錄局 編輯課 照査課
- 第二 明治二十三年六月三十日大藏省各局分課規程ヲ制定ス

- 一 大臣官房
- 二 總務局 文書課 監査課 貨幣課 特別資金課
- 三 主計局 總豫算決算課 歲入歲出課 監督課 特別會計課
- 四 主稅局 直稅課 間稅課 徵收課 徵稅費課 庶務課
- 五 關稅局 常務課 計算課 調查課 製表課
- 六 出納局 主簿課 配賦課 監査課
- 七 國債局 公債課 計算課 恩給課
- 八 銀行局 常務課 調查課 報告課
- 九 預金局 收支課 計算課 運用課 調查課
- 十 會計局 調理課 收入課 用度課
- 第三 明治二十四年八月十六日大藏省房局分課規程ヲ定ム
 - 一 官房 第一課 第二課 第三課 第四課
 - 二 主計局 豫算決算課 國庫課 監査課 貨幣課
 - 三 主稅局 直稅課 間稅課 海關稅課 徵收課 計算課

- 四 國債局 公債課 恩給課 特別資金課 計算課 照査課
- 五 監査局 銀行課 監督課 検査課 庶務課
- 六 預金局 收支課 計算課
- 第四 明治二十六年十一月八日大藏省分課規程ヲ定メテ次ノ如クス
 - 一 大臣官房 第一課 第二課 第三課 第四課
 - 二 主計局 豫算決算課 國庫課 監督課
 - 三 主稅局 內國稅課 海關稅課 徵收課
 - 四 國債局 公債課 恩給課 備荒儲蓄金課
- 明治二十八年九月七日並ニ二十九年四月十七日右分課規程中小改正ヲ爲ス
- 第五 明治三十年四月二十八日大藏省分課規程ヲ左ノ如ク改正ス
 - 一 大臣官房 第一課 第二課 第三課 第四課
 - 二 主計局 豫算決算課 司計課
 - 三 主稅局 內國稅課 關稅課 葉煙草專賣課 經理課
 - 四 理財局 國庫課 國債課
 - 五 監督局 銀行課 監督課
- 明治三十一年十一月十日右規程中ヲ改正シ大臣官房第四課ノ事務ノ一部ヲ第三課ニ移ス
- 第六 明治三十一年十一月一日大藏省分課規程ヲ改正スルコト左ノ如シ
 - 一 大臣官房 第一課 第二課 第三課 第四課

- 二 主計局 豫算決算課 司計課
- 三 主稅局 內國稅課 關稅課 經理課
- 四 理財局 國庫課 國債課 銀行課
- 第七 明治三十三年五月十六日日本省分課規程ヲ改正シテ次ノ如クス
 - 一 大臣官房
 - 二 總務局 文書課 會計課
 - 三 主計局 豫算決算課 司計課
 - 四 主稅局 內國稅課 關稅課 經理課
 - 五 理財局 國庫課 國債課 銀行課

第三項 職員

明治十九年二月ノ各省官制通則ニヨレハ各省ニ大臣ノ外次官秘書官書記官局長參事官局次長試補屬等ノ職員ヲ置クトシ大藏省官制ニヨレハ特ニ本省ニ主計官及主稅官ヲ置ク但シ各局ニ局長アレハ局次長ヲ置カス局次長アレハ局長ヲ置カサルコトアルヘシト規定ス

一 大臣 其主任ノ事務及今後法律命令ニ依リ主任ニ屬スル事務ニ付其責ニ任ス大臣事故アルトキハ臨時命ヲ承ケ他ノ大臣共事務ヲ代理スルコトアルヘシ法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外大臣ハ其職務ヲ次官ニ代理セシメ又ハ其職務ノ一部ヲ次官ニ委任スルコトヲ得大臣ハ主任事務ニ付警視總監北海道廳長官府知事縣令ヲ監督シ又

所部ノ官吏ヲ監督ス

- 二 次官 大臣ノ命ヲ承ケ前掲ノ範圍内ニ於テ大臣ノ職務ヲ代理シ又ハ大臣ノ指命シタル範圍内ニ於テ委任ヲ受ク次官事故アルトキハ大臣共省中ノ官吏ヲシテ臨時其職務ヲ代理セシムルコトヲ得次官ハ又總務局長トナリ命ヲ大臣ニ承ケ各局課ノ事務ヲ監督シ省務ノ全部ヲ整理スルノ責ニ任ス
 - 三 秘書官 大臣ニ專屬シテ官房ノ事務ヲ掌ル秘書官ハ又臨時命ヲ承ケ書記官及各局課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ
 - 四 書記官 大臣又ハ總務局長ノ命ヲ承ケ各局ノ成案ヲ審査シ文書ヲ掌リ又ハ總務局中諸課ノ長ヲ兼テ課務ヲ掌理ス
 - 五 局長 大臣又ハ總務局長ノ命ヲ承ケテ其主務ヲ掌理シ及各課ノ事務ヲ指揮ス
 - 六 局次長 局長ノ事務ヲ佐ク若シ局長ナキトキ又ハ局長事故アルトキハ大臣ノ命ニ依リ局長ノ事務ヲ掌理ス局長又ハ局次長ハ其主任ノ事務ニ付其職權ニ屬シ又ハ特別ノ委任ヲ受クルノ事項ハ之ヲ專行スルコトヲ得
 - 七 參事官 大臣又ハ次官ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル參事官ハ局課ノ事務ヲ兼任シ若クハ臨時命ヲ承ケテ其事務ヲ助クルコトアルヘシ
 - 八 試補 定期間大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習シ任官ヲ待ツモノトス
 - 九 屬 各上官ノ指揮ヲ承ケ書記書簿及計算ノ事ニ從フ
- 局中各課ニ課長一人ヲ置キ判任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ局長ニ承ク

十 主計官

主計局出納局國債局及金庫局ニ分屬シテ官金ノ管守出納並ニ簿記計算ノ事ヲ掌ラシム主計官ハ又各局ノ須要ニ從ヒ大臣ノ命ヲ承ケテ局中各課ノ長ヲ兼スルコトヲ得

十一 主稅官

主稅局關稅局ニ分屬シテ諸稅ニ關スル事務ヲ掌ラシム主稅官ハ又各局ノ須要ニ從ヒ大臣ノ命ヲ承ケテ局中各課ノ長ヲ兼スルコトヲ得

明治二十三年三月改正ノ各省官制通則ニヨレハ各省ニ大臣ノ外次官局長參事官秘書官書記官試補及屬ヲ置ク又六月改正ノ大藏省官制ニヨレハ主計局主稅局預金局及會計局ニ特ニ局次長ヲ置キ其他本省ニ主計官及主稅官ヲ置ク

一 大臣 其主任ノ事務及今後法律勅令ニ依リ主任ニ屬スル事務ニ付其責ニ任ス法律命令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外大臣ハ其職務ヲ次官ニ代理セシメ又ハ其職務ノ一部ヲ次官ニ委任スルコトヲ得次官事故アルトキハ大臣共省中ノ高等官ヲシテ臨時其職務ヲ代理セシムルコトヲ得大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府縣知事ヲ監督シ又所部ノ官吏ヲ統督ス

二 次官 命ヲ大臣ニ承ケ各局課ノ事務ヲ監督シ省務ノ全部ヲ整理スルノ責ニ任ス次官ハ又大臣ノ命ヲ承ケ前掲ノ範圍内ニ於テ大臣ノ職務ヲ代理シ又ハ大臣ノ指命シタル範圍内ニ於テ委任ノ事務ヲ處理ス

三 局長 大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス局長ハ又其主任ノ事務ニ付其職權ニ屬シ又ハ特別ノ委任ヲ受クルノ事項ハ之ヲ處理專行ス

四 局次長 局長ノ事務ヲ佐ク若シ局長ナキトキ又ハ局長事故アルトキハ大臣ノ命ニ依リ局長

ノ事務ヲ掌理ス

五 參事官 大臣又ハ次官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル參事官ハ又局課ノ事務ヲ兼任シ若クハ臨時命ヲ承ケ共事務ヲ助クルコトアルヘシ

六 秘書官 大臣ニ專屬シテ官房ノ事務ヲ掌ル秘書官ハ又臨時命ヲ承ケ各局ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

七 書記官 大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ大臣官房總務局又ハ各局ニ分屬シテ共事務ヲ掌リ且ツ課長ヲ兼ヌルコトヲ得

八 試補 定期間大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習シ任官ヲ待ツモノトス

九 屬 上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記及計算ノ事ニ從フ

十 主計官及主稅官 各局ニ分屬シテ共事務ヲ掌リ局中各課ノ長ヲ兼ヌルコトヲ得

明治二十四年七月右職制中局次長ヲ廢止シ次官秘書官書記官主計官及主稅官ニ關スル條項ヲ修正ス

一 次官 命ヲ大臣ニ承ケ省務ヲ整理シ各局課ノ事務ヲ監督ス

二 秘書官 大臣ニ專屬シテ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局ノ事務ヲ助ク

三 書記官 大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局ノ事務ヲ助ク

課長ハ大臣官房及局中各課ニ一人ヲ置キ奏任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充テ命ヲ上官ニ承ケ課務

ヲ掌理ス

四 主計官及主稅官 主計掛及主稅局ニ屬シテ共事務ヲ掌ル主計官ハ特ニ命ヲ承ケ各局ノ事務ヲ掌ルコトアルヘキモノトス

明治二十六年十月改正ノ官制通則ハ各省ニ大臣ノ外次官局長參事官秘書官書記官屬ヲ置キ大藏省官制ハ特ニ本省ニ主計官主稅官及技師ヲ置クモノトス

一 大臣 主任ノ事務ニ付其責ニ任ヌ又主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府縣知事ヲ監督ス大臣ハ又所部ノ官吏ヲ統督ス大臣事故アルトキハ法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外其職務ヲ臨時次官ニ代理セシムルコトヲ得

二 次官 大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督ス

三 局長 大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

四 參事官 大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル參事官ハ又其省ノ便宜ニ從ヒ局課ニ兼勤シ若クハ臨時命ヲ承ケ共事務ヲ助ク

五 秘書官 大臣ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ助ク

六 書記官 大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク

大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ奏任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官ニ承ケ課務ヲ掌理ス

七 屬 上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

八 主計官 主計局ニ主稅官ハ主稅局ニ技師ハ大臣官房ニ屬シテ共事務ヲ掌ル

明治二十九年四月十五日勅令第三百三十七號ヲ以テ大藏省官制ノ一部ヲ修正シ本省ニ新ニ鑑定官及鑑定官補ヲ置ク鑑定官ハ主稅局ニ屬シテ其事務ヲ掌リ鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定ニ關スル事務ニ從事スルモノトス

同年七月二十八日勅令第二百七十五號ヲ以テ大藏省官制ノ一部ヲ改正シ新ニ技手ヲ置キ建築ニ關スル事務ニ從事スルモノトス

明治三十年四月改正ノ大藏省官制ハ本省ニ特ニ主計官主稅官稅務監督官鑑定官技師鑑定官補及技手ヲ置ク

(一)主計官ハ主計局又ハ理財局ニ主稅官稅務監督官鑑定官ハ主稅局ニ技師ハ必要ニ依リ官房其他ニ屬シ其事務ヲ掌ル

(二)鑑定官補及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定建築ニ關スル各事務ニ從事ス

明治三十一年十月二十二日勅令第二百五十七號ヲ以テ各省官制通則中ヲ改正シ新ニ參與官ヲ設ケ大臣ノ命ヲ承ケ省務ニ參與スルモノトシ各局局長參事官書記官ノ職務中次官ノ命ヲ承ケテ事務ヲ掌理スルヲ罷ム

同日改正ノ大藏省官制ハ本省特設ノ職員ヲ改メテ專任鑑定官技師鑑定官補及技手ト爲シ鑑定官ハ主稅局ニ技師ハ必要ニ依リ官房其他ニ屬シ其事務ヲ掌リ鑑定官補及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定建築ニ關スル事務ニ從事スルモノトス

明治三十三年三月二十四日勅令第六十五號ヲ以テ大藏省官制中ヲ改正シ鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定ノ事務ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ建築又ハ電信ノ事務ニ從事スルモノトス

同年四月二十六日勅令第六百六十一號ヲ以テ各省官制通則中ヲ改正シ次官ヲ總務長官ト改稱シ參與官ヲ廢シテ官房長ヲ置ク

(一)總務長官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督シ及總務局ノ事務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

(二)官房長ハ機務ヲ管掌シ及大臣官房ノ事務ヲ指揮監督ス

明治三十五年三月二十七日勅令第七十八號ヲ以テ大藏省官制中ニ改正ヲ加ヘ技師鑑定官補及技手ヲ各專任トシ技師ノ所屬ヲ改メテ總務局其他トセリ

第四項 雜件

第一目 支 衙

第一 金庫局大阪出張所 前期ヨリ引續キ大阪ニ金庫局出張所アリシカ明治十九年二月制定ノ大藏省官制ハ其管掌事務ヲ定メテ大阪金庫現金ノ管守及日本銀行大阪支店(國庫金ニ屬スル部分)ノ管理ノ事ヲ掌ルモノトス尋テ二十三年四月一日ニ至テ之ヲ廢止ス

第二 主稅局築地出張所 明治十九年三月十六日築地稅關出張所トナシ二十六年十月築地橫濱稅關派出所トナシ三十年六月築地橫濱稅關監視署トナシ三十五年三月東京稅關支署トナセリ

第二目 附屬署衙

第一 三池鑛山局 明治十九年四月十六日閣令第六號ヲ以テ本局官制ヲ制定シ本局ハ大藏大臣

ノ管理ニ屬シ三池石炭採掘ノ事ヲ掌ルモノト爲シ局ニ事務長技術官屬等ノ職員ヲ置キ工業課運輸課營繕課製作課庶務課ニ分課シテ其事務ヲ掌理セシム同月二十二日大藏省令第十八號ヲ以テ各課ノ分掌規程ヲ定ム二十一年十二月三十一日ニ至テ本局ヲ廢止ス

第二 佐渡鑛山局 明治十九年四月十六日閣令第六號ヲ以テ本局官制ヲ制定シ本局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ採鑛ノ事ヲ掌ルモノトシ事務長技術官及屬等ノ職員ヲ置キ鑛場課製鑛課分析課機械課庶務課會計課營繕課ニ分課シテ其事務ヲ掌理セシム同月二十二日大藏省令第十八號ヲ以テ各課ノ分掌規程ヲ定ム二十二年三月三十一日閣令第十三號ヲ以テ本局ヲ廢止ス

第三 生野鑛山局 同上

第四 廣島鑛山 明治二十六年十月三十日勅令第四百十號ヲ以テ廣島鑛山官制ヲ定ム之ニ依ルトキハ廣島鑛山ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ廣島鑛山ノ事業經營ニ關スル事務ヲ掌リ管理長理事技術師技手ノ職員ヲ置ク三十一年十月二十二日勅令第二百九十四號ヲ以テ右官制中改正スル所アリ大藏大臣ノ管理ヲ離レテ農商務大臣ノ管理ニ屬ス

第五 臨時沖繩縣土地整理事務局 明治三十一年七月十四日勅令第四百十四號ヲ以テ臨時沖繩縣土地整理事務局官制ヲ制定ス之ニ依レハ本局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ沖繩縣土地整理ニ關スル一切ノ事務ヲ掌リ長官次官事務官書記技手ノ職員ヲ置キ沖繩縣知事ノ長官ヲ兼ネ那霸稅務管理局長其次長ヲ兼ヌルモノトス三十一年十月二十二日勅令第二百七十五號ヲ以テ右官制中ヲ改正シ那霸稅務管理局ニ在勤スル司稅官補其事務官ヲ兼任スルコトヲ改メテ司稅官ノ兼任トナシ三十二年二月一日勅令第二十四號ヲ以テ更ニ又其一部ヲ改正シ次長ヲ廢シ那霸稅務管理局長

ヲ事務官兼任トシ技師ヲ新置ス後三十五年十月三十一日勅令第二百四十三號ヲ以テ右官制ノ一部ヲ改正シ那霸稅務管理局長及同局司稅官ノ事務官兼任ヲ改メテ那霸稅務署長ノ兼任トス

第三目 制外組織

第一 貨幣制度調查會 明治二十六年十月十四日勅令第四百十三號ヲ以テ貨幣制度調查會規則ヲ制定ス之ニ依レハ貨幣制度調查會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ調査審議ス

- 一 近時金銀價格變動ノ原因及其一般ノ結果
- 一 近時金銀價格變動ノ我邦經濟上ニ及ホス影響
- 一 近時金銀價格ノ變動ハ我邦現行貨幣制度ヲ改正スヘキ必要アルヤ否若シ其必要アリトスルトキハ新ニ採用スヘキ貨幣本位並ニ其施行方法

而シテ其會長副會長及委員ハ高等行政官帝國大學教授帝國議會議員其他通貨ニ關シ學識經驗アルモノ、中ヨリ選定シ大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命セシカ二十八十二月五日勅令第四百六十二號ヲ以テ本會規則ヲ廢止ス

第二 臨時秩祿處分調查委員會及臨時秩祿處分調查局

一 臨時秩祿處分調查委員會 明治三十一年四月五日勅令第六十九號ヲ以テ臨時秩祿處分調查委員會規則ヲ制定ス其第一條ニ曰ク大藏省ニ臨時秩祿處分調查委員會ヲ設ケ大藏大臣ノ指揮監督ニ屬シ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法ノ執行ニ關スル事項ヲ調査セシムト而シテ其委員長ハ大藏次官ヲ以テ委員ハ內閣高等官二人內務省高等官一人大藏省高等官四人司法省高

等官二人ヲ以テ之ニ充テ委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命スルモノトス

二 臨時秩祿處分調査局 明治三十三年三月三十日勅令第二百二十四號ヲ以テ本局官制ヲ制定シ四月一日ヨリ之ヲ施行ス其第一條ニ曰ク臨時秩祿處分調査局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ臨時秩祿處分ニ關スル事務ヲ掌ルト而シテ局長、事務官、屬ノ職員ヲ置キ局長ハ大藏省勅任官ヲシテ之ヲ兼

ネシム四月十三日本局分課規程ヲ定メ第一課、第二課、第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第三 關稅訴願審査委員會 明治三十二年六月十二日勅令第二百四十九號ヲ以テ關稅訴願審査委員會規則ヲ制定ス本會ハ關稅法第六十九條ニ依ル委員會ニシテ會長ハ大藏次官、委員ハ大藏省高等官三人、帝國大學教授三人、農商務省高等官二人、司法省高等官一人ヲ以テ之ニ充テ委員ハ大藏大臣ノ奏請ニヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス特別ノ必要アル場合ニハ右定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第四 其他大藏省中ニ審議會、貨幣委員會、高等金融事項調査會及懲戒委員會等アリ

第三章 地方機關

第一節 內國稅務地方機關

第一款 內國稅務地方機關ノ第一期

第一項 一般內地

第一目 前期府藩縣

- 第一 管務 維新ノ初メニ當リテハ諸制未タ備ラス諸稅收納ノ事ノ如キモ府藩縣ニ於テ舊慣ニ從ヒ其事務ヲ司掌セリ
- 第二 分掌 其初メ府藩縣ニ於ケル事務處理ノ方法ハ各府藩縣其規ヲ一ニセス分課ノ稱呼亦紛洵セリ明治三年四月十二日之ヲ一定センカ爲メニ府縣廳分課定制ヲ定ム之ニ依ルトキハ府廳ニ審理、租稅出納管轄、府兵ノ五課ヲ置キ縣廳ニ審理、租稅出納管轄ノ四課ヲ置ク而シテ其ノ租稅課ニ於テハ戶籍、人口、租稅、勸農、開墾、鑛業、牧畜、山林、養蠶ノ事務並ニ之ニ關スル簿冊ノ點檢、文書ノ記錄等ヲ出納課ニ於テハ出納計算、用度、官錄、商業、倉庫ノ事務並ニ之ニ關スル簿冊ノ點檢、文書ノ記錄等ヲ管掌シ各課中更ニ掛ヲ置キテ分掌スル所アラシム同九月十日藩制ヲ頒布シ會計、軍事、刑法、學校、監察等ノ事務ヲ分掌セシム
- 第三 職員 府縣ニ知府、縣事、藩ニ知藩事アリ部下ノ諸吏ヲ指揮監督シテ行政事務ヲ司掌ス
- 第四 雜件

一 設置 維新ノ初メ地方行政ノ機關ハ頗ル複雑ニシテ其廢置分合亦實ニ頻繁ナリキ而シテ當時未タ全ク舊幕府ノ遺制ヲ打破スルニ至ラス諸藩ハ依然トシテ其重要ナル地方行政ノ機關ナリシナリ而シテ維新後ニ至リ從來ノ諸藩ノ外新ニ藩ノ設置セラレタルモノ少カラス例ヘハ明治元年正月二十四日犬山田邊新宮ノ三藩ヲ新設セルカ如シ然ルニ一時市中取締役所鎮臺裁判所等ノ設置セラレシハ是レ實ニ府縣ノ設置セラレハニ至レル淵源ナリトス例ヘハ慶應三年十二月十三日京都ニ市中取締役所ヲ置キ明治元年正月十三日京都ニ市中取締役所ヲ置キ明治元年正月十四日大阪ニ鎮臺ヲ置キ尋テ鎮臺ヲ大和及兵庫ニ増設セリ然ルニ同日二十二日大阪鎮臺ヲ廢シ代ユルニ大阪裁判所ヲ以テシ二月朔日大和鎮臺ヲ廢シテ大和鎮撫總督ヲ置キ二日兵庫鎮臺ヲ改メテ裁判所ト爲ス同十九日市中取締役所ヲ廢シテ京都裁判所ヲ改置ス其他裁判所ノ新設セラレタルモノハ二月六日長崎裁判所ノ新設ヲ始メトシ順次大津橫濱箱館笠松新潟府中佐渡三河等ノ諸裁判所ヲ置ク閏四月二十四日箱館京都ノ兩裁判所ヲ改メテ箱館府京都府ト爲シ二十五日笠松大津ノ兩裁判所ヲ改メテ笠松縣大津縣ト爲ス斯ノ如クニシテ從來ノ裁判所ハ漸次府又ハ縣ト改稱セラレタルノミナラス同日日田天草富岡ノ三縣ヲ置キ七月六日度會府ヲ置ケルヲ始メトシ爾來府縣ノ新設セラレタルモノ頗ル多シ而シテ此等ノ新設府縣ハ或ハ縣ヲ府ニ改メ或ハ府ヲ縣ニ改メ或ハ又藩ヲ廢シテ縣ヲ置キ或ハ府縣ノ名稱ヲ變改シ或ハ又其管轄區域ヲ變更セリ

明治元年四月二十一日江戶市中取締役所ヲ置キタリシカ五月十一日之ヲ廢シテ江戶府ヲ置キ尋テ之ヲ廢シ十九日市政社寺民政ノ三裁判所ヲ置ク七月十七日ニ至リテ其ノ市政裁判所ヲ廢シテ東京府ヲ置ク之ヲ要スルニ明治元年閏四月以降地方ノ行政ハ府藩縣ノ三治ヲ形成セシナリ其他府藩

縣ノ外往々ニシテ鎮撫使民政局巡察使按察使府等ヲ開設セルコトアリト雖モ是等ハ殆ト例外ニ屬シ府藩縣ノ三機關ハ實ニ其最重要ナル機關タリシナリ

二 監督 明治二年五月八日各官府縣處務條規ヲ定メ各官府縣ノ例外發給ニ係ル金穀ハ會計官ノ認可ヲ得ルニ非レハ則チ度支スルヲ許サス又臨時會計官員ヲ各官府縣ニ派遣シテ其出納ヲ監視シ簿書ヲ點檢ス七月二十七日府縣職務章程ヲ定メ擅ニ租稅ノ定額ヲ增加シ若クハ減下シ或ハ私ニ租稅ヲ蠲除スル等ハ嚴ニ之ヲ禁止シ舊慣ノ課法妥當ナラス或ハ天災ニ罹ル有ラハ詳細ニ具狀シ大藏省ニ稟候セシメ檢稻ノ如キハ從來ノ陋習ニヨラス公平ニ之ヲ施行セシム而シテ府縣部分ニ關スル經費ノ定額ヲ除クノ外ハ租稅ノ收期ニ照シテ之ヲ大藏省ニ納致スヘク決シテ私ニ金穀ヲ官廳ニ貯蓄スルヲ許サス四年正月二十四日諸藩ニ令シテ租稅ノ課法ヲ改メ賦課ヲ増減スル等ハ必ス稟議シテ之ヲ施行セシム二十八日諸藩ノ私ニ金穀ヲ管轄人民ニ課徵スルコトヲ嚴禁ス

第二目 後(府縣)

第一 管務 明治四年七月十四日藩ヲ廢シテ縣トナスヤ府縣ヲシテ租稅ヲ徵收シ之ヲ上納セシム十一月二十七日縣知條例ヲ頒布シ縣令及權令ハ管轄内ノ人民ヲ管理保護シ政府ノ告令條規ヲ遵奉シテ之ヲ施行シ且ツ租稅ヲ賦課シ徭役ヲ課シ刑賞ヲ判決スルモノトス

第二 分掌 明治四年十月二十八日府縣ニ租稅庶務聽訟ノ三課ヲ置キ十一月二十七日府縣ニ庶務聽訟租稅出納ノ四課ヲ改置ス租稅課ニ於テハ管轄内ノ正租雜稅ヲ徵收シ豐凶ヲ省檢シ開墾漕運植藝漁獵山林堤防營繕社會等ヲ管理ス出納課ニ於テハ縣廳ノ收入支出ヲ計査シ金穀ヲ大藏省

ニ納進シ官廳用度ノ計算ヲ明ニシ官祿旅費若クハ堤防修理費等一切ノ度支ヲ掌ルモノトス八年十一月三十日分課ヲ改メテ第一課庶務第二課勸業第三課租稅第四課警保第五課學務第六課出納ノ六課トス

第三 職員 府ニ府知事アリ縣ニ縣令アリテ部下ノ諸吏ヲ指揮監督シテ行政事務ヲ司掌セリ

第四 雜件

一 廢藩置縣 明治四年七月十四日藩ヲ廢シテ縣ト爲スモノ二百六十一之ヲ現在ノ縣四十一ト通算シテ實ニ三百二縣タリ

二 郡縣確定 同年十一月二十二日ニ至リ全國ヲ畫シテ三府七十二縣ト爲ス郡縣ノ制此ニ至テ定マル

第二項 北海道

第一目 前期

第一 管務 明治元年四月十二日箱館裁判所ヲ設ケ蝦夷地開拓ノ事務ヲ管掌セシム同十七日蝦夷地開拓ノ方法ヲ箱館裁判所總督ニ指示シ其租稅ヲ舉ケテ開拓費ニ供セシム

第二 雜件

一 開設改稱及廢止 明治元年四月十二日箱館裁判所ヲ設置シ同四月二十四日之ヲ箱館府ト改稱シ二年七月二十四日箱館府ヲ廢ス蓋シ是月開拓使ヲ置クヲ以テナリ

二 署衙 明治元年四月十二日應ヲ五稜郭ニ開ク

第二目 後期

第一 管務 明治二年七月八日開拓使ヲ置キ北海道開拓事務ヲ管掌セシム隨テ北海道ニ於ケル諸稅徵收ノ事ヲ管ス三年閏十月九日東京府所轄北見花咲野付三郡ヲ管ス四年八月七日樺太開拓使ヲ置ス(三年二月十三日開設)同二十日各縣及華族士族寺院ノ分掌セル北海道ノ土地ハ悉ク之ヲ開拓使ノ統轄トス八年八月二十二日樺太嶋ヲ露國久里流諸嶋ト交換ス十月二十日開拓使久里流諸嶋ヲ管ス

第二 分掌 明治六年六月三日日本應ニ六局ヲ置キ局ニ諸課ヲ設ク庶務局(受付課職務課記錄課編輯課外事課民事局租稅課勸業課戶籍課驛遞課廻漕課會計局檢査課出納課貸附課用度課工業局(土木課營繕課勸工課物產局鑛山課博物課製物課刑法局(斷刑課聽訟課囚獄課警邏課學校事務課教授課女學課)病院(事務課教授課主治課是ナリ)八年十一月二十五日日本應ハ局ヲ改メテ記錄民事會計工業物產學務刑法ノ七局トス十二月二十五日更ニ各局課ヲ分テ記錄局(公文受付履歷考査編輯外事民事局勸業地理戶籍驛遞警察會計局檢査出納租稅貸附用度統計工業局(土木營繕物產局鑛山製煉博物學務局(督學理事)刑法局(斷刑聽訟囚獄)トス

第三 雜件

一 開設 明治二年七月八日開拓使ヲ置ク
二 署衙 明治二年七月八日署ヲ民政部省內ニ置キ尋テ太政官內ニ移ス三年二月十日東京本廳ヲ廢シ函館出張所ヲ以テ本廳ト爲ス四年六月朔日本應ヲ札幌ニ置キ函館ヲ以テ出張廳ト爲ス

三 支衙

(一)開拓使支應 明治二年九月晦日開拓使出張所ヲ函館ニ置ク三年二月十日東京本應ヲ廢シ出張所ヲ東京小網町ニ設ケ函館出張所ヲ本應トス四年六月朔日本應ヲ札幌ニ置キ函館ヲ以テ出張應ト爲ス八月二十五日小網町東京出張所ヲ芝増上寺内ニ移ス五年九月十四日支應ヲ函館根室宗谷浦河樺太ニ置ク六年二月二十五日宗谷支應ヲ留萌郡ニ移シ留萌支應ト稱ス五月九日支應ニ庶務民事會計刑法ノ四課ヲ置ク但函館樺太支應ニハ別ニ外事課ヲ置ク六月三日東京出張所ノ分課ヲ定メ庶務會計農業工業翻譯輪漕勸學ノ七課ト爲ス七年五月十四日浦河支應ヲ廢シ其事務ヲ札幌本應ニ竝ス八年三月十二日留萌支應ヲ廢シ其事務ヲ本應ニ竝ス八月二十二日樺太嶋ヲ露國久里流諸島ト交換セルニ由リ十一月樺太支應ヲ廢ス

(二)郡出張所 明治五年九月十四日各郡ニ郡出張所ヲ置ク八年十一月十三日各郡出張所ヲ改メテ各郡分署ト稱ス

四 北海道諸產物出港稅徵收機關

(一)海官所 明治二年八月(日)關海官所ヲ函館手宮壽都幌泉四港ニ設ケ北海道產物出港稅ヲ徵收セシム三年正月(日)關館藩所轄松前江差兩港運上所ヲ開拓使ノ管屬トシ海官所ヲ置ク同年十二月(日)關江差松前兩海官所ヲ館藩ニ屬ス

(二)海關 明治三年十二月(日)關各海官所ヲ改メテ海關ト稱ス五年六月二十二日幌泉海關ヲ廢シ手宮海關ヲ改メテ小樽港海關ト稱シ又新ニ室蘭厚岸ノ二海關ヲ置ク九月二十五日海關ヲ渡嶋國檜山郡江差港ニ置ク

(三)船改所 明治八年二月四日各海關ヲ改メテ船改所ト稱シ更ニ船改所ヲ函館福山江差室蘭小樽壽都厚岸ノ七港ニ置ク是日北海道諸產物出港稅則及各港船改所規則ヲ定メ北海道ノ諸產物ニシテ鑛屬及穀類麻卵紙生絲器具ヲ除クノ外各府縣下ニ廻漕スルモノハ船改所每箇所ニ出港稅ヲ徵收スルモノトス十年八月十一日船改派出所ヲ吉岡當別江真熊石古平岩内石狩浦河根室振別ノ十箇所ニ置ク

五 一派出收稅吏 明治三年七月三日官吏ヲ常州那珂阿州撫養及下ノ關ニ派遣シテ北海道產物輸入稅徵收ノ事ヲ掌ラシム同年十月(日)關那珂撫養下ノ關收稅吏ヲ罷ム

第三項 琉球藩

明治五年十一月二十日琉球藩ノ貢納ハ之ヲ租稅寮ニ進致セシム蓋シ是ヨリ先キ琉球國ハ鹿兒嶋藩ニ隸屬シ出米ト稱スル貢納ヲ爲セリ五年九月十四日建テ、藩ト爲シ尙泰ヲ琉球藩王ト爲ス是ニ至テ此令アリ而シテ同藩地ニ於ケル賦課徵收ノ法ノ如キ一ニ舊慣ニ隨フモノナリトス
明治六年十二月四日右貢納ノ歲額ヲ定メ價金ニ換算シテ之ヲ納致セシム

第二款 內國稅務地方機關ノ第二期

第一項 一般府縣

第一目 租稅局派出機關

第一 收稅委員出張所

一 管務 明治十一年十二月二十八日大藏省乙第七十二號ヲ以テ國稅金領收順序ヲ發布シ各地
方適宜ノ場所ニ稅金預所ヲ設ケ租稅局員ヲ派遣シ以テ稅金預切符ノ受領及徵收實況監視ノ事務
ヲ掌ラシム

二 職員 明治十一年十二月租稅局員ヲ以テ收稅委員ニ充ツ

三 雜件

(一)設置 明治十一年十二月各地方ニ收稅委員出張所ヲ設置スルコト、ナシ十二年三月二十日東
京府下萬世橋外五箇所ニ七月一日大阪外七箇所ニ九月一日長崎外十三箇所ニ之ヲ設置ス

(二)廢止 明治十四年十月一日收稅委員出張所ヲ廢ス蓋シ是ヨリ先キ十二年十月大阪外四箇所ニ
租稅局出張所ヲ置キ諸稅檢査ノ事務ヲ管セシメ十四年八月租稅局出張所ヲ増置シ諸稅監査及收稅
ノ事務ヲ並管セシメタルヲ以テナリ

第二 租稅局出張所

一 管務

(一)一般租稅局出張所 明治十二年十月十日租稅局出張所ヲ置キ全國ヲ六區ニ分チ國稅徵收ノ事
及該區內酒造檢査立會ノ事務ヲ兼掌セシム十四年八月二十四日其權限ヲ擴張シ諸稅監査及收稅
ノ事務ヲ並管セシム

(二)東京箱崎町出張所 明治十五年五月十三日租稅局出張所ヲ東京箱崎町ニ置キ北海道海產稅ノ
事務ヲ管ス

二 分掌 明治十四年八月二十四日租稅局出張所ノ事務分課ヲ定メ賦稅收稅庶務ノ三掛ト爲ス

三 職員 明治十二年十月十日租稅局員ヲ以テ出張所員ニ充ツ

四 雜件

(一)設置移轉及改稱 明治十二年十月十日租稅局出張所ヲ大阪廣嶋熊本、名古屋仙臺ノ五箇所ニ置
ク十四年八月二十四日之ヲ靜岡、松江、岡山、高知、松山、長崎、鹿兒嶋、福井、新潟、長野、福嶋、盛岡、秋田、青森ノ
十四箇所ニ増置シ萬世橋租稅局出張所(七年四月十九日設ケル所)ヲ改メテ東京出張所ト稱ス十五
年五月十三日租稅局出張所ヲ東京箱崎町ニ設ケ十六年二月二十八日之ヲ函館ニ置ク五月二十九
日福井出張所ヲ石川縣下金澤ニ移シ改メテ金澤出張所ト稱ス

(二)廢止 明治十六年三月三日東京箱崎町出張所ヲ廢シ五月二十九日盛岡、青森兩出張所ヲ廢ス十
七年五月二十日各地租稅局出張所ヲ廢シ其事務ヲ府縣ニ屬ス
今參考ノ爲メ出張所並ニ其收稅區畫ヲ表示スレハ左ノ如シ

租稅局出張所名稱	收稅區畫
東京出張所	東京府 神奈川縣 千葉縣 埼玉縣
大阪出張所	栃木縣 茨城縣 群馬縣 山梨縣
名古屋出張所	大阪府 京都府 兵庫縣 滋賀縣 和歌山縣 德嶋縣
靜岡出張所	愛知縣 三重縣 岐阜縣
廣嶋出張所	靜岡縣 山口縣

松江出張所	嶋根縣	鳥取縣
岡山出張所	岡山縣	
高知出張所	高知縣	
松山出張所	愛媛縣	
長崎出張所	長崎縣	福岡縣 佐賀縣
熊本出張所	熊本縣	大分縣
鹿兒嶋出張所	鹿兒嶋縣	宮崎縣
金澤出張所	福井縣	石川縣 富山縣
新潟出張所	新潟縣	
長野出張所	長野縣	
福嶋出張所	福嶋縣	
仙臺出張所	宮城縣	山形縣 巖手縣
秋田出張所	秋田縣	
函館出張所	函館縣	札幌縣 根室縣 青森縣

第二目 下級機關

本期間ニ於テ租稅局派出機關ノ下ニ立テテ收稅ノ事ニ當レルモノハ前顯國稅金領收順序、國稅金送納定則、地租金代米納領收順序等ニ依リ主トシテ郡區長及戶長ナリトス但シ府縣モ亦多少之ニ

關涉セリ而シテ郡區長及戶長ノ設置ハ明治十一年七月布告第十七號郡區町村編制法ノ定ムル所ナリ編制法ハ規定シテ曰ク每郡ニ郡長各一員ヲ置キ每區ニ區長各一員ヲ置ク郡ノ狹小ナルモノハ數郡ニ一員ヲ置クコトヲ得而シテ每町村ニ戶長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クコトヲ得但シ區内ノ町村ハ區長ヲ以テ戶長ノ事務ヲ兼スルコトヲ得トス

第二項 沖繩縣

明治十二年四月四日琉球藩ヲ廢シテ沖繩縣ヲ置ク是ニ於テ貢納ヲ廢シ縣廳ニ於テ其租稅ヲ直管收納ス縣ノ下ニハ八役所間切番所役場藏元村屋等アリ役所ニ役所長以下ノ吏員番所又ハ役場ニ地頭代又ハ主取以下ノ吏員藏元ニ藏元頭以下ノ吏員村屋ニ掟アリテ舊慣ニ從ヒ徵稅ノ事ニ當レリ唯々明治十三年十月以降沖繩縣ニ租稅局員ヲ派シテ檢査收納ノ事ニ當ラシム

第三項 北海道

本期ニ入りテ北海道ニ於テ一般國稅徵收ノ事ニ當レルモノハ開拓使ナリ明治十二年七月十六日各郡分署ヲ改メテ郡區役所ト稱シ十四年五月二十一日東京出張所ヲ廢シ同年七月十六日局ヲ改メテ課ト爲シ課ヲ改メテ係ト爲ス十五年二月八日使ヲ廢シテ本道ニ函館札幌根室ノ三縣ヲ置キ同二十八日三縣ノ管轄區域ヲ定メ三月十六日函館札幌ニ縣廳ヲ開キ四月一日根室縣廳ヲ開ク十六年二月二十八日函館ニ租稅局出張所ヲ置キ以テ檢査收納ノ事ヲ掌ラシム而シテ北海道諸物產出港稅ヲ徵收スルカ爲メニ本道諸港ニ船改所及船改派出所アルハ既ニ前段ニ述ヘタル所ナルカ明治十三年七月三日ニハ船改派出所ヲ天鹽國増毛郡増毛ニ設ケ同十一月十二日船改所ヲ根室港

ニ派出所ヲ濱中港ニ置ク

其他北海道物産稅ハ開拓使時代ニ在リテハ支應及出張所ニ於テ收納セリ然ルニ廢使置縣以來縣廳内ノ租稅課ニ於テ專ラ收稅事務ヲ管理シ租稅官吏ヲ各地ニ派出シテ檢査收稅ノ事ヲ掌ラシム而シテ縣ニ於テ收納セル租稅ヲ大藏省ニ納致スル仲介ノ地位ニ立テル機關ハ租稅局東京箱崎町出張所及租稅局函館出張所明治十六年二月二十八日設置十七年五月二十日廢止ナリトス

第三款 內國稅務地方機關ノ第三期

第一項 一般府縣

第一目 府 縣

第一 管務 明治十七年五月太政官第四十七號及第四十八號達ヲ以テ府縣官中新タニ收稅長及收稅屬ヲ置キ從前租稅局出張所ニ於テ掌理シタル事務ヲ移シテ府縣ノ管掌ニ歸セシム之レ實ニ收稅專任官吏ヲ置クノ權輿ナリ

明治十九年七月十二日勅令第五十四號ヲ以テ始メテ地方官官制ヲ制定ス之ニ依レハ府縣知事ハ內務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政及警察ノ事務ヲ總理スルモノトス

明治二十三年十月十日勅令第二百二十五號ヲ以テ地方官官制ヲ改正シ府縣知事ハ內務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務

ヲ總理スルモノトス

明治二十六年十月三十日勅令第六十二號ヲ以テ地方官官制ヲ改正シ府縣知事ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理スルモノトス

第二 分掌 明治十七年五月二十日收稅事務ヲ府縣ニ屬スルヤ府縣ニ收稅課ヲ置キテ其事務ヲ分掌セシム

明治十九年七月制定ノ地方官官制ハ府縣ニ收稅部ヲ置キ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル一切ノ事務ヲ分掌セシム部中更ニ課ヲ設ク

明治二十三年十月ノ改正官制ハ府縣ノ事務ヲ分掌セシムル爲メニ二部三署ヲ置ク其直稅署ハ直稅ノ賦課租稅ノ徵收及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌リ間稅署ハ間稅ノ賦課及間稅犯則者處分ニ關スル事務ヲ掌ル

明治二十六年十月ノ改正官制ハ各府縣ニ三部一署ヲ置ク其收稅部ニ於テハ國稅ノ賦課徵收並ニ間接國稅犯則者處分及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌ルモノトス而シテ收稅部ニ分課ヲ設クルヲ要スルトキハ知事之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘキモノトス

明治二十六年十月三十日勅令第六十三號ヲ以テ間稅官署ノ事務及其署長ノ職務取扱ニ關スル件ヲ定メ間稅署ノ事務ハ自今收稅部ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

明治二十九年十月二十八日勅令第三百三十七號稅務管理局官制ハ右地方官官制中收稅部ニ係ル條項ヲ管理局官制施行ノ日(二十九年十一月一日)ヨリ廢止スルコト、セリ

第三 職員 明治十七年五月二十日租稅局出張所ノ事務ヲ府縣ニ屬ス是ニ於テカ太政官ハ達第四十八號ヲ以テ府縣官職制中ヲ増補シ更ニ收稅長及收稅屬ヲ置キ其職務ヲ定メテ曰ク
收稅長

一 收稅長ハ事ヲ府知事縣令ニ承ケ收稅ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス

二 收稅長ハ收稅檢査ノ景況報告書及收入金員科目ヲ記載シタル計算書ヲ作り府知事縣令ノ檢印ヲ受ケ之ヲ主稅局長ニ報告ス

三 收稅長ハ收稅事務ニ付直ニ主稅局長ノ指揮ヲ受ケ又ハ直ニ之ヲ具申スルコトアルヘシ
收稅屬 各其主務ニ従事ス

明治十八年七月太政官第三十八號達ヲ以テ收稅屬十七等官相當ノ月俸ヲ十二圓十圓八圓ノ三級ニ區別ス抑モ檢稅ノ事タルヤ各稅營業ノ期節ニ際シテハ瞬時ヲ爭ヒ敏活ノ運動ヲ要スルモノニシテ苟モ其間緩慢ニ經過スルアラハ忽チ逋稅脫漏ノ患アルヲ以テ此ニ若干増員ヲ要スト雖モ有限ノ豫算如何トモスル能ハス且ツ從來多クハ等外準等外ヲ以テ之ニ充テタリシモ漸次人智發達シ其權利ノ重セラル、ノ時ニ方リ依然舊態ヲ存續スヘカラス然ルニ現在等外準等外員中其事務ニ熟練セシモノ少カラス若シ移シテ之ヲ採用セハ亦必スシモ増給ヲ要セスシテ判任官ノ缺乏ヲ補充スルコトヲ得ヘシ是則チ茲ニ低俸ノ班位ヲ設ケシ所以ナリ

明治十八年七月太政官第三十九號達ヲ以テ收稅長ノ職制ヲ改正シテ其管理中ニ徵稅費ニ關スル事務ヲ追加セラル要スルニ收稅費ノ多寡ハ稅務ノ興廢弛張ニ隨伴スルモノナルヲ以テ茲ニ之ヲ統一整理セシメ租稅ノ檢査徵收其他諸般ノ事務施設上ノ便宜ヲ圖リシナリ同年同月大藏省第五

十六號達ヲ以テ租稅檢査員派出方準則ヲ定メ地勢ノ便否營業者ノ多寡等ヲ酌量シテ租稅檢査區ヲ分チ派出所ヲ設ケ又特ニ監督員派遣ノ制ヲ施キ其監督員檢査員ハ收稅屬ヲ以テ之ニ充ルコトトセリ但府縣ノ都合ニ依リ準判任御用掛ヲ加フルコトヲ得セシム

明治十九年七月勅令第五十四號ヲ以テ地方官官制ヲ定メ收稅長ヲ奏任四等以下トシ知事ノ命ヲ承ケ租稅ノ賦課徵收及徵收費ニ關スル事務ヲ掌リ收稅屬ハ收稅部ニ屬シ收稅長ノ指揮ヲ承ケ其主務ニ従事スルモノトセリ是ニ於テ收稅課ヲ收稅部ト改稱ス同年同月勅令第五十五號地方官官等俸給令ヲ以テ收稅屬ハ判任一等乃至十等トス

租稅事務執行ニ關シテハ逐年改良セラレタルモ從來ノ租稅檢査員派出所ハ多ク旅店ノ一部分ヲ借受ケ之ニ充用セシヲ以テ事務取扱上頗ル不都合ヲ感シ十九年十月特ニ派出所設置標準ヲ定メ並セテ所費支出ノ事ヲ府縣知事ニ示シ稍官衙ノ體裁ヲ爲セリ

明治二十一年十月勅令第六十八號ヲ以テ地方官官等俸給令中改正アリ收稅屬俸給每等上中下ノ三級又ハ上下ノ二級ニ分チ其改正上級俸ヲ以テ一般判任官ノ月俸ト同額ナラシメ其一等上級俸ヲ受ケタルモノ特別増俸ノ如キモ亦一般判任官官等俸給令ニ依ルコトヲ得セシム蓋シ十七年五月收稅屬創置以來舊官等九等相當則チ月俸五十圓ヲ最上班トシタルニヨリ收稅屬ノ府縣屬ニ對スル官等同クシテ俸給薄ク又俸給薄クシテ官等高キニ居ルノミナラス判任官俸給令第四條ニ依リ在職年數ヲ算スルニ方リ府縣屬ハ新舊勤績ヲ通算スルヲ得ルモ收稅屬ハ一般ニ新制ノ等級ニ被セラレタルカ爲メ自ラ舊時ノ年數ヲ消滅スルノ不幸ヲ來シ現ニ府縣屬トノ權衡ヲ失ヒ職務勉勵ノ氣ヲ沮喪セシメ直接間接ニ事務上ニ影響ヲ及ホスコトナキヲ保セサルヲ以テナリ

從來租稅検査員ハ派出所在地ノ内外ニ別ナク出張ノ名義ヲ以テ派遣セシカ二十二年五月以降各派出所在勤ヲ命スルコト、シ同年六月ニ至リ租稅検査上特置ノ監督員ヲ廢シ自今課長ヲシテ監督事務ヲ行ハシムヘキ旨ヲ訓令ス蓋シ各縣租稅検査事務略ホ一定ノ順序ニ從フニ至リシヲ以テ監督員ノ常設ヲ要セス加フルニ收稅部出張所設置ニ付テハ隨時課長ヲシテ之ヲ巡視セシムルノ要アリシヲ以テ檢稅事務モ兼ネテ監督スルヲ得ルノ便宜アリシニヨル

明治二十三年四月勅令第七十五號ヲ以テ收稅屬官等俸給改正ノ舉アリ其官等俸給ハ一般判任官官等俸給令ニ依ル特ニ定額ノ都合ニヨリ判任官六等ニ拾圓又ハ六圓ノ俸給ヲ支給スルヲ得セシム而シテ本官制ニ於テハ收稅屬ノ各府縣ヲ通シタル定員ヲ規定シ其每府縣ノ定員ハ大藏大臣之ヲ定ムヘキコトヲ規定ス

明治二十四年七月二十四日勅令第一百十二號ヲ以テ收稅屬ノ各府縣ヲ通シタル定員ヲ減員ス

明治二十六年十月ノ改正官制ハ各府縣ニ知事、收稅長、收稅屬等ノ職員ヲ置ク

知事ハ前顯ノ職務ヲ管理ス

收稅長ハ收稅部長トナリ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス收稅部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣官吏ノ一人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

收稅屬ハ收稅部又ハ收稅署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス而シテ收稅屬ノ各府縣ヲ通シタル定員ヲ規定シ其每府縣ノ定員ハ大藏大臣之ヲ定ムヘキモノト爲セルハ故ノ如シ

明治二十六年十月三十日勅令第六十三號ハ間稅官署ノ事務及其署長ノ職務取扱ニ關スル件ヲ定メ間稅署長ノ職務ハ自今收稅部長之ヲ行フヘキモノトス越エテ二十九年三月二十九日勅令第

六十五號及同年七月二十八日勅令第二百七十六號ハ收稅屬ノ定員ヲ増加シ十月二十日勅令第三百三十七號稅務管理局官制ハ右地方官官制中收稅長收稅屬ニ係ル條項ヲ管理局官制施行ノ日二十九年十一月一日ヨリ廢止スルコト、セリ

第四 雜件

監査 明治十九年四月五日大藏省令第十三號ヲ以テ府縣稅務監査規則ヲ定メ府縣ノ稅務ハ時時主稅官ヲ派出シテ之ヲ監査セシム其監査事項ハ各種内國稅、印紙類賣捌方及取扱方、檢査區畫、檢査員配置計畫及檢査事務取扱方、内國稅徵收費支辨ノ實況、稅務諸帳簿ノ整否、收稅事務取扱ノ得失トス主稅官ハ府縣ノ稅務ニ關シ意見アルトキハ直ニ府知事縣令ニ協議ヲ爲スコトヲ得其他監査上時宜ニ依リ郡區役所及戶長役場ニ就キ稅務ノ實況ヲ調査スルコトヲ得而シテ府縣廳ニ於テ協議ヲ遂ケタル事項及監査上ノ實況ハ之ヲ大藏大臣ニ具申スルモノトス

第二目 下級機關ノ第一期

第一 一般地方

一 郡區

(一)管務 明治十七年六月ノ國稅收納順序ハ郡區長ヲ以テ收稅ノ機關トシ越エテ十九年三月ノ歲入歳出納規則モ亦郡區長ヲ以テ其一機關トスルコトハ曩ニ述ヘタル所ノ如シ而シテ十九年七月ノ地方官官制ハ更ニ郡區長ノ權限ヲ定メテ郡區長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ行政事務ニ就テハ其部内町村ノ戶長ヲ指揮シ其公同事務ニ就テ

ハ之ヲ監督スルモノトス

(二)職員 前第二期以來引續キ郡區ニ郡區長以下ノ職員アリシカ十九年七月ノ地方官官制ハ之ヲ更定シテ每郡若クハ數郡ニ郡長一人每區ニ區長一人及書記若干人ヲ置キ郡區長ハ前顯ノ職務ニ從事シ郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌スルモノトス

(三)検査 明治十八年八月二十六日郡區役所國稅收納事務検査規程ヲ定メ郡區役所ノ國稅收納事務ハ收稅課員ヲシテ検査セシム其検査スヘキ要領ハ國稅徵收及送納國稅不納ノ狀況及處分ノ適否帳簿申報ノ整否等トス

二 町村 明治十七年六月ノ國稅收納順序並ニ十九年三月ノ歲入歲出納規則ハ町村戶長ヲ以テ收稅ノ一機關トスルコトハ既ニ前ニ述ヘタル所ノ如シ而シテ町村戶長ノ設置ハ前顯明治十一年ノ郡區町村編制法ノ定ムル所ナリ

第二 小笠原嶋及伊豆七嶋特例 小笠原嶋ニ在リテハ前顯慣例ニ依リ嶋司伊豆七嶋ニ在リテハ名主及地役人東京府ノ下ニ在リテ收稅ノ事ニ從フ而シテ其嶋司ノ權限ニ付テハ明治十九年七月ノ地方官官制ハ部内ノ行政事務ヲ掌理シ知事ノ委任スル條項ハ便宜之ヲ施行スルヲ得ルモノトス

第三目 下級機關ノ第二期

第一 市町村制施行地方

一 郡及町村

(一)郡 明治二十二年三月ノ國稅徵收法カ郡長ヲ以テ府縣ト町村トノ間ニ介立スル收稅ノ一機關トスルコトハ曩ニ述ヘタル所ナリ而シテ其郡ノ官制及其收稅事務検査ノ規程ハ前段述フル所ニ同シ

(二)町村

管務 明治二十二年三月ノ國稅徵收法カ町村ニ特定ノ租稅ヲ徵收シ國庫ニ納付スルノ義務ヲ負ハシメ其他町村長町村收入役ノ徵稅上ノ職務ヲ規定シタルコトハ前ニ述ヘタル所ノ如シ

職員 明治二十一年四月十七日法律第一號町村制(二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス)ハ町村ニ町村長助役收入役書記其他必要ノ附屬員並ニ使丁ヲ置ク

町村長(一名)ハ町村會ニ於テ其町村民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ而シテ町村長ハ法律命令ニ從ヒ國ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務ヲ管掌ス其事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得ルモノトス

助役ハ一名トシ其選任ノ方法ハ町村長ニ同シ但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ増加スルコトヲ得町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助シ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理スヘシ

收入役(一名)ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任ス但シ其選任ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ而シテ收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

書記其他必要ノ附屬員並ニ使丁ノ人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但シ町村長ニ書記ノ事務

ヲ委任スルコトヲ得、町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

町村ノ性質 町村制ハ町村ハ法律上一個人ト均シク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

町村ノ分畫 町村制ハ町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ每區ニ區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得ルモノトス區長及其代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

二 市

(一) 管務 明治二十二年三月ノ國稅徵收法カ市ニ特定ノ租稅ヲ徵收シ國庫ニ納付スル義務ヲ負ハシメ其他市長市收入役ノ徵稅上ノ職務ヲ規定シタルコトハ前ニ述ヘタル所ノ如シ

(二) 職員 明治二十一年四月十七日法律第一號市制(二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣ノ指定スル地ニ之ヲ施行ス)ハ市ニ市參事會ヲ置キ市長(一名)助役東京ハ三名、京都、大阪ハ各二名其他ハ一名、名譽職參事會員(東京ハ十二名、京都、大阪ハ各九名其他ハ六名)ヲ以テ組織ス但シ助役及名譽職參事會員ハ市條例ヲ以テ其定員ヲ増減スルコトヲ得

市長ハ其任期六年有給吏員トス內務大臣市會ヲシテ候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ若シ其裁可ヲ得サルトキハ再推薦ヲ爲サシムヘシ而シテ市長ハ法律命令ニ從ヒ國ノ行政ニシ

テ市ニ屬スル事務ヲ管掌ス但シ此事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ市參事會員ノ一名ニ分掌セシムルコトヲ得

助役及名譽職參事會員ハ市會之ヲ選舉ス助役ハ任期六年有給吏員トシ其選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス若シ其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲スヘシ名譽職參事會員ハ任期四年其市公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス市參事會員ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキ之ヲ代理ス

市收入役ハ一名市參事會ノ推薦ニ依リ市會之ヲ選任ス其選任ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス(市參事會員ヲ兼スルヲ得ス)市收入役ハ市ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

書記其他必要ノ附屬員並ニ使丁ニハ相當ノ給料ヲ給シ其人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ市參事會之ヲ任用ス書記ハ市長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

明治二十二年三月二十二日法律第十二號ヲ以テ三府市制特例ヲ定メ東京、京都、大阪三市ニ於テハ市長及助役ヲ置カス市長ノ職務ハ府知事之ヲ行ヒ助役ノ職務ハ書記官之ヲ行フモノトス

(三) 市ノ性質 市制ハ市ハ法律上一個人ト均シク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡市ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

(四) 市ノ分畫 市制ニ依レハ凡市ハ處務便宜ノ爲メ市參事會ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分チ區ニ區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス但シ東京、京都、大阪ニ於テハ區長ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

區長及其代理者ハ市會ニ於テ其區若クハ隣區ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス但シ東京、京都、大阪ニ於テハ市參事會之ヲ選任ス區長及其代理者ハ市參事會ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル市行政事務ヲ補助執行スルモノトス

附屬員並使丁 東京、京都、大阪ニ於テハ市書記其他必要ノ附屬員並使丁ノ例ニ倣ヒ區ニ附屬員並使丁ヲ置クコトヲ得

三府市制特例ハ東京、京都、大阪ノ三市ニ於テハ府知事ハ區長ヲシテ其區内ニ關スル國ノ行政及府ノ行政並收入役ノ事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得ルモノトス

第二 市町村制未施行地方

一 小笠原嶋及伊豆七嶋 小笠原嶋及伊豆七嶋ニ於ケル收税ノ機關ハ前第一期ニ於テ述ヘタル所ニ同シ

二 其他ノ地方 町村制ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル嶋嶼ニ町村制ヲ施行セサルヘキコトヲ規定セルカ明治二十二年一月勅令第一號ハ斯ノ如キ嶋嶼ヲ指定シテ曰ク

東京府管下(小笠原嶋、伊豆七嶋)長崎縣管下(對馬國、嶋根縣管下、隱岐國、鹿兒嶋縣管下、天隅國、大嶋郡、大嶋嶼、徳ノ嶋、喜界嶋、沖永良部嶋、與論嶋、薩摩國、川邊郡、硫黃嶋、黑嶋、竹嶋、足嶋、臥蛇嶋、平嶋、中之嶋、惡石嶋、諏訪ノ瀨嶋、寶嶋)

右ノ内小笠原嶋及伊豆七嶋ヲ除キタル他ノ諸嶋嶼ニ在リテハ二十二年三月ノ國稅徵收法ニ依リ郡長及戶長收税ノ事ニ當ル而シテ其郡長及戶長ニ關スル事項ハ前段述フル所ニ同シ

第四目 下級機關ノ第三期

第一 府縣收稅部出張所

一 管務 明治二十二年五月八日勅令第六十三號ヲ以テ國稅事務取扱ノ件ヲ定メ七月一日以降府縣收稅部出張所ニ於テハ左ニ掲クル事項ヲ取扱フ

一 土地臺帳及地圖ニ關スル事項

一 國稅ヲ課スル諸營業鑑札下付ニ關スル事項

一 船車檢印ニ關スル事項

一 諸印紙賣下ニ關スル事項

一 市ノ國稅徵收ニ關スル事項

一 國稅徵收法第十一條第十二條中收入官吏ノ職務ニ關スル事項

二 職員 明治二十二年ノ勅令第六十三號ハ府縣收稅部出張所ニ收稅屬ヲ派出シテ其事務ヲ司掌セシム

三 配置 明治二十二年ノ勅令第六十三號ハ同年七月一日以降各郡市役所所在地ニ府縣收稅部出張所ヲ設置ス

第二 郡市町村等

本期間ニ於テハ右府縣收稅部設置ノ外ハ總テ前第二期ニ於テ述ヘタル所ニ同シ

第五目 下級機關ノ第四期

第一 府縣支術

一 府縣收稅部出張所

(一) 管務 明治二十二年五月勅令第六十三號カ府縣收稅部ニ收入官吏ノ職務ニ關スル事項ヲ初メトシ諸多ノ國稅事務ヲ管掌セシメタルコトハ前段述フル所ノ如シ尋テ九月二十一日法律第二十號ヲ以テ國稅徵收法ヲ改正シ府縣知事ハ市町村若クハ各納稅人ニ對シテ徵稅令書ヲ發スルモノトス此月二十四日埼玉縣ヨリ國稅徵收法中令書ヲ發スルハ府縣知事ト改メラレタリ右ハ收稅部出張所長ニ分任シ差支ナキヤノ伺ニ對シ知事ノ名ヲ以テ收稅部出張所ニ其取扱ヲ爲サシムヘシトノ指令アリ隨テ爾來府縣收稅部出張所ハ府縣ト市町村トノ間ニ介立スル收稅機關トナルニ至レリ

(二) 職員及配置 ハ前段述フル所ニ同シ

二 府縣直稅分署及間稅分署

(一) 管務 府縣直稅分署及間稅分署ニ於テハ國稅徵收法ニ依リ府縣知事ノ發スル徵稅令書ヲ取扱ヒ且ツ收入官吏ノ事務ヲ掌ル

(二) 職員 明治二十三年十月ノ地方官官制ハ直稅分署長及間稅分署長ハ收稅屬ヲ以テ之ニ充ツヘキコトヲ規定ス

(三) 配置及管轄區域 明治二十三年十月ノ地方官官制ハ府縣内須要ノ地ニ直稅分署及間稅分署ヲ

配置シ其配置及管轄區域ハ大藏大臣之ヲ定ムヘキコトヲ規定シ十一月一日大藏省令第二十九號ヲ以テ府縣直稅分署及間稅分署ノ位置及管轄區域ヲ定ム備考沖繩縣ニハ之ヲ配置セス伊豆七嶋及小笠原嶋ハ東京幸橋分署ノ管轄ニ屬ス

三 收稅署

(一) 管務 明治二十六年十月三十日ノ勅令第六十三號ハ間稅官署ノ事務及其署長ノ職務取扱ニ關スル件ヲ定メ間稅分署ノ事務ハ自今收稅署ニ於テ之ヲ取扱ヒ間稅分署長ノ職務ハ自今收稅署長之ヲ行フモノトシ從來直稅分署及間稅分署ノ掌理セル所ノ職務ハ一ニ收稅署ノ管理ニ歸スルコトナレリ

(二) 職員 明治二十六年十月ノ地方官官制ハ收稅署長ハ收稅屬ヲ以テ之ニ充テ上官ノ指揮ヲ承ケ其署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督スルモノトシ收稅屬ハ收稅部又ハ收稅署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事スルモノトス

(三) 配置及管轄區域 明治二十六年十月三十日ノ地方官官制ハ府縣内須要ノ地ニ收稅署ヲ配置シ其配置及管轄區域ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘキコトヲ規定シ同日ノ勅令第六十四號ヲ以テ府縣收稅署ノ位置及管轄區域ヲ定ム備考沖繩縣ニハ之ヲ配置セス伊豆七嶋及小笠原嶋ハ東京幸橋收稅署ノ管轄ニ屬ス

第二 市町村等

一 市町村制施行地方 明治二十二年三月十三日ノ法律第九號國稅徵收法二十二年九月二十一日法律第二十三號及二十七年六月十一日法律第十七號ヲ以テ改正ニヨリテ市町村ハ其市町村内

ノ地租及勅令ニ依リ命スル所ノ租稅ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ納付スルノ義務ヲ有スルモノナルコトハ前段既ニ述ヘタル所ナルカ二十二年九月ノ改正ニ依リテ此等ノ租稅ヲ徵收スルニハ府縣知事カ市町村ニ對シテ徵稅令書ヲ發シ其徵稅令書ニ據リテ市町村長及市町村收入役ハ一定ノ職務ニ從事スルモノトス而シテ市町村ノ性質吏員等ニ關スル事項ハ凡テ前段述ヘタル所ニ同シ

二 市町村制未施行地方

(一)小笠原嶋及伊豆七嶋 國稅徵收慣例ニ依リ小笠原嶋ニ在リテハ嶋司伊豆七嶋ニ在リテハ地役人及名主收稅ノ事ヲ掌ル而シテ嶋司ニ付テ明治十九年七月ノ地方官官制ノ規定スル所ハ前段既ニ述ヘタル所ノ如シ今左ニ二十三年十月ノ改正官制及二十六年十月ノ改正官制ノ定ムル所ヲ述フレハ

明治二十三年十月ノ改正地方官官制ハ勅令ヲ以テ指定スル嶋地ニ特ニ嶋應ヲ置キ嶋應ニ嶋司嶋應書記ノ職員ヲ置ク嶋司ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ部内ノ行政事務ヲ掌理シ知事ヨリ委任スル事項ハ便宜施行スルヲ得又行政事務ニ就テハ其部内町村ノ吏員ヲ指揮監督ス嶋應書記ハ嶋司ノ命ヲ承ケテ庶務ヲ分掌シ嶋司事故アルトキハ上席ノ嶋應書記知事ノ命ヲ承ケテ其職務ヲ代理ス

明治二十六年十月ノ改正官制モ亦類似ノ規定ヲ設ケ勅令ヲ以テ指定スル嶋地ニ特ニ嶋應ヲ置キ嶋應ニ嶋司及嶋應書記ヲ置ク嶋司ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス又行政事務ニ就テハ其部内町村ノ吏員ヲ指揮監督ス嶋應書記ハ嶋司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

(二)其他ノ地方 ニ在リテハ明治二十二年三月ノ國稅徵收法ハ本法ニ依リテ市町村ノ爲スヘキ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フヘキコト、ナレルカ明治二十三年二月三日ノ法律第四號ハ嶋司及戶長ヲ以テ收稅ノ機關ト爲ス而シテ嶋司ノ官制ハ前段述フル所ノ如シ

第二項 沖繩縣

第一目 縣

第一 管務 明治十七年五月二十日縣地派出ノ租稅局員ヲ廢シ其事務ヲ縣ニ屬ス其他縣知事ノ權限ハ前顯地方官官制ノ定ムル所ノ如シ

第二 分掌ニ關シテハ前顯地方官官制ノ定ムル所ノ如シ

第三 職員ニ關シテモ亦前顯地方官官制ノ定ムル所ノ如シ

第四 雜件

一 那霸船改所 明治二十一年三月二十一日勅令第十二號ヲ以テ沖繩縣酒類出港稅則ヲ定メ那霸港ニ船改所ヲ置キテ他府縣ニ輸出スル酒類ニ對スル出港稅ノ徵收ヲ掌ラシム船改所ニ所長一人所員三人ヲ置キ收稅屬ヲ以テ之ニ充ツ

二 主稅局稅品取扱人 明治十七年八月三十日那霸港ニ主稅局稅品取扱人ヲ置キ租稅ノ内物品收納ニ係ルモノヲ鑑定及保管セシム十八年六月三日之ヲ廢ス

三 那霸藏所 明治十八年六月主稅局稅品取扱人ヲ廢ス仍テ那霸ニ藏所ヲ置キ收稅部員ノ一部之ニ屬シ稅品ノ收入及公賣等ノ事ニ當ル

第二目 下級機關ノ第一期

第一 役所

縣下凡テ八役所アリ所轄各間切ノ一般行政ヲ監督スルト共ニ徵稅ノ事ヲ監督スル機關ニシテ執
レモ他ノ行政事務ヲ兼務セル二人乃至三人ノ收稅主任アリテ事務ヲ執レリ但シ表面上ハ凡テ役
所長ノ名ヲ以テ事ヲ行フモノトス而シテ役所長以下皆縣屬ニシテ其進退ハ一ニ内務部長ノ管ス
ル所ナリ

第二 役場、番所及藏元

各間切毎ニ番所アリ首里、那覇ニハ役場アリ執レモ一般行政ヲ司ルト共ニ徵稅ノ事務ニ當ル而シ
テ各番所及役場ニ一人又ハ二人ノ稅務主任アリテ地頭代又ハ主取ノ名ヲ以テ事ヲ執ルモノトス
宮古、八重山ノ兩嶋ニハ間切番所ナシ之ニ代ルヘキモノ藏元アリ藏元ニ藏元頭及藏元稅務掛員ア
リテ徵稅ノ事ニ當ル

第三 村屋及村番所

各村ニ村屋アリ村屋ハ其性質ヨリ云ヘハ公ノ役所ト云フコトヲ得サルモノタルノミナラス明治
二十六年縣令第四十三號國稅徵收法施行細則ニヨリテ表面上納稅人トナレルモノナリト雖モ實
際上ハ最初ノ收稅機關トナレルモノニシテ掟ト稱スル村長類似ノ者ノ名ヲ以テ組頭總代總聞等
ト稱スル各村内ノ重立チタルモノ、協議ニ依リテ賦課徵收ノ事ヲ行フ
宮古、八重山兩嶋ニ於テハ村ニ村番所アリ番所ニ與人アリテ徵稅ノ事ヲ掌ル

第三目 下級機關ノ第二期

第一 郡及嶋廳以下

明治二十九年三月五日勅令第十三號ヲ以テ沖繩縣ノ郡編制ニ關スル件ヲ定メ那覇、首里兩區ノ區
域ヲ除ク外沖繩縣ヲ畫シテ嶋尻、中頭、國頭、宮古、八重山ノ五郡トシ(同月十日内務省令第二號ヲ以テ
四月一日ヨリ實施ス)同日勅令第十四號ヲ以テ沖繩縣郡區職員及嶋廳職員ニ關スル件ヲ定メ沖繩
縣嶋尻、中頭、國頭ノ各郡ニ郡長一人及郡書記若干人ヲ置ク(同月十日内務省令第二號ヲ以テ四月一
日ヨリ實施ス)隨テ從來ノ役所及役所長以下ノ職員ヲ廢止ス、間切番所、藏元、村屋及村番所故ノ如シ

第二 區

明治二十九年三月五日勅令第十四號沖繩縣郡區職員及嶋廳職員ニ關スル件並ニ同日勅令第十九
號沖繩縣區制(四月一日ヨリ實施ス)ニ依ルトキハ
一 職員 區ニ區長區書記其他必要ノ附屬員ヲ置ク

區長 那覇區長ハ嶋尻郡長ヲ以テ之ニ充テ首里區長ハ中頭郡長ヲ以テ之ニ充ツ區長ハ區ヲ統轄
シ其行政事務ヲ擔任ス其他地方官官制中郡長ニ關スル規程ハ之ヲ區長ニ適用ス
區書記ハ區長ノ命令ヲ承ケ區ノ行政ニ係ル庶務ニ從事ス區長故障アルトキハ上席區書記區ノ行
政ニ付其職務ヲ代理ス區長ハ區書記ヲシテ區ノ行政事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得共
他地方官官制中郡書記ニ關スル規程ハ之ヲ區書記ニ適用ス
收入役ハ一名區書記ノ中ニ就キ沖繩縣知事之ヲ命シ區ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他

會計事務ヲ掌ル

附屬員ハ有給吏員トシ區長之ヲ任免ス

二 區ノ性質 區ハ郡ノ區域ニ屬セス別ニ行政區畫トス但シ法律命令ニ依リ特ニ區ノ區域ト符合セサル行政區畫ヲ設クルコトヲ妨ケス區ハ法人トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務竝ニ從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又ハ將來法律命令ニ依リ區ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス

三 區ノ分畫 區ハ處務便宜ノ爲メ區規則ヲ以テ區ノ區域ヲ數部ニ分チ部ニ部長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得部長及其代理者ハ名譽職トシ選舉權ヲ有スル區公民ノ中ニ就キ區長之ヲ任免ス而シテ區長ノ命令ヲ承ケ部内ニ關スル國ノ行政及區ノ行政ニ付キ區長ノ事務ヲ補助執行ス

第三項 北海道

第一目 上級機關

第一 縣

一 管務 明治十七年五月二十日租稅局出張所ヲ廢シテ其事務ヲ府縣ニ屬ス

二 分掌 明治十七年五月二十日縣ニ收稅課ヲ置キテ國稅徵收ノ事ヲ掌ラシム

三 職員 明治十七年五月二十日縣ニ收稅長及收稅屬ヲ置ク事ハ前段一般府縣ノ部ニ詳ナリ

四 雜件

(一) 船改所及船改派出所 北海道諸產物出港稅ヲ徵收スルノ機關トシテ本道ニ船改所及船改派出所

所アルハ前期ニ於テ既ニ述ヘタル所ノ如シ然ルニ本期ニ入ルニ及ンテ或ハ廢止セラレ或ハ新置セラレタルモノ少カラス今之ヲ列舉スレハ明治十八年三月三十日派出所ヲ釧路釧路國釧路郡花咲根室國花咲郡ニ増設シ八月二十六日室蘭港船改所ヲ廢止シ更ニ派出所ヲ餘市後志國餘市郡鬼鹿天鹽國留萌郡利尻北見國利尻郡ニ置キ十二月四日石別渡嶋國上磯郡振別千嶋國振別郡ノ兩船改派出所ヲ廢シテ更ニ久遠後志國久遠郡紗那千嶋國紗那郡ニ派出所ヲ置ク

(二) 派出主稅官吏 北海道物產稅ハ廢使置縣ノ時以後縣應内ノ租稅課ニ於テ專ラ其徵收事務ヲ管理シ租稅官吏ヲ各地ニ派出シテ檢査收納ノ事ヲ掌ラシメ且ツ前期ノ終ニ於テ縣ノ徵收シタル現品ヲ大藏省ニ納進スルノ仲介タル租稅局兩館出張所ヲ廢スルヤ北海道物產稅品價格査定及收入整理ノ爲メニ特ニ主稅官吏ヲ派シテ以テ從來租稅局出張所ノ司掌セシ所ノ事務ヲ行ハシム然ルニ又十八年四月六日ニ至リ遂ニ之ヲ廢シ更ニ本道各縣ニ其料理ヲ委任ス

第二 北海道廳

一 管務 明治十九年一月二十六日內閣達第六號北海道廳官制ニ依レハ北海道廳長官ハ北海道拓地殖民ニ關スル一切ノ事務ヲ總判シ各省主任ノ事務ニ就テハ各省大臣ノ指揮ヲ受クルモノトス

明治二十三年七月五日勅令第百十九號北海道廳官制ニ依レハ北海道廳長官ハ內務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民竝ニ部内ノ行政及警察ニ關スル一切ノ事務ヲ統理スルモノトス
明治二十四年七月二十四日勅令第百十一號ノ改正北海道廳官制ニ依レハ北海道廳長官ハ內務大

臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民竝ニ部内ノ行政事務ヲ統理スルモノトス

二分掌 明治十九年二月十五日假ニ分課ヲ定メ長官附庶務課租稅課勸業課土木課會計課警察本署トシ別ニ集治監屯田兵本部炭鑛鐵道事務所絞籠製糖所農學校ヲ置キ國稅徵收ノ事務ハ租稅課ノ分掌ニ屬ス

明治二十三年七月ノ改正官制ニ依レハ北海道廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ道廳ニ第一第二第三ノ三部ヲ置キ理事官ヲ以テ其部長トス國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項ハ其第三部ノ分掌スル所ナリ而シテ部中便宜課ヲ設ケ各課ニ課長一人ヲ置キ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ

明治二十四年七月ノ改正官制ニ依レハ道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ道廳ニ三部一署ヲ置キ租稅ノ賦課徵收ハ其財務部ニ於テ之ヲ司掌ス而シテ財務長ハ財務部長トナル部中便宜課ヲ設ケ各課ニ課長一人ヲ置キ部長ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ掌理ス課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ

三 職員 明治十九年一月ノ北海道廳官制ハ道廳ニ長官理事官及屬ヲ置キ長官ハ前顯ノ職務ヲ掌理ス

理事官ハ事務ヲ長官ニ受ケ各其主務ヲ幹理ス

屬ハ上官ノ指揮ヲ受ケ各庶務ニ從事ス但シ支廳ニ於テハ各課長ニ充ツルコトヲ得

明治二十三年七月ノ北海道廳官制ハ道廳ニ長官理事官屬等ノ職員ヲ置キ長官ハ前顯ノ職務ヲ掌理ス

理事官ハ長官ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ掌理ス長官事故アルトキハ上席理事官其職務ヲ代理ス屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ各庶務ニ從事ス

明治二十四年七月ノ北海道廳官制ハ道廳ニ長官書記官財務長屬等ヲ置キ

長官ハ前顯ノ職務ヲ掌理ス長官事故アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス

財務長ハ財務部長ト爲リ長官ノ指揮ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

四 雜件

(一)設置 明治十九年一月二十六日布告第一號ヲ以テ函館札幌根室ノ三縣竝ニ北海道事業管理局ヲ廢シ更ニ北海道廳ヲ置キ全道ノ施政竝ニ集治監及屯田兵開墾授産ノ事務ヲ統理セシメ道廳ヲ札幌ニ設ク

(二)支廳 明治十九年一月二十六日支廳ヲ函館根室ニ置キ三月十五日支廳管轄區域ヲ定メ舊函館縣管内ヲ以テ函館支廳ニ屬シ舊根室縣管内ヲ以テ根室支廳ニ屬ス

支廳長ハ理事官ヲ以テ之ニ充テ其下ニ屬アリ上官ノ指揮ヲ承ケテ庶務ニ從事ス屬ハ又之ヲ課長ニ充ツルコトヲ得支廳ノ分課規程ハ二月十五日定ムル所ニシテ庶務課租稅課勸業課會計課警察本署是ナリ支廳ハ二十三年七月ニ至リテ之ヲ廢止ス

(三)船改所及船改派出所 明治二十年三月二十八日北海道水產稅則ヲ定メ北海道諸產物出港稅ニ關スル布告規則等ヲ廢止セルヲ以テ漸次船改所及船改派出所ヲ廢止ス

第二目 一般内國稅務下級機關

第一 郡區

一 管務 明治十七年六月十九日國稅金領收順序十九年三月六日ノ歳入歳出納規則二十二年三月ノ國稅徵收法並ニ二十三年二月三日ノ北海道及町村制ヲ施行セサル嶋嶼ノ國稅徵收ノ件ハ孰レモ郡區長ヲ以テ國稅徵收ノ一機關ト爲セルコトハ既ニ述ヘタル所ノ如シ

而シテ明治十九年一月ノ道廳官制ハ郡區長ハ事ヲ長官又ハ支廳長ニ承ケ部内ノ事務ヲ掌リ並セテ町村戶長ヲ監督スルモノトシ二十三年七月ノ改正官制ハ郡長ハ長官ノ命ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理スルモノトス二十四年七月ノ改正官制モ亦郡區長ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理スルモノトス

二 職員 前第二期以來引續キ郡區ニ郡區長以下ノ職員アリ

明治十九年一月ノ道廳官制ハ道廳ノ郡區官トシテ郡區長及郡區書記ヲ置ク郡區長ハ前顯ノ職務ヲ掌リ郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ各庶務ニ從事スルモノトス

明治二十三年七月ノ改正道廳官制ハ道廳ノ郡區官トシテ郡長、區長、郡書記及區書記ヲ置ク郡長ハ每郡若クハ數郡ニ一人區長ハ每區ニ一人ヲ置キ前顯ノ職務ヲ掌理シ郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ各庶務ニ從事スルモノトス其他地方官官制中郡區官ニ係ル條項ニシテ本令ニ牴觸セサルモノハ北海道廳郡區官ニモ之ヲ適用スルコトナレリ

明治二十四年七月ノ改正官制ハ道廳郡區職員トシテ郡長、區長、郡書記、區書記ヲ置ク郡長ハ每郡若

明治財政史第一卷

クハ數郡ニ一人區長ハ每區ニ一人ヲ置キ但シ函館區長ハ書記官ノ内一人兼任ス前顯ノ職務ヲ掌理シ郡區書記ハ郡區長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事スルモノトス其他地方官官制中郡長郡書記ニ係ル條項ニシテ本令ニ牴觸セサルモノハ北海道廳郡區長並ニ郡區書記ニモ之ヲ適用ス

第二 町村

町村ニ戶長アリ戶長カ郡區長ノ下ニ在ル一ノ稅務機關ナルコトハ明治十七年六月ノ國稅金領收順序十九年三月ノ歳入歳出納規則二十二年三月ノ國稅徵收法二十三年二月ノ北海道及町村制ヲ施行セサル嶋嶼ノ國稅徵收ノ件等ノ規定スル所ナリ

第三目 水產稅務下級機關

本期ノ初メ北海道物產稅ハ縣廳内收稅課又ハ道廳内租稅課ニ於テ專ラ其徵收事務ヲ管理シ租稅官吏ヲ各地ニ派出シテ檢査收稅ノ事ヲ掌ラシメ諸產物出港稅徵收ノ爲メニハ船改所船改派出所アリテ之ヲ掌理セシメタルカ明治二十年三月ノ勅令第六號北海道水產稅則ハ從來ノ出港稅並ニ物產稅ヲ凡ヘテ廢棄シ更ニ北海道水產稅ヲ起シ各地ニ水產物營業人組合ヲ置キ營業人ハ必ス之ニ加入セシメ組合ニ收稅委員ヲ置キテ其組合ニ係ル徵收納付ノ事ヲ擔當セシム尋テ二十三年二月法律第八號ハ右ノ稅則ヲ修正シ徵稅ノ責任ヲ組合ノ負擔ニ歸シ收稅委員ヲ納稅委員ト改メ同年同月法律第四號北海道及町村制ヲ施行セサル嶋嶼ノ國稅徵收ノ件ハ水產稅ハ郡區長ヨリ水產物營業人組合ニ對シ徵稅令書ヲ發シ組合ハ其組合中ノ水產稅ヲ取纏メ之ヲ金庫ニ納付スヘキモノトシ其他納稅委員ノ職務ニ付テ規定セルコトハ既ニ總說中ニ述ヘタル所ノ如シ

第四款 內國稅務地方機關ノ第四期

第一項 前期

第一目 稅務管理局

第一 管務 明治二十九年十月二十日勅令第三百三十七號ヲ以テ稅務管理局官制ヲ制定シ稅務管理局ハ內國稅ニ關スル事務ヲ掌ルモノトス

第二 分掌 明治二十九年十一月一日稅務管理局分課規程ヲ定メ直稅課間稅課徵收課及庶務課ノ四課ト爲シ各分掌スル所アラシム三十一年十一月一日右分課規程中改正スル所アリ徵收課ヲ廢シテ其事務ヲ庶務課ニ並ス

第三 職員 明治二十九年十月ノ本局官制ハ本局ニ局長司稅官司稅官補稅務屬ヲ置ク局長ハ各局一人司稅官ヲ以テ之ニ充テ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅務ニ關スル法律命令ヲ執行シ其管轄內ノ事務ヲ管理ス局長ハ又所部ノ官吏ヲ監督ス司稅官ハ局長タル者ノ外東京大阪名古屋仙臺金澤廣島丸龜熊本京都長崎宇都宮松本松江鹿兒島新潟ノ各稅務管理局ニ分屬シ局長ノ事務ヲ助ク司稅官補ハ局長ノ指揮ヲ承ケ稅務ノ監督ニ從事シ又ハ大藏大臣ニ於テ指定スル所ノ稅務署長ニ充ツ稅務屬ハ稅務管理局若クハ稅務署ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及檢査ニ從事ス

明治三十一年八月四日勅令第八十五號ヲ以テ本局官制中改正スル所アリ即チ本局ニ司稅官司稅官補及稅務屬ヲ置キ各局ニ局長一人ヲ置キ司稅官ヲ以テ之ニ充テ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅務ニ關スル法律命令ヲ執行シ其管轄內ノ事務ヲ管理ス司稅官ハ右局長タル者ノ外東京大阪名

明治二十九年十月二十日勅令第三百三十七號

古屋仙臺廣島熊本ノ各局ニ分屬シ局長ノ事務ヲ佐ク司稅官補ハ署長タル者ノ外各局ニ分屬シ局長ノ指揮ヲ承ケ稅務ノ監督ニ從事スルモノトス其他故ノ如シ

明治三十一年十月二十二日勅令第二百七十二號ヲ以テ本局官制中ヲ改正シ本局ニ局長司稅官及稅務屬ヲ置キ局長ヲ以テ司稅官ヨリ特立ノ官職トシ從來司稅官補ノ管掌セル事務ヲ以テ司稅官ノ管掌事務トス三十二年二月十日勅令第三十四號ヲ以テ更ニ本局官制中ヲ改正シ新ニ技手ヲ置キ稅務屬及技手ハ稅務管理局若クハ稅務署ニ分屬シ稅務屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及檢査ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ酒類ノ鑑定其他技術ニ關スル事務ニ從事スルモノトス

明治三十二年三月二十八日勅令第七十四號ヲ以テ本局官制中ヲ改正シ稅務屬ヲ判任官トス

明治三十三年四月四日大藏省訓令第十六號ヲ以テ稅務管理局收入官吏配置方ヲ定メ稅務署長那霸船政所長ヲ收入官吏トシ稅務管理局長ハ必要アル場合ニハ他ノ官吏ニ收入官吏ヲ命スルコトヲ得ト定ム明治三十四年三月八日大藏省訓令第三號ヲ以テ訓令第十六號中ニ改正ヲ加ヘ稅務管理局局長ハ主任收入官吏トシ稅務署長及那霸船政所長ハ所屬稅務管理局主任收入官吏ノ分任收入官吏トシ局長ハ必要ニ應シ他ノ官吏ニ分任收入官吏ヲ命スルコトヲ得トセリ

明治三十四年五月二十二日勅令第百十三號ヲ以テ稅務管理局官制中ヲ改正シ稅務管理局管轄內須要ノ地ニ稅務署及稅務支署ヲ置キ稅務署ノ位置及管轄區域ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定メ稅務支署ノ位置及管轄區域ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四 雜件

一 管理 明治二十九年十月ノ本局官制ハ本局ヲ以テ大藏大臣ノ管轄ニ屬スルモノトス

二 名稱位置及管轄區域 明治二十九年十月ノ本局官制ハ稅務管理局ノ名稱位置及管轄區域ハ別表ニ依ルヘキコトヲ規定ス今左ニ其別表トシテ定ムル所ニ依リ特ニ其名稱ヲ列記スレハ
 東京、大阪、名古屋、仙臺、金澤、廣島、丸龜、熊本、京都、長崎、宇都宮、松本、松江、鹿兒島、新潟、郡山、青森、秋田、松山、函館、札幌、根室、那覇ノ二十三局ナリトス
 明治三十一年八月ノ官制ノ改正ニ依リ右ノ別表ヲ改メ神戸、横濱ノ二局ヲ増置シ總テ二十五局ト爲ス

第二目 稅務署

第一 管務 稅務署ハ稅務管理局ノ下ニ在リテ前顯國稅徵收法ニ從ヒ收稅ノ事務ヲ管スルモノトス
 第二 職員 明治二十九年十月ノ稅務管理局官制ハ各稅務署ニ署長一人ヲ置キ司稅官補若クハ稅務屬ヲ以テ之ニ充テ上官ノ指揮ヲ承ケ其署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督スルモノトス而シテ稅務屬ハ稅務管理局及稅務署ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及檢査ニ從事スルモノトス三十一年十月ノ官制改正ニ依リ稅務署長ハ司稅官補若クハ稅務屬ヲ以テ之ニ充ツトアルヲ司稅官又ハ稅務屬ト改ム三十二年二月ノ官制改正ハ更ニ技手ヲ新設シ稅務屬及技手ハ稅務管理局若クハ稅務署ニ分屬シ稅務屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及檢査ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ酒類ノ鑑定其他技術ニ關スル事務ニ從事スルモノトス
 第三 雜件

一 設置 明治二十九年十月ノ稅務管理局官制ハ稅務管理局管轄内須要ノ地ニ稅務署ヲ設置スヘキコトヲ規定ス
 二 位置及管轄區域 明治二十九年十月二十日ノ稅務管理局官制ハ稅務署ノ位置及管轄區域ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘキコトヲ規定シ同日ノ勅令第三百四十六號ハ稅務管理局、稅務署及其管轄區域ヲ定メ管理局官制實施ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス
 三十年三月二十六日勅令第五十二號ヲ以テ右ノ稅務管理局、稅務署及其管轄區域別表中
 東京稅務管理局千葉縣ノ部中
 京都稅務管理局滋賀縣ノ部中
 大阪稅務管理局奈良縣ノ部中
 名古屋稅務管理局岐阜縣ノ部中
 仙臺稅務管理局巖手縣ノ部中
 松山稅務管理局ノ部中
 鹿兒嶋稅務管理局鹿兒嶋縣ノ部中
 改正ス
 三十一年八月四日勅令第八十六號ヲ以テ稅務管理局、稅務署及其管轄區域別表中ヲ改正ス即チ東京稅務管理局中神奈川縣ノ部、名古屋稅務管理局中靜岡縣ノ部及大阪稅務管理局中兵庫縣ノ部ヲ削リ大阪稅務管理局ノ次ニ横濱、神戸ノ二管理局ニ屬スル稅務署ヲ追加ス蓋シ此日横濱、神戸ノ二稅務管理局ヲ新設スルヲ以テナリ

且ツ大阪稅務管理局中奈良縣ノ部奈良稅務署添上郡ノ上ニ奈良市ヲ名古屋稅務管理局中三重縣ノ部四日市稅務署三重郡ノ上ニ四日市市ヲ松本稅務管理局中長野縣ノ部長野稅務署上水内郡ノ上ニ長野市ヲ青森稅務管理局中青森稅務署東津輕郡ノ上ニ青森市ヲ廣嶋稅務管理局中廣嶋縣ノ部尾道稅務署御調郡ノ上ニ尾道市ヲ加フ是等ハ當時町ノ市ニ編入セラレタルモノアリシノ結果ナリトス

三十三年三月二十九日勅令第八十二號ヲ以テ更ニ又

札幌稅務管理局北海道廳ノ部中

根室稅務管理局北海道廳ノ部中

東京稅務管理局群馬縣ノ部中

大阪稅務管理局大阪府ノ部稅務署名中

名古屋稅務管理局愛知縣ノ部稅務署名中

廣嶋稅務管理局岡山縣ノ部

ヲ改正ス

第三目 下級機關

第一 市町村制施行地ニ於ケル下級機關

一 管務 市町村制施行地方ニ於テハ市町村ハ稅務署ノ下ニ立チ國稅徵收法ニ從ヒテ收稅ノ事ヲ掌ルモノトス

二 職員 市町村ノ職員ハ明治二十一年四月十七日法律第一號市制及町村制ノ規定スル所ニシ

テ前既ニ詳述セシトコロナルヲ以テ今敢テ贅セス唯本期ニ入りテ變更ヲ受ケタルモノハ二十二
年法律第十二號市制中三市ニ於ケル特例ニシテ三十一年六月二十七日法律第十九號ヲ以テ之ヲ
廢止ス

三 雜件

(一) 市町村ノ性質 市制町村制ノ規定スル所ニシテ今再セス

(二) 市町村ノ分畫 市制町村制並ニ三府市制特例ノ規定スル所ナルヲ以テ今再セス唯本期ニ入り
テ特ニ變更ヲ受ケタルモノヲ擧クレハ明治三十一年六月二十七日法律第十九號ヲ以テ三府市制
特例ヲ廢止シ同日法律第二十號ハ二十一年法律第一號市制中ヲ追加シ

區長 東京都大阪ノ三市ニ於テハ市長ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ國ノ行政ニシテ市ニ屬スル
事務ヲ區長ニ分掌セシムルヲ得ルモノトシ且ツ區長ハ市長ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依
リ法律命令ヲ以テ市ニ屬シタル事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ管掌スルモノトス
區收入役 市ニ於テ處務ノ便宜ノ爲メ之ヲ數區ニ分テ每區ニ區長及其代理者ヲ設置スルヲ得
ルハ市制ノ定ムル所ナルカ本法律ハ更ニ東京都大阪三市ニ於テハ市會ノ議決ニ依リ區ニ區
收入役ヲ置クコトヲ得ルモノトス而シテ區收入役ハ區附屬員中ニ就キテ市參事會之ヲ命シ市
收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リテ區内ニ關スル市收入役ノ事務ヲ管掌スルモノト
ス

三十三年三月十日法律第四十六號ヲ以テ更ニ市制中ヲ改正シ有給區長區ノ附屬員及使丁並ニ區
收入役ヲ設置スルヲ得區長ヲ市參事會ニ於テ選任スルノ市ヲ東京都大阪三市ノ外人口二十萬

以上ノ市ニ擴張ス

第二 市町村制未施行地ニ於ケル下級機關

第一 北海道

北海道ニ於ケル北海道水産稅ハ明治三十年六月二十二日ノ國稅徵收法施行規則ニ依リテ水産物營業人組合ニ於テ徵收シ之ヲ金庫ニ送付スルモノトシ其他ノ國稅ハ國稅徵收法施行規則ニ依リテ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ稅務署所在ノ戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其町村内ノ國稅酒類造石ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘキコト、ナレルヲ以テ酒類造石稅並稅務署所在地ニ於ケル諸國稅ハ稅務署直接ニ納稅人ニ對シテ其金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發シ同署所在地外ニ在リテ、戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其町村内ノ國稅酒類造石ヲ徵收スルモノトス然ルニ越テ明治三十三年三月十九日勅令第四十七號ハ北海道區制ニ依ル區ヲ以テ國稅徵收法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ト指定シ同年六月九日勅令第二百六十號ハ更ニ北海道一級町村制ニ依ル町村ヲ以テ右ノ公共團體ト指定ス是ニ於テカ稅務署ノ下ニ立テ收稅ニ關與スル機關ハ水産物營業人組合ノ外ハ區及一級町村ト其他ノ町村トノ二機關ノ併行スルコト、ナレリ然ルニ文運ノ進歩ニ伴ヒ北海道經營ノ必要ヲ生シ明治三十四年三月法律第三號ヲ以テ北海道地方費ハ北海道地方稅其他地方ニ屬スル收入ヲ以テ之ヲ支辨スルコト、ナリタルカ故ニ水産稅ヲ廢シテ之ヲ同道地方稅ノ財源ニ移セリ而シテ明治三十五年二月勅令第三十七號ヲ以テ北海道二級町村制ヲ定メ三十五年勅令第五十五號ヲ以テ之ヲ公共團體ト指定ス今左ニ其區、一級町村、二級町村ノ性質吏員等ヲ説述スヘシ

一 北海道區制 明治三十年五月二十五日勅令第五百十八號ノ規定スル所ニシテ三十二年八月十七日勅令第三百七十八號ヲ以テ其一部ヲ改正シ同月二十二日内務省令第四十四號ヲ以テ此年十月一日ヨリ實施スルコト、シ九月四日内務省令第四十六號ヲ以テ區制施行地ヲ指定シ札幌函館及小樽ト爲ス右ノ區制ニ依ルトキハ

(一) 區ノ職員 區ニ區長、助役、收入役、收入役代理者、書記其他必要ノ附屬員ヲ置ク

區長 ハ一名有給吏員トシ其任期ハ六年トス内務大臣ハ區會ヲシテ區長候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ若シ其裁可ヲ得サルトキハ再推薦ヲ爲サシムヘシ區長ハ區ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任シ及法律命令ノ定ムル所ニ依リ區ニ關スル國及北海道地方費三十四年三月十四日勅令第十九號ヲ以テ條件改正ノ行政事務ヲ掌ル而シテ其事務ノ一部ハ區吏員ヲシテ臨時之ヲ代理セシムルヲ得又其國ノ行政事務ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルヲ得

助役 ハ一名有給吏員トシ其任期ハ六年トス但シ區條例ヲ以テ其定員ヲ增加スルコトヲ得

助役ハ區會之ヲ選舉シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ若シ其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲サシムヘシ助役ハ區長ノ事務ヲ補助ス區長ハ區會ノ同意ヲ得北海道廳長官ノ許可ヲ經テ助役ヲシテ區行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルヲ得助役ハ區長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

收入役 ハ一名トシ區長ノ推薦ニ依リ區會之ヲ選定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ收入役ハ法律命令中別段ノ規定アルモノ、外區ノ出納其他會計事務並ニ第二十二條ニ依ル國及北海道地方費三十四年三月十四日改正ノ出納區ニ關スル國ノ行政事務ニシテ區長ノ掌ルモノ其他會計事務

ヲ掌ル

収入役代理者 ハ一名トシ其選任ノ方法ハ收入役ニ同シ但シ區條例ヲ以テ其定員ヲ増加スルコトヲ得收入役代理者ハ收入役ノ事務ヲ補助ス區長ハ收入役及區會ノ同意ヲ得テ收入役代理者ヲシテ收入役ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得收入役代理者ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス收入役代理者數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

書記其他必要ノ附屬員 ハ有給吏員トシ其人員ハ區會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ區長之ヲ任免ス而シテ區長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

(二)區ノ性質 區ハ郡ノ區域ニ屬セス別ニ行政區畫トス但法律命令ニ依リ特ニ區ノ區域ト符合セサル行政區畫ヲ設クルヲ妨ケス區ハ法人トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務並ニ從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又ハ將來法律命令ニ依リ區ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス

(三)區ノ分畫 區ハ處務便宜ノ爲メ區規則ヲ以テ其區域ヲ數部ニ分ツコトヲ得部ニ部長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得部長及其代理者ハ名譽職トシ選舉權ヲ有スル區公民ノ中ニ就キ區會之ヲ選舉シ區長ノ認可ヲ受クヘシ而シテ區長ノ命令ヲ承ケ部内ニ關スル國ノ行政及區ノ行政ニ付區長ノ事務ヲ補助執行ス

二 北海道一級町村制 明治三十年五月二十五日勅令第五百五十九號ノ定ムル所ニシテ三十三年三月二十二日勅令第五十一號ヲ以テ其一部ヲ改正シ同年五月十九日內務省令第十九號ヲ以テ此年七月一日以降施行スルコト、シ並セテ其實施地ヲ指定ス右ノ町村制ニ依ルトキハ

(一)町村ノ職員

町村ニ町村長助役收入役代理者書記其他必要ノ附屬員ヲ置ク

町村長 ハ一名有給吏員トシ其任期ハ四年トス町村會之ヲ選舉シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ若シ其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲スヘシ町村長ハ町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス町村長ハ又法律命令ノ定ムル所ニ依リ町村ニ關スル國及北海道地方費令^{三十四年三月勅令第二十號}ヲ以テ改メ行政事務ヲ掌ル而シテ町村長ハ町村吏員ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得其國ノ行政事務ハ北海道廳支廳長ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得助役 ハ一名有給吏員トシ任期ハ四年トス但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ増加スルコトヲ得其ノ選任ノ方法ハ町村長ニ同シ助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス町村長ハ町村會ノ同意ヲ得北海道廳支廳長ノ許可ヲ經テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得助役ハ町村長故障アルトキハ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

収入役 ハ一名トシ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ收入役ハ法律命令別段ノ規定アルモノ、外町村ノ出納其他會計事務並ニ第二十一條ニ依ル國及北海道地方費^{三十四年三月勅令第二十號}ヲ以テ改正^第ノ出納町村ニ關スル國ノ行政事務ニシテ町村長ノ掌ルモノ其他會計事務ヲ掌ル

収入役代理者 ハ一名トシ特ニ町村條例ヲ以テ設置スルコトヲ得其選任ノ方法ハ收入役ニ同シ收入役代理者ハ收入役ノ事務ヲ補助ス町村長ハ收入役及町村會ノ同意ヲ得テ收入役代理者ヲシテ收入役ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルヲ得又收入役故障アルトキハ之ヲ代理ス書記其他必要ノ附屬員 ハ有給吏員トシ其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ町村長之ヲ

任免ス而シテ附屬員ハ町村長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス
町村ノ性質 町村ハ法人トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務竝ニ從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又ハ將來法律命令ニ依リ町村ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス

(二)町村ノ分畫 町村ハ處務便宜ノ爲メ町村規則ヲ以テ町村ノ區域ヲ數部ニ分ツコトヲ得部ニ部長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得部長及其代理者ハ名譽職トシ選舉權ヲ有スル町村公民ノ中ニ就キ町村長之ヲ任免ス而シテ部長及其代理者ハ町村長ノ命令ヲ承ケ部内ニ關スル國ノ行政及町村ノ行政ニ付町村長ノ事務ヲ補助執行ス

三 北海道二級町村制 明治三十五年二月勅令第三十七號ヲ以テ之ヲ定メ同年四月一日ヨリ施行スルコト、シ竝テ其實施地ヲ指定ス右ノ町村制ニ依ルトキハ

(一)町村ノ職員 町村ニ町村長書記收入役其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ有給吏員トス
町村長 ハ有給吏員一名トシ其任期ハ四年トシ北海道廳長官之ヲ任免ス町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表シ其行政事務ヲ擔任ス町村長ハ又法律命令ノ定ムル所ニ依リ町村ニ關スル國及北海道地方費ノ行政事務ヲ掌ル但書記ヲシテ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
收入役 ハ一名トシ町村會ヲ推薦ニヨリ北海道廳支廳長之ヲ任命シ其ノ任期ハ四箇年トス
收入役ハ町村ノ出納其他會計事務又ハ第八條ニ依ル國及北海道地方費ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル收入役缺ケタルトキハ北海道廳支廳長ハ書記ノ一人ヲシテ臨時其ノ職務ヲ兼掌セシムルコトヲ得特別ノ事情アル町村ニ於テハ北海道廳支廳長ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ

町村長又ハ書記ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

書記其他必要ノ附屬員 ハ有給吏員トシ其人員ハ北海道廳長官之ヲ定メ町村長之ヲ任免ス而シテ町村長ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

(二)町村ノ性質 町村ハ法人トシ官ノ監督ヲ受ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務及法律命令又ハ慣例ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理スルモノトス

第二 沖繩縣

明治三十年三月ノ國稅徵收法ニ沖繩縣ニハ當分ニ之ヲ實施セサルヘキヲ規定セルヲ以テ隨テ本縣ニ於ケル下級ノ收稅機關ハ前ニ述ヘタル二十二年勅令第四百一號ニ基キテ國稅ヲ徵收スルモノナリ而シテ其稅務署ノ下ニ立テ收稅ノ事務ニ關涉スルノ機關ハ區間切嶋及村ノ吏員ナリ區ノ性質及職員ニ付テハ前既ニ詳述セル所ナルヲ以テ今再ヒ述ヘス區間切嶋及村ノ吏員ニ付テハ三十年三月二十九日勅令第五十六號沖繩縣區間切嶋吏員規程アリ之ニ依ルトキハ

一 一般地方

(一)區間切 區間切長一名收入役一名書記若干名ヲ置ク但シ場合ニ依リ沖繩縣知事ハ書記ヲシテ收入役ヲ兼務セシムルコトヲ得右ノ外郡長嶋司ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ區間切ニ必要ノ附屬員ヲ置クコトヲ得又郡長嶋司ニ於テ必要ト認ムルトキハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ區間切ニ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得而シテ沖繩縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ數區間切ニ一名ノ區間切長及其他ノ區間切吏員ヲ置クコトヲ得

區間切長 ハ沖繩縣知事之ヲ任免シ上司ノ指揮監督ヲ承ケ區間切ヲ統轄シ法律命令若クハ慣例ニ

依リ其行政事務ヲ擔任ス

書記 ハ沖繩縣知事之ヲ任免シ間切長ノ命令ヲ承ケ庶務ニ從事ス間切長故障アルトキハ上席書記其職務ヲ代理ス間切長ハ書記ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

收入役 ハ沖繩縣知事之ヲ任免シ間切ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

附屬員 ハ郡長嶋司之ヲ任免シ間切長ニ屬シ其命令ヲ承ケ庶務ニ從事ス

委員 ハ郡長嶋司之ヲ任免シ間切長ノ指揮監督ヲ承ケ其事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

(二) 村 間切内ノ村ニ村頭一名ヲ置ク但シ沖繩縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ數村ニ一名ノ村頭ヲ置キ又ハ村ニ村頭ヲ置カサルコトヲ得其他郡長嶋司ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ間切内ノ村ニ必要ノ附屬員ヲ置クコトヲ得

村頭 ハ沖繩縣知事之ヲ任免シ間切長ノ命令ヲ承ケ村内ニ關スル間切長ノ事務ヲ補助執行ス間切長ハ郡長ノ許可ヲ得テ村内ニ關スル其事務ノ一部ヲ村頭ニ委任スルコトヲ得

附屬員 ハ郡長嶋司之ヲ任免シ村頭ニ屬シ其命令ヲ承ケテ庶務ニ從事ス

二 特例

(一) 嶋尻郡粟國嶋渡名喜嶋伊平屋嶋鳥嶋及國頭郡伊江嶋ノ各嶋ニ於ケル特例

此等ノ諸嶋ニ於テハ嶋長一名及收入役書記ヲ置キ其他附屬員委員ヲ置クコトヲ得又各嶋内ノ村ニ村頭附屬員ヲ置クコトヲ得而シテ嶋長ニ關シテハ間切長ニ關スル規程ヲ準用シ其他ノ吏

員ニ關シテハ間切吏員ニ關スル規程ヲ準用ス

(二) 宮古郡八重山郡ニ於ケル特例

此兩郡ニ於テハ各郡ノ區域ヲ以テ一間切ト看做ス八重山郡與那國嶋ハ一村ト看做ス間切ニ間切長書記ヲ置カス間切長ノ職務ハ嶋司之ヲ行ヒ書記ノ職務ハ嶋廳書記之ヲ行フ收入役ハ嶋廳書記ノ中ニ就キ沖繩縣知事之ヲ命ス嶋司ハ村内ニ關スル間切事務ノ一部ヲ村頭ニ委任スルコトヲ得

沖繩縣ニハ從來地租條例及國稅徵收法ヲ施行セサルコト前顯ノ如シト雖モ近來土地整理ノ事務略々完成シタルヲ以テ明治三十五年十二月二十五日勅令第二百七十五號ヲ以テ三十六年一月一日ヨリ之ヲ宮古八重山兩郡ニ施行スル旨公布セラレ同時ニ勅令第二百七十六號ヲ以テ沖繩縣間切嶋規程ニ係ル間切嶋ヲ國稅徵收法第三十三條ニ依リ公共團體ト指定セラレ三十三年三月勅令第四十七號中ニ其旨ヲ追加セリ

第三 小笠原嶋及伊豆七嶋

明治三十年三月ノ國稅徵收法ハ東京府管内小笠原嶋伊豆七嶋ニハ當分ニ施行セサルヘキヲ規定セリ隨テ其ノ稅務署ノ下ニ立テ收稅ノ事ニ關涉スル下級機關ハ前期述ヘタル所ニ同シ

第四 其他ノ地方

其他ノ地方ニ在リテハ前顯國稅徵收法施行規則ニ依リ酒類造石稅竝ニ稅務署所在地ニ於ケル諸國稅ハ稅務署收稅官吏直接ニ納稅人ニ對シ納稅告知書ヲ發シ稅務署所在地以外ニ於テハ戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其町村内ノ國稅酒類造石ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムモノトス

明治三十五年四月ノ國稅徵收法施行細則ハ市町村制ヲ施行セサル地方稅務署所在地ヲ除クノ戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村內ノ國稅酒類酒精酒精含有飲料並醬油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除クヲ徵收シ金庫ニ拂込ムモノトス

第二項 後 期

第一目 稅務監督局

第一 管務 明治三十五年十月勅令第二百四十一號ヲ以テ稅務監督局官制ヲ制定シ大藏大臣管理ノ下ニ內國稅ニ關スル事務ヲ監督スルコト、セリ而シテ本令ハ同月五日ヨリ之ヲ施行シ稅務監督局官制及明治二十九年勅令第三百四十六號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止スル旨ヲ附則ヲ以テ定メタリ

第二 分掌 明治三十五年一月四日稅務監督局分課規定ヲ定メ直稅部間稅部經理部鑑定部ノ四部ヲ置ク今其ノ事務ノ分掌ヲ見ルニ

(一)直稅部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 直稅ノ監督ニ關スルコト
- 二 直稅ノ賦課及減免ニ關スルコト
- 三 民有地種目變換ニ關スルコト
- 四 土地臺帳及地圖ニ關スルコト
- 五 直稅ニ係ル訴願ノ裁決ニ關スルコト

(二)間稅部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 間稅ノ檢查監督ニ關スルコト
- 二 間稅ノ賦課及減免ニ關スルコト
- 三 間接國稅犯則者處分ニ關スルコト
- 四 間稅ニ係ル訴願ノ裁決ニ關スルコト

(三)經理部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 徵收及會計庶務ノ監督ニ關スルコト
- 二 內國稅徵收及稅外收入ニ關スルコト
- 三 滯納處分ニ係ル訴願ノ裁決ニ關スルコト
- 四 歲入概算及決算ニ關スルコト
- 五 拂戻及誤納下戻ニ關スルコト
- 六 會計ニ關スルコト
- 七 營繕ニ關スルコト
- 八 文書ニ關スルコト
- 九 官報報告ニ關スルコト
- 十 統計及報告ニ關スルコト
- 十一 局中取締ニ關スルコト
- 十二 他部ニ屬セサルコト

(四) 鑑定部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 分析ニ關スルコト
 二 鑑定ニ關スルコト
 各部ノ外人事及機密ニ關スル事務ヲ處理スル爲メ秘書係一名ヲ置キ局長ニ直屬セシムルコトヲ得トセリ

第三 職員 明治三十五年十一月勅令第二百四十一號ノ稅務監督局官制ハ各稅務監督局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 十八人 奏任
- 事務官 專任五十九人 奏任
- 稅務屬 專任四百人 判任
- 技手 專任百人

局長 ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ管轄内ニ於ケル内國稅事務ヲ管理シ稅務署長ヲ指揮監督ス局長ハ稅務署長ノ處分法律命令ニ違犯スト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得局長ハ又部下ノ官吏ヲシテ間接國稅ニ關スル檢査ヲ行ハシムルコトヲ得且ツ部下ノ官吏ヲ監督シ稅務監督局及稅務署判任官ノ任免ヲ大藏大臣ニ具狀ス

事務官 ハ各局ニ分屬シ局務ヲ掌ル
 稅務屬 ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス右官制ノ改革ニ伴ヒ三十三年大藏省訓令第十六號中ニ改正(三十五年十一月大藏省訓令第四十三

號ヲ加ヘタリ
 第四 雜件 明治三十五年十月ノ改正官制ハ稅務監督局ノ名稱位置及管轄區域ヲ定メタリ今左ニ之ヲ表示ス

稅務監督局名稱位置及管轄區域表

名 稱	位 置	管 轄 區 域
札幌稅務監督局	札幌	北海道
東京稅務監督局	東京	東京府 埼玉縣 千葉縣 山梨縣
京都稅務監督局	京都	京都府 滋賀縣
大阪稅務監督局	大阪	大阪府 奈良縣 和歌山縣
橫濱稅務監督局	橫濱	神奈川縣 靜岡縣
神戶稅務監督局	神戶	兵庫縣 岡山縣
長崎稅務監督局	長崎	長崎縣 佐賀縣
長野稅務監督局	長野	新潟縣 長野縣
宇都宮稅務監督局	宇都宮	栃木縣 茨城縣 群馬縣
名古屋稅務監督局	名古屋	愛知縣 三重縣 岐阜縣
仙臺稅務監督局	仙臺	宮城縣 巖手縣 福嶋縣

秋田稅務監督局
 金澤稅務監督局
 松江稅務監督局
 廣嶋稅務監督局
 丸龜稅務監督局
 熊本稅務監督局
 鹿兒嶋稅務監督局

秋田	青森縣	秋田縣	山形縣
金澤	石川縣	福井縣	富山縣
松江	嶋根縣	鳥取縣	
廣嶋	廣嶋縣	山口縣	
丸龜	香川縣	德嶋縣	高知縣
熊本	熊本縣	福岡縣	大分縣
鹿兒嶋	鹿兒嶋縣	宮崎縣	沖繩縣
			愛媛縣

第二目 稅務署

第一 管務 明治三十五年十月勅令第二百四十二號ヲ以テ稅務署官制ヲ改定シ稅務署ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ內國稅ニ關スル事務ヲ執行スルモノトセリ

第二 分掌 明治三十五年十一月稅務署分課規程ヲ定メ稅務署ニ直稅課間稅課庶務課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

- (一) 直稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 直稅ノ賦課及減免ニ關スルコト
 - 二 直稅ノ檢査ニ關スルコト
 - 三 民有地地種目變換ニ關スルコト
 - 四 登錄稅ニ關スルコト

五 土地臺帳及地圖ニ關スルコト
 六 直稅ニ係ル訴願及訴訟ニ關スルコト

- (二) 間稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 間稅ノ賦課及減免ニ關スルコト
 - 二 間稅ノ監視檢査檢定及査定ニ關スルコト
 - 三 間接國稅犯則者處分ニ關スルコト
 - 四 間稅ニ係ル訴願及訴訟ニ關スルコト

(三) 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 內國稅ノ徵收及稅外收入ニ關スルコト
- 二 滯納處分ニ係ル訴願及訴訟ニ關スルコト
- 三 拂戻及誤納下戻ニ關スルコト
- 四 經費ニ關スルコト
- 五 物品ノ出納及保管ニ關スルコト
- 六 印紙類出納保管及賣下ニ關スルコト
- 七 管繕ニ關スルコト
- 八 文書ニ關スルコト
- 九 官報報告ニ關スルコト
- 十 統計及報告ニ關スルコト

- 十一 署中取締ニ關スルコト
- 十二 機密ニ關スルコト
- 十三 他課ニ屬セサルコト

分析鑑定ニ關スル事務ヲ分掌セシムル爲メ鑑定課ヲ置クコトヲ得ルモノトセリ

第三 職員 稅務署改正官制ハ各稅務署ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

稅務官 七 十 五 人 奏任

稅務屬 專任四千五百十四人 判任

技手 專任 二百 人

稅務官 ハ署長トナル稅務官ヲ置カサル署ニ在リテハ稅務屬ヲ以テ署長ニ充ツ署長ハ稅務監督局長ノ指揮監督ヲ承ケ内國稅ニ關スル法律命令ヲ執行シ其ノ管轄内ノ事務ヲ處理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

稅務屬 ハ署長ノ指揮ヲ承ケ庶務及檢査ニ從事ス

技手 ハ署長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第四 雜件

名稱位置及管轄區域 稅務署ノ改正官制ハ稅務署ノ名稱位置及管轄區域ヲ別表ヲ以テ定メ明治三十五年勅令第二百七十四號ヲ以テ表中一部ノ改正ヲ爲セリ

第三目 下級機關

下級機關ハ前期ト異ル所ナキヲ以テ茲ニ再說セス

第二節 海關稅務地方機關

第一款 海關稅務地方機關ノ第一期

安政以降徳川幕府ニ於テ漸次長崎神奈川函館兵庫諸港及大阪市場ヲ開キ長崎以下四港ニ運上所ヲ置キ以テ稅關ノ事務ヲ執行セシム

明治維新ノ初メ大阪ノ開市場ヲ改メテ開港場ト爲シ又新ニ新潟港及東京市場ヲ開キ大阪新潟兩港ニハ各運上所ヲ設置シ以テ稅關事務ヲ執行セシム而シテ當時之ヲ統轄セシハ外國事務局ニシテ各其地方官ヲシテ其事務ヲ措置セシメタリシカ後外國官ノ所管ニ轉屬シ尋テ外務省ニ移リ明治四年八月ニ至リテ大藏省ノ所管トナレリ

第二款 海關稅務地方機關ノ第二期

第一項 管 務

明治四年稅關事務ヲ大藏省ノ所管ト爲スヤ同年十一月十日各港運上所職制ヲ定メ各港運上所ニ長官以下ノ職員ヲ置キ其港海外輸出入ノ租稅ヲ管理セシメタリ後明治十五年三月三十日稅關職制章程ヲ改定シ稅關ハ關稅局ニ屬シ海外輸出入貨物ノ稅務ヲ管理スル所トセリ

第二項 分 掌

明治四年十一月十日制定ノ運上所職制ハ運上所ニ検査税額、收税、翻譯及庶務ノ五課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム明治五年正月十二日運上所巡邏卒本船番ノ稱ヲ廢シ選卒、視船ノ二課ヲ置キ同年二月七日運上所選卒課ヲ巡警課、視船課ヲ監船課ト改稱シ同年七月十七日運上所巡警監船ノ二課ヲ並合シ巡警吏ト改ム

明治五年十月二十二日横濱運上所ノ分課ヲ改メ検査收税、倉庫、文書、諸務ノ五課ト爲シ同年十一月二日横濱運上所巡警吏ヲ監吏ト改稱シ海陸監吏課ヲ設置ス同月十三日横濱以外ノ各港運上所ノ分課ヲ定ム其内容ハ横濱運上所ニ同シ六年一月十日横濱税關ノ海陸監吏課ヲ廢シ更ニ監吏課ヲ置ク七年一月二十日各港税關ノ職制章程ヲ改メ検査收税、倉庫、諸務、監吏ノ五分課ト爲ス九年七月二十四日横濱税關ニ鑑定課ヲ設置セリ

明治十五年三月三十日税關ノ分課ヲ改正シ検査、鑑定、收税、倉庫、諸務、監視ノ六課ヲ置キ十七年七月十八日更ニ之ヲ改定シ税關ニ検査、鑑定、收税、倉庫、文書製表、監視及會計ノ八科ヲ置ケリ

第三項 職員

明治四年十一月十日各港運上所ノ職制ヲ定メ各運上所ニ長官及次官ヲ置キ長官ハ租稅權頭助權助ノ内ヲ以テ之ニ充テ又次官ヨリ權少屬ニ至ル各官ヲ置キ各其事務ニ從事セシム五年十一月二日横濱運上所ヲ以テ各港運上所ノ本局ト定メタルニ依リ横濱運上所ニ特ニ長官ヲ置キ租稅權頭ヲ以テ之ニ充テ他ノ運上所ニ次官ヲ置キ租稅助及權助ヲ以テ之ニ充テ又各運上所ニ大屬權大屬中屬權中屬少屬權少屬十四等出仕、十五等出仕、一等乃至七等ノ譯官及監吏總長、監吏副總長、海監吏

長、海監吏副長、大海監吏、中海監吏、少海監吏、陸監吏長、陸監吏副長、大陸監吏、中陸監吏、少陸監吏ノ各官ヲ置ケリ

明治六年一月十日税關監吏課章程ヲ定メ監吏總長、監吏副總長、監吏長、監吏副長及大中小監吏ヲ置ク七年一月二十日横濱税關本局ノ稱ヲ廢シ各港税關職制章程ヲ改メ各税關ニ税關長ヲ置キ租稅助權助七等出仕ヲ以テ之ニ充テ横濱税關ハ特ニ副長ヲ増置セシム其他ノ各官ハ故ノ如シ

明治十年五月二十六日税關ニ一等ヨリ九等ニ至ル監吏(以上)及一等ヨリ四等ニ至ル監吏補(以上)ヲ置ク十一年十月二十三日税關ニ鑑定役判任及鑑定役見習等外ヲ置ク同年十二月四日一等監吏補以下ノ官等ヲ改メテ等外吏ト爲ス

明治十七年五月二十日大藏省中ニ主税官ヲ置キテ税關長及税關副長ニ充ツ但シ税關副長ハ横濱税關ニ限リ之ヲ置キ又同時ニ一等ヨリ十等ニ至ル主税屬一等ヨリ八等ニ至ル主税監吏(以上)及一等ヨリ四等ニ至ル主税監吏補(以上)ヲ置ク同年六月十三日鑑定役ヲ主税鑑定役ニ鑑定役見習ヲ主税鑑定役見習ニ改メタリ

第四項 雜件

第一目 税關ノ名稱

明治四年十二月二十四日神奈川運上所ヲ横濱運上所ト改メ五年十一月二日横濱運上所ヲ各港運上所ノ本局ト稱ス同月二十八日從來運上所又ハ税關ト稱ヘ稱呼一ナラサリシヲ以テ爾後一ニ税關ト稱セシム七年一月二十日横濱税關本局ノ稱ヲ廢ス

第二目 税關ノ管理

明治四年八月從來外務省ノ管理セル各開港開市場ノ稅務ヲ大藏省ニ轉屬スルヤ之ヲ東京大阪ノ二府及北海道開拓使、神奈川、兵庫、長崎、新潟ノ四縣ニ訓示シ姑ラク舊ニ仍リテ事務ヲ措置セシム尋テ十月ニ至リ先ツ神奈川運上所ヲ租稅寮ノ直轄ト爲シ神戸運上所ハ五年五月十三日、大阪運上所ハ七月朔日、長崎運上所ハ同日日關孰レモ租稅寮ノ直管ト爲ス同年十一月二日横濱運上所ヲ本局ト爲シ各港運上所ヲ管理セシメ六年三月五日神戸稅關ヲシテ大阪稅關ノ稅務ヲ兼ネ管理セシメタリ

明治七年一月二十日横濱稅關本局ノ稱ヲ廢シ各港稅關ヲ以テ租稅寮ノ直管ニ復ス八年八月十五日北海道開拓使ノ直轄セル函館稅關ヲ租稅寮ノ直管ト爲シ同年九月二十一日新潟縣ノ管轄セル新潟稅關ヲ租稅寮ノ直管ト爲ス

明治十年一月十一日大藏省租稅寮ヲ廢シ關稅局ヲ新設スルヤ各港稅關ヲ關稅局ノ主管ニ屬シ十五年三月三十日稅關職制章程ヲ改定シ尙ホ關稅局ノ主管ニ屬シ十七年五月二十日關稅局ヲ廢シ主稅局ノ主管ト爲ス

第三目 税關支廳

横濱稅關出張所 明治七年五月十三日元東京府ノ管轄タリシ築地稅關及品川尋問所ヲ大藏省租稅寮ノ管理ニ移シ築地稅關ヲ横濱稅關出張所ト品川尋問所ヲ横濱稅關監吏出張所ト改メ八年八

月二十四日築地横濱稅關出張所ヲ租稅寮出張所ト改稱シ租稅寮ノ直轄ト爲シ品川監吏出張所ヲ廢止ス十年一月二十三日築地租稅寮出張所ヲ關稅局出張所ト改メシカキ七年五月二十日關稅局ノ廢止ニ因リ之ヲ築地主稅局第一部出張所ト改稱ス十九年三月一日更ニ關稅局ノ設置ニヨリ同年十二月十二日築地主稅局第一部出張所ヲ改メテ築地關稅局出張所ト爲セリ

長崎稅關出張所 明治八年八月二十五日長門國下ノ關港ニ外國通航郵船ノ寄港取締ノ爲メ長崎稅關監吏出張所ヲ置ク十一年五月二十二日三池石炭海外直輸出ノ爲メ肥前國口ノ津港ニ長崎稅關出張所ヲ置ク十五年五月六日石炭直輸出ノ爲メ唐津港ニ長崎稅關出張所ヲ置ク同年六月二十四日下ノ關監吏出張所ヲ下ノ關長崎稅關出張所ト改稱ス十七年二月一日朝鮮國トノ貿易上ノ必要ニヨリ對馬國嚴原長門國下ノ關筑前國博多ノ三港ニ長崎稅關出張所ヲ置ク同年五月三十日唐津長崎稅關出張所ヲ閉ツ十八年五月三十日石炭直輸出ノ爲メ豐前國門司港ニ長崎稅關出張所ヲ置ク十九年三月十八日石炭直輸出ノ爲メ琉球國八重山地方入表嶋宇內離嶋ニ長崎稅關出張所ヲ置ク

新潟稅關出張所 明治八年十月十四日相川縣所轄ノ夷港繫船所ヲ新潟稅關出張所ト改稱シ之ヲ租稅寮ノ直轄ト爲ス

函館稅關出張所 明治十一年六月十三日北海道小樽岩內室蘭及根室ノ四港ヲ以テ該道ノ產物直輸出港ト爲シ小樽港ニ函館稅關出張所ヲ置キ十四年一月十四日小樽出張所ヲ閉シ十九年二月二十六日復小樽港ニ出張所ヲ置ケリ

第三款 海關稅務地方機關ノ第三期

第一項 管 務

明治十九年三月二十五日勅令第七號ヲ以テ稅關官制ヲ規定シ各稅關ハ大藏大臣ノ管轄ニ屬シ海關稅及諸收入ノ事ヲ掌理スル旨ヲ定メタリ明治二十三年七月二十四日勅令第四百四十二號ヲ以テ稅關官制ヲ改正シ稅關ハ海關稅務ヲ掌ル旨ヲ規定シタルモ未タ其管務ヲ示スコトナカリシカ明治二十六年十月三十日勅令第三百三十八號ヲ以テ稅關官制ヲ改正スルニ及ヒ其所管事務ヲ明記シ稅關ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトセリ

- 一 各開港ニ於ケル西洋形船舶及外國通航ノ日本形船舶ノ出入ニ關スル事項
 - 二 貨物ノ輸出入ニ關スル事項
 - 三 各開港外ニ於ケル外國貿易取締ニ關スル事項
 - 四 各開港外ニ於ケル輸出入貨物搭載ノ船舶出入ニ關スル事項
 - 五 海關稅及稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項
 - 六 稅關管理ノ倉庫ニ關スル事項
- 明治三十年六月十七日勅令第二百二號ヲ以テ稅關官制ノ改正アリ稅關ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトセリ
- 一 各開港ニ於ケル西洋形船舶及外國通航ノ日本形船舶ノ出入及港内解舟ノ取締ニ關スル事項

- 二 貨物ノ輸出入ニ關スル事項
 - 三 各開港外ニ於ケル外國貿易取締ニ關スル事項
 - 四 各開港外ニ於ケル輸出入貨物搭載ノ船舶出入ニ關スル事項
 - 五 海關稅及稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項
 - 六 稅關管理ノ倉庫ニ關スル事項
 - 七 私設保稅倉庫監督ニ關スル事項
 - 八 保稅倉庫藏置ノ貨物運搬取締ニ關スル事項
- 明治三十二年四月二十一日勅令第六百六十一號ヲ以テ稅關官制ヲ改正シ稅關ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトセリ

- 一 關稅噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項
 - 二 保稅倉庫其他ノ倉庫ニ關スル事項
 - 三 船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項
 - 四 關稅法及噸稅法犯則者ノ處分ニ關スル事項
 - 五 酒類造石稅醬油稅下戻及製造煙草輸出交付金ニ關スル事項
 - 六 關稅通路ノ取締ニ關スル事項
- 明治三十五年十月三十一日勅令第二百三十八號ヲ以テ稅關官制中稅關ノ掌理スヘキ事務ニ左ノ一項ヲ加フ
- 七 稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラル、砂糖ノ消費稅及骨牌ノ課稅ニ關スル事項

第二項 分掌

明治十九年三月二十五日制定ノ税關官制ニ於テハ各税關ニ検査課鑑定課收稅課倉庫課監視課文書課製表課會計課ノ八課ヲ置キテ其事務ヲ分掌セシム

明治二十六年十一月八日税關分課規程ヲ改定シ從來ノ八課ヲ減シテ五課一部トナシ各税關ニ検査課鑑定課徵收課倉庫課庶務課監視部ヲ置キ各分掌スル所アラシム二十九年六月十日分課規程中ヲ改正シ新ニ税關長官房ヲ置キ庶務課中ノ事務ノ一部ヲ割テ之ヲ管掌セシム

明治三十二年四月二十五日税關分課規程ヲ改正シ各税關ニ税關長官房監視部検査課鑑定課徵收課貨物課庶務課ヲ置キ各分掌スル所アラシム但シ税關監視部ヲ置クコトハ同月二十一日改正税關官制第十三條ノ規定スル所ニ屬ス

第三項 職員

明治十九年三月制定ノ税關官制ニ依レハ税關ニ税關長税關副長屬監吏鑑定吏ヲ置キ各其擔任ヲ定ム即チ税關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ海關稅及諸收入ノ事ヲ掌理シ其主務ニ就キ關稅局長ト協辦スルコトアルヘシ税關副長ハ横濱神戸ノ兩税關ニ限リ之ヲ置キ税關長ノ事務ヲ佐ケ税關長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ニ從テ監吏ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ密商脫稅監視ノ事ニ從テ鑑定吏ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ貨物鑑定ニ從事ス而シテ監吏鑑定吏ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得ルモノトセリ二十年十二月二十五日税關官

制中改正スル所アリ新ニ鑑定官ヲ置キ税關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物鑑定ノ事ヲ掌ルモノトセリ

明治二十三年七月改正税關官制ハ税關ニ税關長税關副長鑑定官鑑定官試補屬鑑定吏監吏監吏補ヲ置ク其規定ニヨレハ税關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ税關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス税關副長ハ横濱神戸兩税關ニ限リ之ヲ置キ税關長ノ事務ヲ助ケ税關長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス鑑定官ハ税關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物検査鑑定ノ事ヲ掌理ス鑑定官ハ又課長ヲ兼スルコトヲ得屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ニ從テ鑑定吏ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ貨物検査鑑定ノ事ニ從テ監吏ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ密商脫稅監視ノ事ニ從テ監吏補ハ監吏ノ事務ヲ助ク二十四年七月二十四日勅令第三百二十三號ヲ以テ官制中ヲ改正シ税關長ノ定員ヲ減シ大阪税關長ハ神戸税關長若クハ副長之ヲ兼ネ新潟税關長ハ新潟縣收稅長之ヲ兼ヌルモノトセリ

明治二十六年十月改正ノ官制ニ於テハ各税關ニ税關長鑑定官屬鑑定吏監吏監吏補ヲ置ク但大阪税關長ハ神戸税關長新潟税關長ハ新潟縣收稅長ヲシテ之ヲ兼ネシム税關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ税關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ鑑定官ハ税關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物検査鑑定ノ事ヲ掌理ス屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ鑑定吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物検査鑑定ニ從事ス又監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ密商脫稅ノ監視ニ從事シ監吏補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏ノ事務ヲ助ク二十九年十月二十日勅令第三百四十一號ヲ以テ新潟縣收稅長ノ新潟税關長兼任ヲ改メテ新潟稅務管理局長ヲシテ之ヲ兼ネシム

明治三十年六月改正税關官制ハ各税關ニ税關長一人ヲ置キ各税關ヲ通シテ検査官鑑定官監視官

屬鑑定官補技手、監吏及監吏補ヲ置ク而シテ税關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ税關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス。検査官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ輸出入申告書其他諸文書ノ監査ニ關スル事務ヲ掌理シ。鑑定官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ輸出入貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス。又監視官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ監吏、監吏補ヲ監督シテ關稅警察ニ關スル事務ヲ掌理シ。屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス。鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ輸出入貨物ノ検査鑑定ノ事務ニ從事シ。技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工事ニ從事ス。又監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ關稅警察ニ從事シ。監吏補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏ノ事務ヲ助ク。三十一年十月二十二日勅令第二百七十一號ヲ以テ右官制中ヲ改正シ。検査官、監視官及屬ヲ廢シテ新ニ事務官及事務官補ヲ置キ。事務官ハ各税關ニ分屬シ。税關長ノ事務ヲ助ケ。税關長事故アルトキハ之ヲ代理スルモノトシ。事務官補ハ從前屬ノ管掌事務ヲ掌理スルモノトセリ。

明治三十二年四月改正ノ官制ハ税關ニ税關長一人ヲ置クノ外。税關ヲ通シテ事務官、監視官、鑑定官、事務官補、監視、鑑定官補、監吏及技手ヲ置ク而シテ。税關長ハ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケ。税關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス。事務官ハ税關支署長タル者ノ外。税關ニ分屬シテ。税關長ノ事務ヲ助ケ。監視官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ。關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理シ。鑑定官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ。貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス。事務官補ハ税關支署長タル者ノ外。上官ノ指揮ヲ承ケ。庶務ニ從事ス。又監視ハ税關監視部長若クハ税關監視署長タル者ノ外。上官ノ指揮ヲ承ケ。關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事シ。鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ。貨物ノ検査鑑定ニ從事ス。監吏ハ税關監視署長タル者ノ外。上官ノ指揮ヲ承ケ。關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス。ルモノトセリ。

第四項 雜件

第一目 税關ノ管理

明治十九年三月制定ノ税關官制ハ。税關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承クヘキコトヲ規定シ。二十三年七月改正以後ノ各官制ハ。皆税關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬スル旨ヲ明記シタリ。

第二目 税關ノ位置

第二期ニ於テモ。既ニ横濱、大阪、神戸、長崎、新潟及函館ノ六港ニ税關アリ。然ルニ本期ノ初ニ當テハ未タ其所在港名ヲ官制中ニ掲載セス。其之アルニ至レルハ。明治二十六年十月三十日改正ノ官制ヲ以テ。嚆矢トス。爾來三十年六月改正官制並三十二年四月改正官制亦孰レモ之カ爲メニ。特ニ一條ヲ置クニ至レリ。後明治三十五年十月三十一日勅令第二百三十八號ヲ以テ。税關官制第二條ヲ改正シテ。六港ヲ五港ニ改メ。新潟税關ヲ削レリ。

第三目 管轄區域

明治二十三年九月六日勅令第二百四號ヲ以テ。税關管轄區域ヲ定ム之ニ依レハ。各税關所管區域左ノ如シ。

横濱税關 陸前、磐城、常陸、下總、上總、安房、武藏、相模、伊豆、駿河、遠江、十一箇國及小笠原嶋ノ沿岸

大阪稅關 三河尾張伊勢志摩紀伊和泉攝津以西成郡七箇國ノ沿岸
 神戸稅關 攝津以西播磨備前備中備後安藝周防長門石見出雲伯耆因幡但馬丹後隱岐伊豫土佐
阿波讚岐淡路二十箇國ノ沿岸
 長崎稅關 肥前肥後筑前筑後豐前豐後日向大隅薩摩壹岐對馬琉球十二箇國ノ沿岸
 新潟稅關 若狹越前加賀能登越中越後羽前羽後佐渡九箇國ノ沿岸
 函館稅關 陸奥陸中渡嶋後志石狩天鹽北見根室千嶋釧路十勝日高膽振十三箇國ノ沿岸
 明治三十二年四月二十一日勅令第六十八號ヲ以テ二十三年勅令第二百四號中ヲ改正シ神戸稅關管轄區域中周防長門ヲ削リ二十箇國ヲ十八箇國ニ改メ長崎稅關管轄區域中肥前ノ上ニ周防長門ヲ加ヘ十二箇國ヲ十四箇國ニ改メ各稅關管轄區域中ノ沿岸ヲ削ル
 明治三十四年八月二十六日勅令第七十一號ヲ以テ大阪稅關管轄區域中攝津以西成郡ノ下ニ山城ヲ加ヘ七箇國ヲ八箇國ニ改メ三十五年十月三十一日勅令第二百三十九號ヲ以テ橫濱稅關管轄區域中遠江ノ次ニ越後羽前佐渡ヲ加ヘ十一箇國ヲ十四箇國ニ大阪稅關管轄區域中山城ノ次ニ若狹越前加賀能登越中ヲ加ヘ八箇國ヲ十三箇國ニ函館稅關管轄區域中陸中ノ次ニ羽後ヲ加ヘ十三箇國ヲ十四箇國ニ改メ新潟稅關管轄區域ノ項ヲ削除セリ

第四目 稅關支廳

第一 稅關出張所並支署

一 設置 明治十九年及二十三年制定ノ稅關官制ハ出張所ニ就テ別ニ規定スル所ナシ然ルニ二

十六年十月改正官制ニ於テハ所定稅關ノ外稅關ノ事務ヲ行フヘキ場所ニ稅關出張所ヲ配置シ其配置ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘキコトヲ規定シ三十年六月改定ノ稅關官制モ亦所定稅關ノ外必要ノ場所ニ稅關支署ヲ設置シ其設置ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘキコトヲ規定シ三十二年四月改正ノ官制モ稅關管轄區域内必要ナル場所ニ稅關支署ヲ置クヲ得ヘキコトヲ規定シタリ

二 職員 稅關支署ノ職員ニ就キ特ニ規定ヲ爲シタルハ明治三十年六月改正稅關官制ヲ始メトス右官制ニ依レハ各稅關支署ニ署長一人ヲ置ク而シテ稅關屬ヲ以テ之ニ充テ稅關長ノ指揮ヲ受ケ其署主管事務ニ從事シ部下ノ官吏ヲ監督スルモノトセリ三十二年四月改正ノ官制ニ依レハ稅關支署ニ支署長一人ヲ置キ事務官又ハ事務官補ヲ以テ之ニ充テ稅關長ノ指揮ヲ承ケ其管轄内ノ稅關事務ヲ掌理スルモノトセリ

三 名稱位置 明治二十六年十月三十日勅令第三百三十九號ヲ以テ稅關出張所ヲ設置シ其名稱位置ヲ定ム即チ左ノ如シ

- 神戸稅關出張所 下ノ關宮津
- 大阪稅關出張所 四日市
- 長崎稅關出張所 門司博多唐津口ノ津三角嚴原佐須奈鹿見
- 函館稅關出張所 小樽釧路
- 新潟稅關出張所 夷港伏木

明治二十七年五月二十八日勅令第五十九號ヲ以テ從來ノ出張所ノ外更ニ那霸室蘭ノ二港ニ出張所ヲ設ケ二十九年十月二十六日勅令第三百五十一號ヲ以テ境濱田及敦賀ノ三港ニ稅關出張所ヲ

増設シタリ即チ左ノ如シ

長崎税關出張所 那覇

函館税關出張所 室蘭

神戸税關出張所 境濱田

新潟税關出張所 敦賀

明治三十年六月十七日勅令第二百六號ヲ以テ出張所ヲ支署ト改稱シ七月十六日勅令第二百四十號ヲ以テ更ニ横濱税關支署ヲ清水ニ新潟税關支署ヲ七尾ニ増設ス

明治三十二年四月二十一日勅令第六十九號ヲ以テ税關支署ノ名稱位置及管轄區域表ヲ制定シ之ト同時ニ二十六年勅令第三百三十九號ヲ廢止シタリ之ニ依レハ税關支署ハ左ノ二十一箇所ナリ

清水、四日市、濱田、境、宮津、門司、博多、唐津、口ノ津、三角、嚴原、佐須奈、鹿見、那覇、小樽、釧路、室蘭、敦賀、七尾、伏木、夷港

後明治三十二年七月二十六日勅令第三百五十一號ヲ以テ武豊ニ同三十三年三月二十二日勅令第五十四號ヲ以テ絲崎ニ同三十五年三月二十五日勅令第五十二號ヲ以テ東京ニ同年十月三十一日勅令第二百四十號ヲ以テ新潟ニ就レモ税關支署ヲ置ク

四 管轄區域 明治三十二年四月二十一日勅令第六十九號税關支署ノ名稱位置及管轄區域表ニ依レハ税關支署ノ管轄區域左ノ如シ

税關支署位置

管轄區域

清水税關支署

四日市税關支署

濱田税關支署

境税關支署

宮津税關支署

門司税關支署

博多税關支署

唐津税關支署

口ノ津税關支署

三角税關支署

嚴原税關支署

佐須奈税關支署

鹿見税關支署

那覇税關支署

小樽税關支署

釧路税關支署

室蘭税關支署

敦賀税關支署

駿河國遠江國

三河國尾張國伊勢國志摩國

石見國

出雲國伯耆國

因幡國但馬國丹後國

周防國長門國豊前國豊後國日向國

筑前國

肥前國東松浦郡西松浦郡北松浦郡小城郡

肥前國南高來郡北高來郡

大隅國薩摩國筑後國

對馬國下縣郡

對馬國上縣郡琴村舟志村 佐護川以北

對馬國上縣郡佐護川以南 佐見村中原村

琉球國

後志國石狩國天鹽國北見國

根室國釧路國十勝國千嶋國

日高國膽振國

若狹國越前國

七尾稅關支署
伏木稅關支署
夷港稅關支署

加賀國能登國
越中國
佐渡國

明治三十二年七月二十六日勅令第三百五十一號ヲ以テ四日市稅關支署ノ管轄區域中三河國尾張國ヲ削リ該二國ヲ武豐稅關支署ノ管轄ト爲シ三十三年三月二十二日勅令第五十四號ヲ以テ備後國安藝國二國ヲ絲崎稅關支署ノ管轄ニ三十五年三月二十五日勅令第五十二號ヲ以テ武藏國東京市南葛飾郡南足立郡北豐嶋郡豐多摩郡荏原郡ヲ東京稅關支署ノ管轄ニ同年十月三十一日勅令第二百四十號ヲ以テ越後國羽前國ヲ新潟稅關支署ノ管轄ト爲ス

第二 稅關派出所及稅關監視署

一 設置 稅關監視署ノ設置ヲ官制中ニ規定セルハ明治三十年六月改正稅關官制ヲ以テ其初メトス右官制ニ依レハ所定稅關ノ外必要ノ場所ニ稅關監視署ヲ設置シ其設置ハ別ニ定ムル所ニ依ルモノトス三十二年四月改正官制ニ於テモ亦稅關管轄區域內必要ナル場所ニ稅關監視署ヲ置クコトヲ得ヘク其位置ハ大藏大臣之ヲ定ムル旨ヲ規定セリ

二 職員 明治三十年六月改正官制ニ依レハ各稅關監視署ニ署長一人ヲ置ク署長ハ稅關監吏若クハ監吏補ヲ以テ之ニ充テ上官ノ指揮ヲ承ケ水陸監視ノ事務ニ從事シ部下ノ官吏ヲ監督スルモノトス

明治三十二年四月改正官制ニ於テハ稅關監視署ニ署長一人ヲ置キ署長ハ監視若クハ監吏ヲ以テ

之ニ充テ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理スルモノトセリ

三 名稱位置 明治二十六年十月三十日勅令第三百三十九號ヲ以テ橫濱稅關派出所ヲ築地ニ設置シ三十年六月十七日勅令第二百六號ヲ以テ該派出所ヲ監視署ト改稱セリ

同年七月十六日勅令第二百四十號ヲ以テ左ノ七箇所ニ稅關監視署ヲ増設セリ

橫濱稅關監視署 本牧 屏風浦 館山 父嶋

神戶稅關監視署 今治

長崎稅關監視署 鹿兒嶋

函館稅關監視署 稚內

明治三十二年四月二十一日勅令第六百六十九號ヲ以テ二十六年勅令第三百三十九號ヲ廢止シ同月二十四日大藏省令第十四號ヲ以テ稅關監視署ヲ左ノ四十箇所ニ設置シ新設稅關監視署ハ漸次ニ之ヲ開廳シタリ其稅關監視署左ノ如シ

石卷 銚子 館山 築地 屏風浦 浦賀 上宮田 下田 父嶋 鳥羽 新宮 和歌山 堺

西宮 洲本 宇和島 今治 土庄 明石 玉嶋 尾道 宇品 西郷 徳山 萩 平戶 嶋原

福江 大分 大嶋 鹿兒嶋 勝本 八重山 能代 青森 根室 紗那 稚內 鴛泊 壽都

明治三十三年十二月八日大藏省令第三十五號ヲ以テ右省令中改正ヲ施シ三崎 小倉 土崎ノ三稅關監視署ヲ新設シ上宮田 尾道能代ノ三稅關監視署ヲ廢止ス三十五年三月二十七日大藏省令第四號ヲ以テ築地稅關監視署ヲ廢止シ同年十月十六日大藏省令第二十二號ヲ以テ伊豆國新嶋ニ同三十六年一月二十一日大藏省令第一號ヲ以テ隱岐國浦郷ニ同年三月十七日大藏省令第十號ヲ以テ上

總國勝浦及遠江國見付ニ就レモ稅關監視署ヲ新設ス

第五目 稅關監視部

明治三十二年四月二十一日勅令第六十一號改正稅關官制ニヨレハ稅關ニ稅關監視部ヲ置キ監視部ニ部長一人ヲ置キ監視官又ハ監視ヲ以テ之ニ充ツ部長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理スルモノトセリ蓋シ從來ノ稅關官制ニ依レハ別ニ監視部ニ就テ規定セルモノナク唯稅關分課規程ヲ以テ監視課若ハ監視部トシテ各分課ノ一ニ居ラシメタルニ止マリシカ三十二年改正官制ニ至リ特ニ官制中ニ之カ規定ヲ爲シ特別ノ位置ヲ有セシメタルモノトス

第四款 臺灣海關稅務地方機關

第一項 管 務

明治二十九年三月三十日勅令第九十二號ヲ以テ臺灣總督府稅關官制ヲ制定シ臺灣總督府稅關ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトセリ
一 各開港ニ於ケル船舶ノ出入ニ關スル事項
二 貨物ノ輸出入ニ關スル事項
三 各開港外ニ於ケル外國貿易ノ取締ニ關スル事項
四 各開港外ニ於ケル輸出入貨物搭載ノ船舶出入ニ關スル事項

五 輸出入稅及稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項

六 稅關管理ノ倉庫ニ關スル事項

明治三十二年八月十二日ニ至リ勅令第三百七十一號ヲ以テ臺灣總督府稅關官制ヲ改正シ臺灣總督府稅關ノ所管事項ヲ左ノ如ク規定シタリ

一 關稅噸稅出港稅及稅關諸收入ニ關スル事項

二 保稅倉庫其他ノ倉庫ニ關スル事項

三 船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項

四 關稅規則及噸稅規則犯則者ノ處分ニ關スル事項

五 關稅通路ノ取調ニ關スル事項

明治三十四年四月十日勅令第四十九號ヲ以テ臺灣總督府稅關官制ヲ改正シ臺灣總督府稅關ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトセリ

一 關稅出港稅噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項

二 保稅倉庫其他ノ倉庫ニ關スル事項

三 船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項

四 臺灣關稅規則臺灣輸出稅及出港稅規則臺灣噸稅規則犯則者ノ處分ニ關スル事項

五 關稅通路ノ取締ニ關スル事項

第二項 職員

明治二十九年三月制定稅關官制ハ各稅關ニ稅關長一人ヲ置キ各稅關ヲ通シテ鑑定官、鑑定吏、屬監、吏及監吏補ヲ置ク但シ淡水稅關長ハ基隆稅關長、安平稅關長ハ臺南及打狗稅關長ヲ兼ヌルモノトシ稅關長ハ臺灣總督府民政局長ノ命ヲ承ケ稅關ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌理ス而シテ鑑定官ハ稅關長ノ命ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ノ事ヲ掌リ鑑定吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事ス又屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ密商脫稅ノ監視ニ從事ス監吏補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏ノ事務ヲ助クルモノトス三十年十月十九日勅令第三百六十五號ヲ以テ右官制中「臺灣總督府民政局長」トアルヲ「臺灣總督」ト改ム三十二年三月二十八日勅令第七十六號ヲ以テ右官制中ヲ改メ鑑定吏ヲ鑑定官補ト改稱シ各稅關ヲ通シテ鑑定官、鑑定官補、屬監、吏及監吏補ヲ置ク

明治三十二年八月改正官制ハ稅關ニ稅關長一人ヲ置キ稅關ヲ通シテ鑑定官、屬監、鑑定官補、監吏ヲ置ク但シ淡水稅關長ハ基隆稅關長、安平稅關長ハ打狗稅關長ヲ兼ヌルモノトス而シテ稅關長ハ臺灣總督ノ指揮ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ鑑定官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス又屬ハ稅關出張所長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ監視ハ稅關監視部長若クハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事シ監吏ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事スルモノトス

明治三十四年四月稅關官制ヲ改メ稅關ニ稅關長一人ヲ置キ各稅關ヲ通シテ事務官、鑑定官、屬監、鑑定官補、監吏ヲ置ク但シ淡水稅關長ハ安平稅關長ヲ兼ヌ而シテ稅關長ハ臺灣總督ノ命ヲ承ケ稅

關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ事務官ハ稅關長ノ事務ヲ助ケ稅關長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス鑑定官ハ稅關長ノ命ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理シ屬ハ稅關支署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス又監視ハ稅關監視部長若クハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ニ從事シ鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事ス監吏ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ニ從事スルモノトセリ三十五年九月勅令第二百四十四號ヲ以テ右ノ官制中ニ改正ヲ施シ新ニ監視官及技手ヲ置キ監視官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ヲ掌理ス技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事スルモノトス

第三項 雜件

第一目 稅關ノ管理

臺灣總督府稅關ハ明治二十九年三月開設以來全ク臺灣總督ノ所管ニ屬ス三十二年八月及三十四年四月ノ改正官制ニ於テハ明ニ臺灣總督ノ管理ニ屬スルコトヲ規定シタリ

第二目 稅關ノ位置

明治二十九年三月制定稅關官制ニ依レハ稅關ヲ淡水基隆安平打狗及臺南ノ五箇所ニ置ケリ十二月十一日勅令第三百八十六號ヲ以テ同官制中ヲ改正シ稅關配置中臺南ヲ削リ五箇所ヲ四箇所ニ改ム三十二年八月改正官制亦稅關ノ位置ヲ淡水基隆安平打狗ノ四箇所ニ定ム三十四年四月改正

ノ官制ハ臺北縣管下淡水臺南縣管下安平ノ二港ニ稅關ヲ置クコト、セリ三十五年九月勅令第二百十四號ヲ以テ稅關官制中臺北縣臺南縣ヲ臺北廳臺南廳ニ改ム

第三目 管轄區域

臺灣總督府稅關管轄區域ハ明治二十九年九月七日勅令第三百三號ノ規定スル所ニシテ即チ左ノ如シ

- 淡水 富基岬ヨリ南方西螺溪ニ至ル沿岸
- 安平 西螺溪ヨリ南方阿公店溪ニ至ル沿岸及澎湖嶼ノ沿岸
- 打狗 阿公店溪ヨリ南方鶯鸞鼻ヲ經テ北方花蓮港ニ至ル沿岸及小琉球嶼江頭嶼火燒嶼ノ沿岸
- 基隆 花蓮港ヨリ北方三貂角ヲ經テ西方富基岬ニ至ル沿岸
- 右ノ管轄區域ハ三十四年四月十日勅令第五十二號ヲ以テ左ノ如ク改正セラレタリ
- 淡水 西螺溪ヨリ北方富基岬ヲ回リ南方花蓮港ニ至ル沿岸
- 安平 花蓮港ヨリ南方鶯鸞鼻ヲ回リ北方西螺溪ニ至ル沿岸及澎湖列嶼小琉球嶼江頭嶼火燒嶼ノ沿岸

第四目 稅關支廳

第一 稅關出張所及支署

- 一 設置 明治二十九年三月制定臺灣總督府稅關官制ハ稅關ノ外稅關ノ事務ヲ行フヘキ場所ニ

稅關出張所ヲ置キ其配置ハ臺灣總督之ヲ定ムヘキコトヲ規定シタリ三十二年八月改正臺灣總督府稅關官制モ亦稅關管轄區域内必要ナル場所ニ稅關出張所ヲ置クコトヲ得ヘク其名稱位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ムヘキコトヲ規定シ三十四年四月改正ノ官制ハ稅關出張所ヲ稅關支署ト改メ稅關管轄區域内必要ナル場所ニ稅關支署ヲ置クコトヲ得ヘク其名稱位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ムヘキコトヲ規定セリ

二 職員 稅關出張所ニ特ニ職員ヲ置キタルハ明治三十二年八月改正臺灣總督府稅關官制ヲ以テ始メトス右官制ニ依レハ稅關出張所ニ所長一人ヲ置キ屬ヲ以テ之ニ充テ稅關長ノ指揮ヲ承ケ其管轄内ノ稅關事務ヲ掌理スルモノトス三十四年四月改正官制ニ於テハ稅關支署ニ支署長一人ヲ置キ屬ヲ以テ之ニ充テ稅關長ノ指揮ヲ承ケ其管轄内ノ稅關事務ヲ掌理スルモノトセリ

三 名稱並位置 明治二十九年八月一日臺灣總督府令第二十五號ヲ以テ稅關出張所ノ配置及其名稱ヲ定ム即チ左ノ如シ

- 基隆稅關蘇澳出張所 淡水稅關舊港出張所 淡水稅關後壠出張所 淡水稅關梧棲出張所
- 淡水稅關鹿港出張所 安平稅關布袋嘴出張所 打狗稅關東港出張所 安平稅關媽宮出張所
- 明治三十年一月十四日府令第一號ヲ以テ右ノ府令中安平稅關布袋嘴出張所ヲ廢シ安平稅關東石港出張所ヲ置ク三十二年一月二十五日府令第七號ヲ以テ二十九年府令第二十五號及三十年府令第一號稅關出張所名稱ヲ左ノ如ク改正ス
- 蘇澳基隆稅關出張所 舊港淡水稅關出張所 後壠淡水稅關出張所 梧棲淡水稅關出張所
- 鹿港淡水稅關出張所 東港打狗稅關出張所 媽宮安平稅關出張所 東石港安平稅關出張所

同年一月二十六日府令第八號ヲ以テ二十九年府令第二十五號稅關出張所ノ配置及名稱中下湖口安平稅關出張所ヲ追加シ同年四月八日府令第二十四號ヲ以テ三十二年府令第七號中ニ改正ヲ施シ蘇澳基隆稅關出張所ヲ廢止シタリ

明治三十二年十二月八日府令第二百二十八號ヲ以テ稅關出張所ノ名稱位置及管轄區域ヲ改定シ同時ニ二十九年府令第二十五號三十年府令第一號及三十二年府令第七號ヲ廢止セリ之ニヨレハ稅關出張所左ノ如シ

舊港、後壠、塗葛窟、鹿港、下湖口、東石港、媽宮、東港
明治三十四年四月十三日府令第二十一號ヲ以テ稅關支署ノ名稱位置及管轄區域ヲ定メタリ即チ稅關支署ヲ左ノ十箇所トセリ

基隆、舊港、後壠、塗葛窟、鹿港、北港溪、東石港、打狗、東港、媽宮
四 管轄區域 明治三十二年十二月八日府令第二百二十八號ヲ以テ稅關出張所ノ名稱位置及管轄區域ヲ定ム其管轄區域ハ左ノ如シ

舊港稅關出張所 南茨港ヨリ南方中港ニ至ル沿岸
後壠稅關出張所 中港ヨリ南方大安港ニ至ル沿岸
塗葛窟稅關出張所 大安港ヨリ南方草港ニ至ル沿岸
鹿港稅關出張所 草港ヨリ南方西螺溪ニ至ル沿岸

下湖口稅關出張所 西螺溪ヨリ南方北港溪ニ至ル沿岸
東石港稅關出張所 北港溪ヨリ南方新温庄ニ至ル沿岸

媽宮稅關出張所 澎湖列嶋一圓ノ沿岸
東港稅關出張所 淡水溪ヨリ南方枋寮ニ至ル沿岸
明治三十四年四月十三日總督府令第二十一號ヲ以テ稅關支署ノ名稱位置及管轄區域ヲ改定セリ各支署ノ所管區域左ノ如シ

基隆稅關支署 花蓮港ヨリ北方三貂角ヲ回リ西方富基岬ニ至ル沿岸
舊港稅關支署 南茨港ヨリ南方中港ニ至ル沿岸
後壠稅關支署 中港ヨリ南方大安港ニ至ル沿岸
塗葛窟稅關支署 大安港ヨリ南方草港ニ至ル沿岸

鹿港稅關支署 草港ヨリ南方西螺溪ニ至ル沿岸
北港溪稅關支署 西螺溪ヨリ南方北港溪ニ至ル沿岸
東石港稅關支署 北港溪ヨリ南方蚊港ニ至ル沿岸
打狗稅關支署 阿公店溪ヨリ南方淡水溪ニ至ル沿岸

東港稅關支署 淡水溪ヨリ南方枋寮港ニ至ル沿岸
媽宮稅關支署 澎湖列嶋一圓ノ沿岸

第二 稅關監視署
一 設置 明治三十二年八月改正臺灣總督府稅關官制ニ依レハ稅關管轄區域内必要ナル場所ニ稅關監視署ヲ置クコトヲ得ヘク其名稱位置ハ臺灣總督之ヲ定ムヘキコトヲ規定シ三十四年四月改正官制亦稅關管轄區域内必要ナル場所ニ稅關監視署ヲ置クコトヲ得ヘク其名稱位置ハ臺灣總

督之ヲ定ムヘキコトヲ規定シタリ

二 職員 明治三十二年八月改正官制ハ税關監視署ニ署長一人ヲ置キ署長ハ監視若クハ監吏ヲ以テ之ニ充テ税關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理スルモノトセリ三十四年四月改正官制モ亦税關監視署ニ署長一人ヲ置キ監視若クハ監吏ヲ以テ之ニ充テ税關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ヲ掌理スルモノトス

三 名稱並位置 明治三十二年十一月十九日總督府令第二百二十二號ヲ以テ税關監視署ノ名稱及位置ヲ定メ大安港税關監視署、蕃控税關監視署ノ二署ヲ設置セリ三十三年三月四日總督府令第二十一號ヲ以テ税關監視署ノ名稱及位置ヲ定メ同時ニ三十二年府令第二百二十二號ヲ廢セリ之ニ依レハ監視署ハ左ノ如シ

大稻埕税關監視署、大安港税關監視署、蕃控税關監視署、梧棲税關監視署

明治三十四年四月十三日總督府令第二十二號ヲ以テ税關監視署ノ名稱及位置ヲ改定セリ即チ左ノ如シ

大稻埕税關監視署、蕃控税關監視署、大安港税關監視署、八罩嶋税關監視署、梧棲税關監視署、漁翁嶋税關監視署

明治三十五年十月一日總督府令第七十四號ヲ以テ税關監視署ノ名稱及位置ヲ定メ同時ニ三十四年府令第二十二號ヲ廢止セリ即チ大ニ税關監視署ノ數ヲ増加シ左ノ十七箇署ヲ設ケタリ

東港税關監視署、金包里税關監視署、通霄税關監視署、大安港税關監視署、蕃控税關監視署、八罩嶋税關監視署、漁翁嶋税關監視署、五條港税關監視署、大稻埕税關監視署、許厝港税關

監視署、中港税關監視署、布袋嘴税關監視署、國聖港税關監視署、灣裡港税關監視署、大林埔税關監視署、枋寮税關監視署、車城税關監視署

第五目 税關監視部

明治三十二年八月改正臺灣總督府税關官制ニ依レハ税關ニ税關監視部ヲ置キ監視部ニ部長一人ヲ置ク部長ハ監視ヲ以テ之ニ充テ税關長ノ指揮ヲ承ケテ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理スルモノト定メタリ而シテ三十四年四月改正官制亦税關ニ税關監視部ヲ置キ之ニ部長一人ヲ置キ監視ヲ以テ之ニ充テ税關長ノ指揮ヲ承ケテ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ヲ掌理スルモノトシ三十五年九月税關官制ヲ改正シテ監視部長ハ監視官又ハ監視ヲ以テ之ニ充ツルコトトナセリ

第三節 臺灣稅務機關

第一款 臺灣稅務中央機關

第一項 管 務

明治二十九年三月三十日勅令第八十八號臺灣總督府條例ハ規定シテ曰ク臺灣總督ハ臺灣嶋及澎湖列嶋ヲ管轄シ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ拓殖務大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理スト其後三十年十月十三日ノ勅令第三百六十二號總督府官制モ亦同様ノ規定ヲ存ス唯其政務統

理ノ監督者ハ四回ノ改定ヲ經タリ

第二項 分掌

第一目 局部ノ廢置

總督府ノ局部ハ其創立以降三度變更セリ而シテ其度毎ニ總督府中稅務行政ニ關スル局部ニ變更ヲ生セリ今其變遷ヲ敍スレハ次ノ如シ

明治二十九年三月ノ總督府官制ハ總督府ニ總督官房及民政軍務ノ二局ヲ置ク

明治三十年十月ノ改正官制ハ總督府ニ總督官房陸軍幕僚海軍幕僚民政局及財務局ヲ置ク蓋シ先

キノ民政局ヲ分チテ民政財務ノ二局トナシ軍務局ヲ分テ陸海軍兩幕僚ト爲セルナリ

明治三十一年六月十八日勅令第百六號ヲ以テ總督府官制ノ一部ヲ改正シ總督府ニ總督官房ノ外

民政部陸軍幕僚及海軍幕僚ヲ置ク蓋シ財務民政ノ二局ヲ並セテ民政部ト爲セルナリ

第二目 局部ノ管務

此等ノ諸局部ノ中ニ就キテ特ニ財務行政ニ關係アルモノ、管掌事務ヲ摘記スレハ

明治二十九年三月三十日ノ總督府條例及同日勅令第九十號ノ臺灣總督府民政局官制ニ依レハ總

督官房ハ總督ノ命ヲ承ケ機密事務及文書ノ取扱ヲ掌リ臺灣總督府民政局ハ臺灣總督ノ管轄ニ屬

スル行政及司法ニ關スル事務ヲ整理スルモノトス

明治三十年十月ノ改正官制ニ依レハ財務局ハ財務ニ關スル事務ヲ掌ルモノトス總督官房ノ管掌

事務ハ故ノ如シ

明治三十一年六月ノ官制ノ改正ニ依レハ民政部ハ行政及司法ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ルモノトス總督官房ノ管掌事務ハ故ノ如シ

第三目 局部ノ分課

諸局部中特ニ財務行政ニ關係アル民政局財務局及民政部ノ分課ヲ舉クレハ

第一 民政局 明治二十九年三月ノ民政局官制ハ民政部ニ總督部、內務部、殖産部、財務部、法務部、學

務部及通信部ノ七部ヲ置キ各部事務ノ分掌ハ臺灣總督之ヲ定ムルモノトス四月二十一日民政局

各部分課規程ヲ定メ財務部ニハ租稅課、關稅課、經理課、監督課及調査課ヲ置キテ各分掌スル所アラ

シム

第二 財務局 明治三十年十月ノ總督府官制ハ各局中ノ部課ハ臺灣總督之ヲ定ムヘキコトヲ規

定シ尋テ十一月一日臺灣總督府行政事務規程ヲ定メ財務局ニ稅務課、主計課、經理課及土木課ヲ置

キテ各分掌スル所アラシム

第三 民政部 明治三十一年六月ノ官制ハ民政部中ノ局課及其事務ノ分掌ハ臺灣總督之ヲ定ムルモノトス

第三項 職員

明治二十九年三月ノ總督府條例ハ總督府ニ臺灣總督ヲ置キ總督官房ニ副官二人及專任祕書官二

人ヲ置キ民政局官制ハ民政局ニ局長事務官參事官技師屬技手通譯生ヲ置ク
 臺灣總督ハ前顯ノ職務ヲ掌理ス
 副官及專任秘書官ハ官房ノ事務ヲ掌ル
 民政局長ハ臺灣總督ノ命ヲ承ケ行政司法ニ關スル事務ヲ整理シ及各部ノ事務ヲ監督ス
 民政局事務官ハ各部ノ長トナリ又ハ之ニ分屬シ部務ニ從事ス
 民政局參事官ハ局長ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ助ク
 民政局屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 明治三十年十月ノ總督府官制ハ總督府ニ臺灣總督副官專任秘書官財務局長事務官屬等ノ職員ヲ置ク
 財務局長ハ總督ノ命ヲ承ケ財務局ノ事務ヲ整理ス
 事務官ハ財務局ニ屬シ總督又ハ局長ノ命ヲ承ケ各部課ノ事務ヲ掌ル
 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 臺灣總督副官專任秘書官ノ職權ハ故ノ如シ
 明治三十一年六月ノ改正官制ニ依レハ總督府ニ臺灣總督副官專任秘書官ノ外民政長官事務官參事官屬等ヲ置ク民政長官ハ總督ノ命ヲ承ケ部務ヲ整理ス
 參事官ハ總督又ハ民政長官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌リ又ハ各局課ニ兼動シ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ助ク事務官ハ總督又ハ民政長官ノ命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ掌ル
 臺灣總督副官專任秘書官屬ノ職權ハ故ノ如シ

第四項 雜件

第一目 監督

明治二十九年三月ノ臺灣總督府條例ニ依レハ臺灣總督ハ拓殖務大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス
 明治三十年八月三十一日勅令第二百九十七號ヲ以テ右拓殖務大臣ノ監督トアルヲ内閣總理大臣ノ監督ニ改ム蓋シ當時拓殖務省ヲ廢止セシヲ以テナリ
 明治三十一年二月八日勅令第二十三號ヲ以テ更ニ內務大臣ノ監督ニ改ム

第二目 附屬機關

第一 臺灣總督府評議會

一 組織 明治二十九年三月三十日勅令第八十九號臺灣總督府評議會章程ニ依レハ評議會ハ總督民政局長軍務局長民政局部長軍務局部長民政局參事官ヲ以テ組織シ其他總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ會議ノ事件ニ關係アル文武官ニ命シテ臨時其議事ニ參與セシムルヲ得ルモノトス
 明治三十年十一月十六日勅令第四百十一號ヲ以テ右掌程中ヲ改正シ評議會ハ總督民政局長財務局長陸軍幕僚參謀長海軍參謀長事務官六人以內參事官ヲ以テ組織スルモノトス且ツ總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ右ノ外會議ノ事件ニ關係アル文武官ニ命シテ臨時其議事ニ參與セシムルコトヲ得但シ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス而シテ事務官ニシテ評議員タルヘキ者ハ臺灣總督定ム

ル所ノ規程ニ依ルモノトス

明治三十一年六月十八日勅令第七號ヲ以テ復章程ノ一部ヲ改正シ評議會ハ總督民政長官陸軍幕僚參謀長海軍參謀長參事官長事務官參事官ヲ以テ組織シ陸軍幕僚參謀長及海軍參謀長ハ會議ノ事件軍事ニ關涉スル場合ニ限リ議事ニ參與スルモノトス而シテ臨時議事ニ參與スル文武官並ニ其表決ニ關スル件及事務官ニシテ評議員タルヘキ者ニ關スル件ハ故ノ如シ

二 權限 明治二十九年三月ノ章程ニ依レハ評議會ハ明治二十九年法律第六十三號ニ依ル命令ヲ議決スルノ外總督ノ諮詢ニ依リ左ノ事項ニ付意見ヲ答申ス

一 豫算案及決算

二 重大ナル土木工事ノ設計

三 人民ノ請願ニシテ特ニ重大ナルモノ

四 右ノ外總督ニ於テ必要ト認メ特ニ諮詢スル事項

明治三十年五月二十七日勅令第六十一號ヲ以テ章程中權限ノ條ヲ改メ評議會ハ明治二十九年法律第六十三號ニ依ル命令ヲ議決スルノ外總督ニ於テ特ニ必要ト認メテ諮詢スル事項ニ付意見ヲ答申スルモノトス是ニ於テ諮詢事項ハ總督ノ認定ニ任スルコトナレリ

明治三十一年六月十八日勅令第七號ヲ以テ更ニ章程中權限ノ條ヲ改メ評議會ハ明治二十九年法律第六十三號ニ依ル命令ヲ議決スルモノトス是ニ於テカ評議會ノ諮詢事項ハ凡テ削除セラルルコトナレリ

三 職員 明治二十九年三月ノ章程ハ評議會ニ議長ノ外幹事一人書記若干人ヲ置ク

議長ハ總督之ニ當ル議長事故アルトキハ出席員中ノ官等最モ高キ者之ヲ代理ス

幹事ハ民政局參事官ヲ以テ之ニ充テ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

書記ハ民政局屬ヲ以テ之ニ充テ上官ノ命ヲ承ケ出席員ノ氏名會議ノ事件及議決ノ要旨ヲ筆記ス
明治三十年十一月十六日勅令第四百四十一號ヲ以テ右ノ條項中民政局參事官ヲ參事官ト民政局屬ヲ屬ト改ム

第二 臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會

明治三十二年九月十六日勅令第三百八十七號ヲ以テ臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會規則ヲ制定ス之ニ依レハ本會ハ關稅法第六十九條ニ依ル委員會ニシテ會長一人委員五人ヲ以テ組織ス會長ハ臺灣總督府民政長官委員ハ臺灣總督府高等官三人臺灣總督府法院判官二人ヲ以テ之ニ充ツ特別ノ必要アル場合ニハ前掲定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得委員ハ臺灣總督ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス會長事故アルトキハ其指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム本會ニ幹事一人書記二人ヲ置ク幹事ハ臺灣總督府高等官ヲ以テ之ニ充テ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス書記ハ臺灣總督府屬ヲ以テ之ニ充テ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三 臺灣總督府專賣局

一 沿革 明治三十一年六月勅令第一百號ヲ以テ臺灣總督府製藥所官制ヲ定メ臺灣總督ノ管理ノ下ニ製藥ニ關スル事務ヲ掌理セシメ明治三十二年三月十三日勅令第五十一號ヲ以テ臺灣鹽務局官制ヲ定メ臺灣總督ノ管理ノ下ニ食鹽ノ收納賣渡檢査其他食鹽專賣ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理セシメ明治三十三年七月勅令第三百二號ヲ以テ臺灣樟腦局官制ヲ定メ臺灣總督ノ管理ノ下ニ

樟腦及樟腦油ノ收納賣渡検査及製造ニ關スル事務ヲ掌理セシメタリシカ明治三十四年十月勅令第十六號ヲ以テ臺灣總督府專賣局官制ヲ定メ本令施行ノ日明治三十四年六月一日ヨリ以上ノ一所二局ヲ廢止セリ

二 管務 臺灣總督府專賣局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌理ス

一 樟腦樟腦油阿片及食鹽ノ收納購買賣渡保管製造及検査ニ關スル事項
二 樟腦ノ製造特許及取締ニ關スル事項
臺灣總督府專賣局ハ當分ノ内衛生及殖産上試験ニ關スル事項ヲ兼掌ス

三 職員 臺灣總督府專賣局ニハ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人 勅任又ハ奏任

事務官 專任九人 奏任

技師 專任六人 奏任

翻譯官 專任三人 奏任

書記 專任百人 判任

技手 專任四十人 判任

通譯 專任四人 判任

局長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌シ技手ハ技術ニ關スル事務ヲ翻譯官ハ翻譯通譯ノ事務ヲ技手ハ技術ニ關スル事務ヲ各上官ノ命ヲ承ケテ分掌ス

通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

四 支局 臺灣總督ハ必要ト認ムル地ニ支局ヲ置クコトヲ得支局長ハ事務官技師又ハ書記ヲ以テ之ニ充テ支局長ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ支局一切ノ事務ヲ掌理ス

第二款 臺灣内國稅務地方機關

第一項 縣嶋廳及ヒ廳

第一目 管務

明治二十九年三月三十日勅令第九十一號地方官官制ニ依レハ知事及嶋司ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

明治三十年五月三日ノ勅令第五百十二號改正官制ニ依レハ知事及廳長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス三十一年六月十八日勅令第八號ノ改正官制モ亦同様ノ規定ヲ置ク

明治三十四年十一月勅令第二百二號ヲ以テ臺灣總督府地方官官制ヲ改正シ臺灣ニ二十廳ヲ置キ廳長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第二目 分掌

明治二十九年三月ノ地方官官制ニ依レハ知事及嶋司ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ廳中ノ分課及處務

ノ規程ヲ定ムルヲ得ルモノトス
 明治三十年五月ノ改正官制ハ各縣ニ知事官房、內務部、財務部、警察部及監獄署、各廳ニ庶務課、財務課、警察課及監獄署ヲ置キ其事務ノ分掌ハ知事、廳長、臺灣總督ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムルモノトス但シ臺東廳澎湖廳ニハ當分ノ內、財務課ヲ置カス庶務課ニ於テ其事務ヲ掌理ス
 明治三十一年六月ノ改正官制ハ各縣ニ知事官房、內務部、財務部、警察部及監獄署ヲ置キ宜蘭廳ニ內務課、財務課、警察課及監獄署ヲ臺東廳ニ總務課及警察課ヲ澎湖廳ニ總務課、警察課及監獄署ヲ置キ其事務ノ分掌ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ知事、廳長之ヲ定ムルモノトス三十三年九月七日勅令第三百五十七號ヲ以テ右官制ノ一部ヲ改正シ監獄署ヲ地方官官制ヨリ分離シ各廳ノ分掌ヲ更定シ各廳ニ總務課及警察課ヲ置ク

明治三十四年十一月ノ官制ノ改正ニ伴ヒ各廳事務分課規定ヲ定メ各廳ニ總務課、警保課、稅務課ヲ置キ各其ノ事務ヲ分掌セシム而シテ廳長ハ地方ノ須要ニ應ジ臺灣總督ノ認可ヲ經テ特別ノ事務ヲ處理スル爲メ別ニ課ヲ設クルコトヲ得

第三目 職員

明治二十九年三月ノ地方官官制ハ地方廳ニ知事、嶋司書記官、屬等ノ職員ヲ置ク
 知事及嶋司ハ前顯ノ職務ヲ掌理ス
 縣書記官ハ知事ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理シ知事事故アルトキハ上席書記官其事務ヲ代理ス
 嶋廳書記官ハ嶋司ノ命ヲ承ケ廳中ノ事務ヲ掌理シ嶋司事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

明治三十年五月ノ改正官制ハ各縣ニ知事、書記官、稅務官、屬、通譯等ノ職員ヲ置キ各廳ニ廳長、書記官、財務長、屬、通譯等ノ職員ヲ置ク但シ臺東、澎湖二廳ニ於テハ當分ノ內、財務長ヲ置カス其他縣廳ニ參事ヲ置クコトヲ得

知事廳長ハ前顯ノ職務ヲ掌理ス知事廳長事故アルトキハ上席高等官其職務ヲ代理ス知事廳長ハ縣廳ノ官吏ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得或ハ又臺灣總督ノ認可ヲ經テ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ辨務署長ニ委任スルコトヲ得

縣ニ在テハ書記官ノ一人ハ財務部長トナリ知事ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督シ稅務官ハ財務部ニ屬シ租稅ニ關スル事務ヲ掌理ス廳ニ在テハ書記官ハ庶務課長、財務長ハ財務課長トナリ廳長ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス縣ニ在リテハ部長事故アルトキハ知事ニ於テ縣官吏ノ一人ヲシテ其事務ヲ代理セシム廳ニ在リテハ課長事故アルトキハ廳長ニ於テ廳官吏ノ一人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

屬ハ縣ニ在テハ知事官房、內務部又ハ財務部ニ屬シ廳ニ在リテハ庶務課又ハ財務課ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

通譯ハ縣廳ノ各部課及其他ノ官署ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ従事ス
 參事ハ縣廳管轄內ニ居住シ學識名望アル者ニ就キ拓殖務大臣ヲ經テ臺灣總督之ヲ奏薦宣行ス參事ハ地方ノ行政事務ニ關シ知事、廳長ノ諮詢ニ對シ意見ヲ述フルモノトス又知事、廳長ノ命ヲ承ケ事務ニ従事スルコトアルヘシ

明治三十一年六月ノ改正官制ハ各縣ニ知事、稅務官、屬通譯等ヲ置キ各廳ニ廳長、書記官、屬通譯等ヲ置ク但シ臺灣總督府澎湖廳ニハ書記官ヲ置カス其他縣廳ニ參事ヲ置クコトヲ得

知事廳長ハ前顯ノ職務ヲ掌理ス知事廳長事故アルトキハ上席高等官其職務ヲ代理ス而シテ知事廳長ハ縣廳ノ官吏ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得又臺灣總督ノ認可ヲ經テ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ辨務署長ニ委任スルヲ得

縣ニ在リテハ稅務官ハ稅務部長トナリ知事ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス宜蘭廳ニ在テハ書記官ハ財務課長ト爲リ臺灣總督及澎湖廳ニ在リテハ廳長ハ總務課長ト爲リ廳長ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス各部長課長事故アルトキハ知事廳長ニ於テ縣廳官吏ノ一人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

屬ハ縣ニ在リテハ知事官房、內務部又ハ稅務部ニ屬シ廳ニ在リテハ總務課、內務課又ハ財務課ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

通譯ハ縣廳ノ各部課及其他ノ官署ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

參事ハ縣廳管轄內ニ居住シ學識名望アル者ニ就キ內務大臣ヲ經テ臺灣總督之ヲ奏薦宣行ス而シテ參事ハ地方ノ行政事務ニ關シ知事廳長ノ諮詢ニ對シ意見ヲ述フルモノトス參事ハ又知事廳長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事スルコトアルヘシ

三十三年九月官制ノ一部改正ニ依リ各廳ニ總務、警察ノ二課ヲ置クコト、ナレルヲ以テ隨テ宜蘭廳ニ在リテハ書記官ヲ總務課長ト爲ス

三十四年十一月ノ改正官制ハ各廳ニ廳長、屬警部、技手、通譯、警部補ヲ置ク支廳長ハ屬警部又ハ技手

ヲ以テ之ニ充ツ

廳長ハ前顯ノ職務ヲ掌理ス廳長事故アルトキハ部下ノ屬及警部中ノ上席者其ノ職務ヲ代理ス又廳長ハ部下ノ官吏ヲシテ其事務ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得廳長ハ又廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ臺灣總督ノ認可ヲ經テ支廳ヲ置クコトヲ得

屬ハ課又ハ支廳ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

警部ハ課又ハ支廳ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ警察ニ關スル事務ニ從事シ部下ノ巡查及巡查補ヲ指揮監督ス

警部補ハ課又ハ支廳ニ分屬シ警部ノ職務ヲ補助ス

技手ハ課又ハ支廳ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

通譯ハ課又ハ支廳ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

參事ハ各廳五人以內トシ廳管轄內ニ住居シ學識名望アルモノニ就キ廳長之ヲ命ス而シテ參事ノ職務ハ前ニ述フル所ニ異ナルナシ

第四目 雜件

第一 監督

明治二十九年三月ノ地方官官制ハ知事及嶋司ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承クルモノトシ三十年五月竝ニ三十一年六月ノ官制モ亦同様ノ規定ヲ設ク

第二 名稱位置及管轄區域

明治二十九年三月ノ地方官官制ハ臺灣ニ臺北縣臺中縣臺南縣及澎湖鳴廳ヲ置キ其位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ムヘキコトヲ規定ス

明治三十年五月ノ改正官制ハ臺灣ニ臺北縣新竹縣臺中縣嘉義縣臺南縣鳳山縣宜蘭廳臺東廳及澎湖廳ヲ置キ其位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ムヘキコトヲ規定ス

明治三十一年六月ノ改正官制ハ臺灣ニ臺北縣臺中縣臺南縣宜蘭廳臺東廳及澎湖廳ヲ置キ其位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ムヘキコトヲ規定ス

明治三十四年十一月ノ改正官制ハ臺灣ニ臺北基隆宜蘭深坑桃仔園新竹苗栗臺中彰化南投斗六嘉義鹽水港臺南蕃薯寮鳳山阿猴恒春臺東澎湖ノ二十廳ヲ置キ其位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ムヘキコトヲ規定ス

第二項 支廳

第一目 管務

明治二十九年三月ノ地方官官制ニ依レハ支廳長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ部内ノ行政事務ヲ掌理スルモノトス

明治三十年五月ノ改正官制ニ依レハ辨務署長ハ知事廳長ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理スルモノトス六月二十三日府令第二十六號ヲ以テ辨務署取扱事項ヲ明定シテ一諸命令ノ頒布ニ關スル事項二部内ノ民情報告ニ關スル事項三戶籍ニ關スル事項四租稅及諸收入徵收事務ニ關スル事項五滯納處分ニ關スル事項六官有財産保管ニ關スル事項其他縣知事廳

長ヨリ特ニ委任スル事項トス三十一年六月ノ改正官制モ亦同様ノ規定ヲ置ク

明治三十四年十一月ノ改正官制ハ廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ臺灣總督ノ認可ヲ經テ廳長ヲシテ支廳ヲ置クコトヲ得セシメタリ

第二目 分掌

明治二十九年三月並三十年五月ノ地方官官制ハ支廳又ハ辨務署ノ分掌ニ付キテ別ニ規定スル所ナシ三十一年六月ノ改正官制ハ辨務署ニ第一課第二課及第三課ヲ置キ第一課ニ於テハ他課ノ主務ニ屬セサル一切ノ事務ヲ掌リ第二課ニ於テハ警察ニ關スル事務ヲ掌リ第三課ニ於テハ蕃人蕃地ニ關スル事務ヲ掌ルモノトス但シ知事廳長ハ各辨務署ノ須要ニ應シ臺灣總督ノ認可ヲ經テ右分課中ノ一課若クハ二課ヲ置カサルコトヲ得

第三目 職員

明治二十九年三月ノ地方官官制ハ支廳ニ支廳長書記官屬等ヲ置ク

支廳長ハ前顯ノ職務ヲ掌理ス

支廳書記官ハ支廳長ノ命ヲ承ケ廳中ノ事務ヲ掌理シ支廳長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

明治三十年五月ノ改正官制ハ各辨務署ニ署長主記ヲ置ク此他辨務署ニ參事ヲ置クコトヲ得署長ハ前顯ノ職務ヲ掌理シ部内ノ街庄社長ヲ監督シ其進退及成績ヲ知事廳長ニ具狀ス署長事故

アルトキハ上席主記ヲシテ其職務ヲ代理セシムルコトヲ得署長ハ又部下ノ官吏ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

主記ハ署長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

參事ハ辨務署管轄内ニ居住シ學識名望アル者ニ就キ知事廳長之ヲ命ス參事ハ部内ノ行政事務ニ關シ署長ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フルモノトス又署長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事スルコトアルヘシ

明治三十一年六月ノ改正官制ニ依レハ各辨務署ニ警部ノ外署長主記技手ヲ置ク其他辨務署ニ參事ヲ置クコトヲ得

署長ハ前顯ノ職務ヲ掌理シ又部内ノ街庄社等ノ長ヲ監督シ其進退及成績ヲ知事廳長ニ具狀ス署長事故アルトキハ其上席主記警部又ハ技手其職務ヲ代理ス署長ハ又部下ノ官吏ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

主記警部技手ハ署長ノ命ヲ承ケ各其主務ニ従事ス

參事ハ辨務署管轄内ニ居住シ學識名望アル者ニ付キ知事廳長之ヲ命シ部内ノ行政事務ニ關シ署長ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フルモノトス又署長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事スルコトアルヘシ

明治三十四年十一月ノ地方官官制ハ支廳ニ支廳長屬等ヲ置ク而シテ支廳長ハ廳ノ事務ヲ分掌ス支廳ニ分屬スル屬警部技手通譯ノ従事スル事務ハ廳ニ就テ述ヘタル所ト異ナルナシ

第四目 雜件

第一 名稱位置及管轄區域

明治二十九年三月ノ地方官官制ハ縣ノ下ニ便宜支廳ヲ置キ其名稱位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ムルモノトス

明治三十年五月ノ改正官制ハ縣廳内須要ノ地ニ辨務署ヲ置キ其位置名稱及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ムルモノトス

明治三十一年六月ノ改正官制ハ縣廳ノ管內須要ノ地ニ辨務署ヲ置キ其位置名稱及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ムルモノトス但シ臺東廳及澎湖廳ノ管內ニハ辨務署ヲ置カス應ニ於テ其事務ヲ掌理ス而シテ其事務ノ爲メ應ノ管內ニ出張所ヲ置クコトヲ得出張所ノ名稱位置及管轄區域ハ臺灣總督ノ定ムル所トス

明治三十三年九月ノ改正官制ハ縣ノ管內須要ノ地ニ辨務署ヲ置キ其位置名稱及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ムルモノトス

明治三十四年十一月ノ地方官官制第十一條ニヨリ支廳設置ノ認可ヲ請ハントスルトキハ一)支廳ノ位置名稱及管轄二)支廳ヲシテ掌理セシムヘキ事務ノ項目三)支廳ニ配置スヘキ支廳長及支廳員ノ官職別及人員ノ事項ヲ詳記シ理由ヲ具シテ稟申スヘキモノトセリ

第二 辨務支署

一 設置 明治三十一年六月ノ改正官制ハ知事廳長ハ辨務署ノ或一部ノ事務ヲ掌理セシムル爲メ臺灣總督ノ認可ヲ經テ辨務署ノ下ニ辨務支署ヲ置クコトヲ得ルモノトス

二 職員 同官制ニ依レハ辨務支署長ハ主記警部又ハ技手ヲ以テ之ニ充テ署長ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス支署長事故アルトキハ其上席主記警部又ハ技手其

職務ヲ代理シ支署長ハ又部下ノ官吏ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
主記警部、技手ハ支署長ノ命ヲ承ケ各共主務ニ従事ス

第三 應又ハ支廳員派出所

明治三十四年十二月訓令第四百三十一號ヲ以テ應又ハ支廳員派出所ヲ設置スル必要アルトキハ
(一)位置、名稱(二)掌理スル事務ノ項目(三)派出員ノ官職別及人員ヲ詳記シ事由ヲ具シテ臺灣總督ノ認
可ヲ受クヘキコトヲ定ム

第三項 街、庄、社長

明治三十年五月三日ノ勅令第五百五十七號ハ臺灣總督府管內街、庄、社ニ長ヲ置クノ件ヲ定メ臺灣總
督府管內各街、庄、社若クハ數街、庄、社ニ長ヲ置キ街、庄、社長ハ辨務署長ノ指揮命令ヲ承ケ部内ノ行政
事務ヲ補助執行スルモノトス其他街、庄、社長設置ニ關シ必要ナル規程ハ臺灣總督之ヲ定ムルモノ
トス

明治三十四年十一月勅令第二百五號ハ街、庄、社長ハ廳長又ハ支廳長ノ指揮命令ヲ承ケ部内ノ行
政事務ヲ補助執行スルモノト改メ明治三十五年五月臺灣總督府令第四十號ヲ以テ街、庄、社長ノ職
務ヲ定メ從來ノ規定ハ本令施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止セリ街、庄、社長ノ職務次ノ如シ

- 一 法令ノ周知ニ關スルコト
- 二 人民ヨリ行政官廳ニ提出スル願届等ノ進達ニ關スルコト但シ特別ノ規定アルモノハ此限
ニ在ラス

- 三 行政官廳ヨリ發スル命令ノ傳達ニ關スルコト但シ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス
- 四 戶籍上ノ異動報告ニ關スルコト
- 五 租稅及諸收入徵收事務ノ補助ニ關スルコト
- 六 公費ノ收支ニ關スルコト但シ特別ノ規定アルモノハ此限リニアラス
- 七 以上ノ外特ニ廳長ヨリ命令スル事項

第四章 附屬機關

第一節 造幣機關

第一款 造幣機關ノ第一期

造幣ノコトタル當初太政官ノ管理ニ屬シ舊幕府以來ノ金銀錢座ニ於テ之カ製造ニ從事セシメタリシカ明治元年閏四月二十一日會計官ノ起ルヤ官ニ貨幣司ヲ置キテ貨幣鑄造ノ事務ヲ管掌セシメ元年十二月四日東京府下ノ各鑄錢座ヲ廢ス二年二月五日貨幣司ヲ廢シテ太政官中ニ造幣局ヲ置キ同月十二日從來ノ金銀座ヲ廢止ス同年四月八日太政官ノ管理ニ屬セル造幣局ヲ更ニ再ヒ會計官ニ轉屬セシム同年七月八日會計官ノ廢セラレテ大藏省ノ起ルヤ省中造幣寮ヲ置キ十年一月十一日寮ヲ改メテ局トナシ爾後十九年二月二十六日大藏省官制改正セラレ、迄大藏省造幣局ニ於テ貨幣製造ノ事ヲ掌理シタリ前述ノ如ク明治更始以降十九年二月ニ至ルノ間造幣機關ノ管掌事務分掌ノ方法職員等ニ關シ幾回カ變革スル所アリシト雖モ要スルニ當時造幣機關ハ制度上中央機關ノ組織ノ一部ヲ構成シ其變革ハ大體ニ於テ常ニ本省ノ變革ニ伴ヒテ行ハレ他ハ唯瑣細ナル改革ニ止マル故ニ第一期ニ於ケル造幣機關ノ沿革ハ中央機關ノ變遷ノ一部トシテ敘述スルヲ以テ至當ト爲スヘク曩ニ既ニ之ヲ詳説シタルヲ以テ今茲ニ重テ之ヲ説カス

第二款 造幣機關ノ第二期

第一項 管務

明治十九年二月二十六日大藏省官制ノ改正アルヤ從來大藏省ノ一局ヲナシタル造幣局ヲ分離シテ特別ノ一局タラシムルコト、シ同年四月十五日勅令第十七號ヲ以テ造幣局官制ヲ制定シ造幣局ハ貨幣鑄造ノ事ヲ掌ル旨ヲ明規シ是ニ於テカ造幣ノ機關ハ大藏省外ニ立テル所ノ一附屬機關トナルニ至レリ明治二十年十二月十一日勅令第六十號ヲ以テ造幣局官制ヲ改正シ其管掌事務ヲ改メテ造幣局ハ貨幣鑄造及賞牌製造ノ事ヲ掌ルモノトシ明治二十三年七月二十四日勅令第四百四十號ヲ以テ更ニ造幣局官制ヲ改正シ其管掌事務ヲ增加シ貨幣ノ鑄造舊貨幣ノ鑄造賞牌ノ製造地金銀ノ精製分析及諸礦物ノ試驗ヲ掌ルモノトナセリ二十六年十月三十日ニ至リ勅令第三百三十六號ヲ以テ造幣局官制ノ改正アリタリト雖モ其管掌ニ就テハ別ニ變更スルコトナシ

第二項 分掌

明治十九年四月制定造幣局官制ニ依レハ造幣局ニ總務部會計部第一部第二部第三部第四部及第五部ヲ置キ各共事務ヲ分掌セシム明治二十年十二月ノ改正官制ハ其分課ヲ變更シテ總務部會計部鑄造部及試金所精製所ヲ置キテ其事務ヲ分掌セシメタリ明治二十四年十二月三十一日從來ノ三部二所ヲ改メテ總務會計鑄造試金ノ四部トナシ各部又之ヲ數課ニ分テリ即チ左ノ如シ

總務部 文書課 庶務課
會計部 地金課 用度課

明治十九年四月制定

鑄造部 鑄解場 伸延場 極印場 鑄銅場 彫刻場 製作場 精煉場

試金部 試驗科 精製科

明治二十六年十一月八日造幣局分課ヲ改メテ總務部鑄造部試金部トシ爾後變更スルコトナシ而シテ總務部ニ文書庶務地金用度ノ四課鑄造部ニ鑄解伸延極印彫刻製作ノ五場及極印伸延鑄銅ノ三分室試金部ニ試驗精製精煉ノ三場ヲ置キ以テ其事務ヲ分掌セリ

第三項 職員

明治十九年四月制定造幣局官制ニ依レハ造幣局ニ事務長事務次長技術官及屬ヲ置キ事務長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理シ事務次長ハ事務長ノ事務ヲ佐ク技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事スルモノトセリ二十年十一月造幣局官制ヲ改正シ事務長及事務次長ヲ改メ局長及局次長ト爲シ明治二十三年七月改正官制ニ於テ其職員ヲ改メ造幣局ニ局長理事官技師技師補助及技手ヲ置キ局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ理事官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事務ヲ分掌ス局長事故アル時ハ上席理事官之ヲ代理ス技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工業ヲ監視シ屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ニ從事ス又技手ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事スルモノトセリ明治二十四年七月二十四日ニ至リ勅令第二百一十一號ヲ以テ造幣局官制ノ一部ヲ改正シ從來ノ職員中技師試補ヲ廢シテ局長理事官技師技手及屬トナセリ其他分掌事務ニ至テハ變更スルコトナシ次テ明治二十六年十月三十日造幣局官制ヲ改正シ其職員ヲ改メ造幣本局ニ局長技師屬及技手

ヲ置キ局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ監理ス而シテ屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事スルモノトセリ

第四項 雜件

第一目 管理

明治十九年四月制定造幣局官制ハ造幣局ヲ以テ大藏大臣ノ管理ニ屬スルモノトシ爾來本局ハ引續キ大藏大臣ノ管理ニ屬セリ

第二目 支廳

第一 造幣局東京出張所 造幣局ハ第一期以來之ヲ大阪ニ置キ東京ニハ其出張所ヲ置ケリ明治十九年四月二十二日大藏省令第十八號造幣局分掌規程ニ於テモ亦大藏省構内ニ造幣局出張所ヲ置キ各地金ノ受入及代リ貨幣拂渡ノ手續ヲ分掌セシムルコト、セリ二十年十二月改正造幣局官制ニ於テモ亦大藏省構内ニ造幣局東京出張所ヲ置ク旨ヲ規定セリ但其分掌事務ハ前ニ同シ
第二 造幣支局 明治二十三年七月造幣局官制ノ改正アリ造幣局東京出張所ヲ改メテ造幣支局ト稱ス造幣局理事官ヲシテ造幣支局長ノ事務ヲ掌理セシメ地金ノ受入及代リ貨幣拂渡ノ事務ヲ掌ルモノトセリ二十四年七月造幣局官制一部ヲ改正シ造幣支局長ハ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツルモノトシ二十六年十月改正官制ニ於テモ亦東京市ニ造幣支局ヲ置キ地金ノ買入及代リ貨幣

拂渡ノ事務ヲ掌理セシメ其支局長ハ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツヘキ旨ヲ規定シタリ

第二節 印刷機關

第一款 印刷機關ノ第一期

維新ノ始メ紙幣印刷ノ事務ハ太政官ノ管理スル所ニシテ當時政府ノ發行シタル太政官金札及民部省金札ノ如キ其製造甚粗笨ニシテ贋造ノ弊ニ勝ヘス加之一方ニハ藩札交換ノ爲メ精良ナル紙幣ヲ發行スルノ必要アリタルヲ以テ明治三年閏十月日耳曼國彫刻會社ニ新紙幣製造方ヲ委託シタリ後紙幣ニ關スル事務漸ク繁劇ナルニ及ヒ明治四年七月二十七日大藏省ニ紙幣司ヲ置キ之ニ當ラシメ同年八月十日紙幣司ヲ改メテ紙幣寮ト稱セリ而シテ公債證書及銀行紙幣ノ製造ハ之ヲ米國券票彫刻會社ニ委託シタリシカ尋テ紙幣寮ニ工場ヲ設ケ外國製紙幣ニ押印シ及正金兌換證券郵便切手、印紙等ノ製造ニ從事セシメタリ明治七年二月日屢有價證券ノ製造ヲ外國ニ委託スルヲ不可トシ麴町區大手町ニ工場ヲ新築シ彫刻製肉印刷ノ技術ニ熟達シタル外國人ヲ聘シ海外ヨリ之ニ要スル諸機械ヲ購入シ更ニ用紙ノ抄造場ヲ北豐島郡王子村ニ設ケ諸般ノ設備漸ク整ヒ紙幣銀行券等皆紙幣寮工場ニ於テ製造スルコト、ナレリ明治八年九月正院印書局ヲ紙幣寮ノ所管トナシ活版局ト稱シ各官廳活版印刷ノ事ヲ掌ラシメ後更ニ官報ノ印刷ヲ取扱ハシムルコト、セリ明治十年一月十一日紙幣寮ヲ廢シ紙幣局ヲ置キ十一年十二月十日大藏省達乙第六十五號ヲ以テ紙幣局ヲ大藏省印刷局ト改稱シ明治十九年二月二十六日大藏省官制ノ改正ノ結果遂ニ本省外ニ於ケル特別ノ附屬機關トナルニ至レリ而シテ當初紙幣寮ニ於テハ銀行ニ關スル事務藩札交換ニ

關スル事務其他國債證券ノ發行及償還ノ事務等ヲモ管掌シタリシカ後漸次此等ノ事務ハ國債寮
出納局又ハ銀行課ニ移スニ至レリ其職制章程ノ如キ數次ノ改廢アリタリト雖モ要スルニ第一期
ニ於ケル印刷機關ハ中央機關ノ一部ヲ成スモノナルヲ以テ其詳細ハ之ヲ第二章ニ讓リ爰ニ之ヲ
略ス

第二款 印刷機關ノ第二期

第一項 管 務

明治十九年二月二十六日改正大藏省官制ニ於テハ從來其省ノ一局ヲ成セル印刷局ヲ分離シテ特
別ノ機關トナシ同年四月十五日勅令第十七號ヲ以テ新ニ印刷局官制ヲ制定シ印刷局ハ大藏大臣
ノ管理ニ屬シ諸印刷抄紙ノ事ヲ掌ル旨ヲ規定シタリ二十三年七月二十四日勅令第四百一號ヲ
以テ印刷局官制ヲ改正シ其管務ヲ變改シ印刷局ニ於テハ兌換銀行券、印紙、郵便切手諸證券類ノ製
造並ニ諸印刷及抄紙ノ事ヲ掌ルモノトナシ二十六年十月三十日勅令第三百三十七號改正官制亦同
一ノ規定ヲ設ク明治三十一年十月二十二日勅令第二百五十六號ヲ以テ印刷局官制ヲ改正シ從來
大藏省ノ管理ニ屬シタルヲ改メテ内閣ノ所管ニ移シ新ニ官報ニ關スル事務ヲ增加シ其管掌事項
ヲ左ノ如ク改定シタリ

- 一 官報、法令全書及職員錄ノ編輯並發賣ニ關スル事項
- 二 官報其他ノ文書ノ印刷ニ關スル事項
- 三 印紙、郵便切手並諸證券等ノ製造ニ關スル事項

四 抄紙ニ關スル事項

明治三十三年三月二十四日勅令第五十八號ヲ以テ印刷局官制ヲ改正シ其管掌事項中第二號及第
三號ヲ改正シ第二號ヲ改メテ「官報其他ノ印刷ニ關スル事項」トナシ第三號ヲ改メテ「印紙、郵便切
手並諸證券類ノ製造ニ關スル事項」トナセリ其他ハ故ノ如シ

第二項 分 掌

明治十九年二月二十六日大藏省官制ヲ蓋革シテ印刷局ヲ本省ヨリ分離スルヤ其管掌事務及處務
ノ方法等暫ク從前ノ例ニ隨フ三月二十九日ニ至リ其處務條款ヲ改定シ庶務審查ノ兩課ヲ並セニ
總務課ト改稱ス十九年四月十五日制定印刷局官制ニ於テハ印刷局ニ總務部、會計部、印刷部及抄紙
部ノ四部ヲ置キ同月二十二日大藏大臣定ムル所ノ印刷局分掌規程ニ依テ各部分掌ノ事務ヲ執ラ
シメタリ二十三年三月一日抄紙部製藥課ヲ宮内省ノ所管ニ屬セシム二十四年十二月三十一日印
刷局分掌規程ヲ改定シ左ノ如ク之ヲ改正セリ

- 局長室 庶務課、檢査課
- 會計部 主計課、收入課、調度課
- 印刷部 刷版課、調查課、整理課
- 活版部 活版課
- 抄紙部 抄紙課

明治二十六年十一月八日印刷局分掌規定ヲ改正ス但シ局長室、會計部、印刷部、活版部、抄紙部ヲ置ク

コト故ノ如シ三十一年十一月一日官制ノ改正ニ伴ヒ官報部ヲ新設シ又印刷部ニ彫刻課ヲ置ク三十三年八月三日分課規定ヲ改正シ活版部抄紙部ノ二部ニ各整理課ヲ増置シタリ

第三項 職員

明治十九年二月二十六日印刷局ヲ本省組織ヨリ分離スルヤ其職制ハ舊ニ仍ル三月二十九日其職制ヲ改定シテ監工守警長ヲ廢シ更ニ審事ヲ置ク明治十九年四月制定印刷局官制ニ依レハ本局ニ事務長事務次長技術官及屬ヲ置キ事務長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理シ事務次長ハ事務長ノ事務ヲ佐ケ技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌シ屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事スルモノトセリ

明治二十三年七月改正印刷局官制ニ依レハ本局ニ局長理事官技師技師候補及技手ヲ置ク而シテ局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス理事官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ分掌ス局長事故アルトキハ上席理事官之ヲ代理ス技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工業ヲ監理ス屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ニ從事ス又技手ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事スルモノトス

明治二十四年七月二十四日勅令第二百二十二號ヲ以テ印刷局官制中ヲ改メ本局ニ局長理事官技師技師候補及技手ヲ置キ局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ總理シ理事官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌リ局長事故アルトキハ之ヲ代理スルモノトス其他舊ノ如ク

明治二十六年十月改正印刷局官制ニ於テハ印刷局ニ局長技師屬及技手ヲ置キ局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ監理シ屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

明治三十一年十月印刷局官制ヲ改正シ新ニ印刷局事務官ヲ設ケ職員ノ分掌ヲ變更ス即チ局長ハ内閣總理大臣又ハ内閣書記官長ノ命ヲ承ケテ局中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監理シ事務官ハ局長ノ命ヲ承ケテ事務ヲ掌ル技師ハ局長ノ命ヲ承ケ工務ヲ監理シ屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事スルモノトナセリ

第四項 雜件

第一 管理 明治十九年二月大藏省官制改正ニ因リ印刷局ヲ省外ニ置キ特別ノ一機關トナスヤ尙ホ之ヲ大藏大臣ノ管理ニ屬セシメタルコトハ同年四月十五日制定印刷局官制第一條ノ規定スル所ナリ爾後官制ノ改正數次之アリシト雖モ此點ニ就テハ敢テ變更スルコトナカリキ然ルニ明治三十一年十月二十二日勅令第二百五十六號ヲ以テ印刷局官制ノ改正アリ從來ノ制ヲ罷メ之ヲ内閣總理大臣ノ監督ニ屬セシムルコトトセリ

第二 技術 印刷局創始ノ際ニ於テハ彫刻製肉印刷等ノ技術一ニ備外國人ノ手ニ委セラレタリシカ後邦人職員ノ技術大ニ進歩スルニ及ヒ漸次ニ外國技術者ヲ解雇シ明治二十四年七月ニ至リテハ全ク本邦人ノミニテ各技術ヲ擔當スルコトトナレリ而シテ三十一年十月官報事務ヲモ管掌スルニ至リ又郵便切手諸印紙及有價證券等ノ製造甚タ増加シタルヲ以テ三十二年以降工場共

他ノ設備ヲ擴張シ機械ノ増設改善ニ著手シ三十五年度ニ至リテ全ク完成ヲ告ケ今ヤ清國政府ノ委囑ニヨリ同國有價紙ヲモ製造スルニ至レリ

第三節 葉煙草專賣機關

第一款 葉煙草專賣機關ノ第一期

第一項 管 務

明治三十年四月二十一日勅令第二百二十一號ヲ以テ葉煙草專賣所官制ヲ制定シ第一條ニ其ノ管掌事務ヲ掲ケ葉煙草專賣所ハ葉煙草ノ検査收納保存及賣渡ニ關スル事務ヲ處理スルモノト定ム

第二項 分 掌

明治三十年九月十七日葉煙草專賣所分課規程ヲ定メ業務鑑定倉庫及庶務ノ四課ヲ置キ各其ノ事務ヲ分掌セシム同年十月三十日該規程中庶務課ノ分掌事項中追加スル所アリ

第三項 職 員

明治三十年四月制定ノ葉煙草專賣所官制ニ依レハ葉煙草專賣所ニ所長、屬及技手ヲ置キ所長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ葉煙草ノ検査、收納、保存及賣渡ニ關スル事務ヲ掌理シ屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ検査、出納及葉煙草專賣所ノ庶務ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ鑑定及

保存ノ事務ニ從事ス十月十九日勅令第三百七十號ヲ以テ該官制ノ一部ヲ改正シ技手ノ職務ニ營造物保存ノ事務ヲ追加セリ

第四項 雜 件

第一目 管 理

明治三十年四月制定ノ官制ハ葉煙草專賣所ヲ以テ大藏大臣ノ管理ニ屬セシム

第二目 名 稱 位 置

葉煙草專賣所ノ名稱位置ハ明治三十年四月勅令第二百二十一號葉煙草專賣所官制ノ定ムル所ニシテ左ノ六十一所ナリ

- 東京、吉井、岩井、水戸、大宮、太田、茂木、烏山、馬頭、太田原、須賀川
- 三春、若松、千厩、大迫、増田、東根、米澤、關原、小出雲、松本、飯野
- 横濱、秦野、富士、見付、名古屋、岐阜、山田、和歌山、高田、八日市、勝山
- 鶴來、大阪、神戸、岡山、久世、高梁、府中、三原、廣嶋、米子、貞光
- 池田、琴平、三嶋、松山、後免、志波、長崎、熊本、高森、白杵、竹田
- 高千穂、國分、出水、鹿兒嶋、垂水、指宿

第三目 管 轄 區 域

第一 消極的ノ管轄地域 明治三十年五月三十一日勅令第六十九號ヲ以テ葉煙草專賣法第三十條ニ依リ所謂遠隔ノ嶋嶼ニシテ内地ト一般ノ狀勢ヲ異ニスル地域ヲ指定シテ葉煙草專賣法施行外ノ地ト爲ス而シテ其指定セラレタル地域ハ北海道廳管下ノ一部東京府管下小笠原嶋及伊豆七嶋鹿兒嶋縣管下ノ一部及沖繩縣管下ノ一部ナリ三十四年十二月勅令第二百二十七號ヲ以テ沖繩縣管下ニ追加スル所アリ

第二 積極的ノ管轄地域 明治三十年十一月十一日大藏省告示第七十二號ヲ以テ葉煙草專賣所管轄區域ヲ定々其後三十一年七月十五日大藏省告示第五十六號並九月十六日大藏省告示第六十六號ヲ以テ該區域中變更セシ所アリト雖モ孰レモ二三葉煙草專賣所ノ管轄區域ヲ相互取替ヘタルニ過キス

第四目 專賣支所

第一 設置及管務 明治三十年四月制定ノ葉煙草專賣所官制第二條ニ曰ク葉煙草專賣所ノ管内必要ノ地方ニハ大藏大臣ノ定ムル所ニヨリ葉煙草專賣支所ヲ置キ葉煙草專賣所ノ事務ヲ分掌セシムト十月官制一部ノ改正ハ右第二條ヲ葉煙草專賣所ノ管内必要ノ地方ニハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ葉煙草專賣支所ヲ置クト修正シ葉煙草專賣所ノ事務ヲ分掌セシムトノ文字ヲ削除セリ

第二 職員 明治三十年四月制定ノ官制ハ規定シテ曰ク葉煙草專賣支所長ハ葉煙草專賣所屬ヲ以テ之ニ充テ葉煙草專賣所長ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ検査、收納、保存及賣渡ニ關スル事務ヲ分掌スト而シテ此ノ規定ハ十月ノ改正ニヨリテ削除セラル、所トナレリ

第三 管屬 葉煙草專賣支所ハ葉煙草專賣所長ノ所管ニ屬ス

第四 位置名稱 明治三十年十一月二十七日大藏省令第二百十一號ヲ以テ葉煙草專賣支所ヲ設置シ其名稱位置ヲ定ム其後三十一年三月十五日大藏省令第三號ヲ以テ神戸葉煙草專賣所管内ニ於テ一支所ノ位置名稱ヲ變更シ七月六日大藏省令第七號ヲ以テ鹿兒嶋葉煙草專賣所管内ニ一支所ノ廢止及一支所ノ新設ヲ爲シ同月十六日大藏省令第十一號ヲ以テ松本、高梁、後免、高森、高千穂ノ五葉煙草專賣所管内ニ各一支所ヲ新設シ十月二十日大藏省令第十七號ヲ以テ名古屋、山田二葉煙草專賣所管内ニ各一支所ヲ新設セリ

第二款 葉煙草專賣機關ノ第二期

第一項 第二期ノ前期

第一目 管務

明治三十一年十月二十二日勅令第二百七十四號ヲ以テ專賣局官制ヲ制定シ其第一條ハ管掌事務ヲ規定シ專賣局ハ政府ノ專賣ニ關スル事務ヲ掌ルモノトセリ

第二目 分掌

明治三十一年十一月一日專賣局分課規程ヲ定メ專賣局ニ業務、資金、鑑定及庶務ノ四課ヲ置キ各分掌スル所アラシム

第三目 職員

明治三十一年十月制定ノ專賣局官制ニ依レハ專賣局長鑑定官、屬及鑑定官補ヲ置キ局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ鑑定官ハ鑑定ニ關スル事務ヲ管理シ屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定ニ從事ス

第四目 雜件

第一 管理 明治三十一年十月制定ノ專賣局官制ニ依リ專賣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬ス

第二 位置 明治三十一年十月制定ノ專賣局官制ハ十一月一日ヨリ施行スルコト、ナリ應合ヲ大藏省ノ構内ニ設ク

第三 葉煙草專賣所

一 管務 明治三十二年三月一日勅令第四十四號ヲ以テ葉煙草專賣所官制中共管掌事務ニ葉煙草ノ輸入及煙草製造葉煙草賣買ノ免許ニ關スル事務ヲ追加セリ

二 職員 明治三十一年十月二十二日勅令第二百七十三號ニ依レハ從來ノ葉煙草專賣所官制中葉煙草專賣所長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケトアリシヲ改メテ專賣局長ノ指揮ヲ承クルコト、ナシ又三十二年三月改正官制ハ葉煙草專賣所長ハ專賣局長ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ検査、收納、輸入、保管、賣渡及煙草製造、葉煙草賣買ノ免許ニ關スル事務ヲ掌理スルモノト改メタリ

三 管屬 明治三十一年十月改正官制ハ葉煙草專賣ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シタリシヲ改メテ專

賣局長ノ所官ニ屬セシム

第二項 第二期ノ後期

第一目 管務

明治三十二年四月二十一日勅令第七十號ヲ以テ專賣局官制ヲ改正シ管掌事務ヲ規定シテ曰ク專賣局ハ葉煙草ノ検査、收納、輸入、保管、賣渡、營業免許及專賣取締ニ關スル事務ヲ掌ル三十五年十月三十一日勅令第二百三十七號ヲ以テ再ヒ專賣局官制ヲ改正シ專賣局ハ葉煙草ノ耕作、検査、査定、收納、輸入、輸出、保管、賣渡、煙草ノ營業及專賣取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第二目 分掌

明治三十二年四月二十七日專賣局分課規程ヲ改正シ專賣局ニ業務、資金、鑑定及庶務ノ四課ヲ置キ各分掌スルトコロアラシム五月一日該規程中ニ追加シ新ニ作業ノ一課ヲ加ヘ其分掌事項ヲ規定ス三十三年三月二十九日又該規程ヲ改正シ專賣局ニ事業、鑑定、經理、監督、作業、庶務ノ六部ヲ置キ各分掌事務ヲ規定ス更ニ三十五年十一月四日ニ至リ之ヲ改正シ專賣局ニ事業、技術及經理ノ三部ヲ置キ各其分掌事務ヲ規定シタリ

第三目 職員

明治三十二年四月改正ノ官制ハ專賣局長、事務官、鑑定官、事務官補、屬、鑑定官補、監視及技手ヲ置

キ局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ事務官及事務官補ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ分掌ス鑑定官ハ局長ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ鑑定保存ニ關スル事務ヲ司リ屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ鑑定保存ニ従事ス又監視ハ上官ノ指揮ヲ承ケ葉煙草專賣ノ取締ニ従事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工事ニ従事スルモノトセリ三十三年三月二十七日勅令第七十六號ヲ以テ官制中ニ改正ヲ加ヘ事務官補ヲ廢セリ三十五年十月改正ノ官制ハ鑑定官鑑定官補及監視ヲ削リ書記官技師事務官補及技手ヲ置キ且ツ事務官ノ職務ヲ改メタリ即チ書記官ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ掌リ事務官ハ局長ノ指揮ヲ受ケ專賣ノ監督ニ關スル事務又ハ專賣支局ノ事務ヲ掌リ技師ハ局長ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ鑑定保存耕作及煙草ノ試驗ニ關スル事務ヲ掌リ事務官補ハ專賣支局ニ分屬シ支局長ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ掌リ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ鑑定保存耕作及煙草ノ試驗又ハ營繕工事ニ従事ス

第四目 雜件

- 第一 管理 明治三十二年四月及三十五年十月改正ノ官制ハ專賣局ヲ大藏大臣ノ管理ニ屬セシム
- 第二 位置 明治三十二年四月及三十五年十月改正ノ官制ハ專賣局ヲ東京ニ置ク
- 第三 支廳
- 一 專賣支局
- (一) 設置及管務 明治三十二年四月改正ノ官制ハ從前ノ葉煙草專賣所ヲ廢止シ各地方ニ專賣支局

ヲ置キ專賣局ノ事務ヲ分掌セシム三十五年十月官制改正ニヨリ各地方ニ專賣支局ヲ置クコト舊ニ同シ

(二) 職員 明治三十二年四月改正ノ官制ハ各專賣支局ニ支局長一人ヲ置キ專賣局事務官又ハ事務官補ヲ以テ之ニ充テ專賣局長ノ指揮ヲ承ケ支局一切ノ事務ヲ掌理ス三十三年勅令第七十六號ヲ以テ官制ヲ改正シ事務官補ヲ削除シ三十五年十月改正ノ官制ニ於テハ專賣支局長ノ配置及職務ハ從前ノ官制ニ異ルトコロナキモ事務官補ハ專賣支局ニ分屬シ支局長ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ掌ルモノトセリ

三名稱位置 明治三十二年四月改正官制ニ專賣支局ノ名稱位置ヲ定メタリ即チ左ノ五十六箇所ナリ

- 吉井、岩井、水戸、大宮、太田、茂木、烏山、馬頭、太田原、須賀川、三春、若松、千厩
 - 大迫、増田、東根、調原、小出雲、松本、飯野、横濱、秦野、富士、見付、名古屋、山田
 - 和歌山、高田、八日市、勝山、鶴來、大阪、神戸、久世、高梁、府中、三原、米子、真光
 - 池田、琴平、三嶋、松山、後免、志波、長崎、熊本、高森、白杵、竹田、高千穂、國分、出水、鹿兒嶋、垂水、指宿
- 明治三十三年三月改正ノ官制ニ於テ專賣支局ノ名稱位置ヲ改定シ左ノ四十三箇所トナセリ
- 吉井、岩井、水戸、太田、茂木、烏山、太田原、須賀川、三春、大迫、増田、東根、關原
 - 小出雲、松本、飯野、横濱、秦野、見付、名古屋、山田、八日市、勝山、鶴來、大阪、神戸、久世、高梁、府中、三原、米子、池田、琴平、松山、後免、志波、長崎、熊本、白杵、竹田

出水、鹿兒嶋、指宿

明治三十五年十月改正官制ハ復支局ノ數ヲ減シテ左ノ二十箇所トナセリ

東京、水戸、茂木、太田原、三原、東根、小出雲、秦野、名古屋、鶴來、大阪、高梁、府中、米子、池田、琴平、熊本、臼杵、出水、鹿兒嶋

(四管轄區域) 明治三十二年四月二十五日大藏省令第十六號ヲ以テ專賣支局管轄區域ヲ定メラル此專賣支局管轄區域ハ同年六月十五日大藏省令第二十八號三十三年三月二十九日大藏省令第六號同年十二月二十日大藏省令第三十四號ヲ以テ改正スルトコロアリ又三十五年十月改正專賣局官制中之ヲ改定シタルトコロアリ

二、專賣支局出張所

明治三十二年四月改正ノ專賣局官制ニ依レハ大藏大臣ハ必要ト認ムル地ニ專賣支局出張所ヲ設クルコトヲ得ル旨ヲ規定シ同月二十五日大藏省令第十五號ヲ以テ專賣支局出張所ノ名稱、位置ヲ定メ八月三十日大藏省令第四十號ヲ以テ水戸、秦野、八日市及志波ノ各專賣支局ニ出張所ヲ増設ス三十三年三月二十九日大藏省令第七號ヲ以テ更ニ專賣支局出張所ノ名稱、位置ヲ改正ス三十五年十月ノ改正官制モ亦出張所ヲ設クルコト從前ノ官制ト異ナラス同年十一月一日大藏省令第二十四號ヲ以テ出張所ニ改定ヲ加フルトコロアリ

第四節 金庫

第一款 金庫ノ第一期

第一項 金庫

第一目 前期

本項ニ於テ金庫ト稱スルハ國庫ニ於テ保管出納スル現金ヲ取扱フ機關ヲ云フニアラスシテ國庫ニ屬スル金銀貨幣ヲ藏置スル倉庫ヲ稱スルモノナリ故ニ之ヲ財政機關ノ中ニ於テ述フルハ聊カ當ヲ得サルカ如シト雖モ今暫ク金庫規則制定前ノ用例ニ從ヒ政府直接ニ國庫ノ現金出納ヲ管掌セル當時ノ状態ヲ窺フノ便ニ供センカタメ爰ニ其要ヲ記述スルコト、セリ
此ニ所謂金庫ハ明治十九年一月十六日以前ニ於テハ出納司(寮局)ノ管理ニ屬シ監督司(検査寮局)ノ監督スルトコロトナレリ而シテ明治初年ニ在リテハ金庫ノ開閉ハ民政裁判所ノ制定シタル法式ニ準據シ出納大佐少佐之ヲ管掌シタリシカ明治三年正月九日金庫出納規則ヲ定メ金庫ノ金銀貨幣ヲ出納スル規程ヲ改定セリ右ノ規則ニ依レハ金庫ノ開閉ハ出納司(金庫管掌)一員令史一員及監督正、監督佐、出納正、出納佐ノ内一員會合シテ之ヲ行ヒ出納金額ヲ豫備ノ帳簿ニ登記シ數額ヲ合算シ各員之ニ檢印シテ出納ノ總計ヲ整理ス而シテ鑰ハ監督正、出納正、内外兩鑰ヲ各別ニ保管シ庫扉ノ内鎖ハ出納正、出納佐之ニ緘印シ外鎖ハ監督正、監督佐之ニ緘印ス其金庫貨幣ノ出納及日計月計ノ整理ハ出納大佐、少佐、令史、少令史各一員專ラ之ヲ管掌シ監督正、出納正ハ毎月臨時ニ其見有額ヲ點檢スルコト、セリ明治四年八月ニ至リ更ニ金庫開閉ノ規程ヲ改定ス之ニ依レハ金庫ノ開閉ハ出納頭若クハ權頭ノ一員大少屬若クハ出仕官ノ二員之ニ會合シ金銀入記帳ニ其出納スル金銀ノ數額ヲ登記シテ以テ之ニ檢印ス而シテ扉鑰ノ管守ハ内外複扉ノ扉鑰ヲ竝セテ一函ニ納レ宿

直員ニ管守セシメ其函ノ鑰ハ出納頭若クハ權頭之ヲ携帶スヘキモノトセリ九年五月五日検査寮官員ノ金庫開閉ニ會合監視スルノ規程ヲ定メラル

第二目 後 期

明治十九年一月十六日大藏省ニ金庫局ヲ創設シ事務章程及處務條款ヲ定メ中央金庫ヲ管理シ現金ノ管守出納及國庫金取扱所現金支拂所ノ事務ヲ掌ルモノトセリ是ニ於テ從來專ラ出納局ノ主管ニ屬シタル金庫ハ金庫局ノ主管ニ移リ出納局ハ間接ニ之ニ關係ヲ有スルニ至レリ
明治十九年二月十六日金庫ノ處務規程ヲ制定シテ鎖鑰管守ノコトヲ更定ス内扉ノ鎖鑰ハ出納局長之ヲ管守シ外扉ノ鎖鑰ハ金庫局長之ヲ管守スルモノトセリ同年五月十七日日本省内金庫取締規則ノ制定アリ其規程ニ依レハ金庫ノ開閉ニ付テハ第一第二第三號金庫ハ大藏大臣若クハ次官ノ臨監又ハ命令アルニ非サレハ之ヲ開閉スルヲ得ス金庫第四號及鐵庫ハ出納金庫兩局長若クハ其代理者ノ立會アルニ非サレハ之ヲ開閉スルヲ得ス金庫ノ鎖鑰ハ出納局長其内扉ヲ金庫局長其外扉ヲ管守シ其他ノ鎖鑰ハ各種ニ其所用ヲ記シ金庫局長之ヲ管守ス又金庫第一第二第三號ハ大藏大臣若クハ次官ノ印章ヲ以テ之ヲ封緘シ金庫第四號及鐵庫ハ出納局長金庫局長ノ印章ヲ以テ之ヲ封緘ス而シテ門鑰ノ提理ニ關シテハ金庫ノ門域ヲ出入スル者ハ何人タリトモ門鑰ヲ携帶シテ之ヲ守衛兵ニ示スヘク其門鑰ハ大藏次官其主任ヲ定メテ之ヲ管守セシムルモノトス其門鑰ハ大藏大臣若クハ次官ノ署名セシ者ニ非レハ之ヲ交付スルヲ得ス出納金庫兩局長若クハ其代理者及出納局監査課長金庫局主金課長ハ豫メ鑰札ヲ領受シ各自ニ之ヲ管守ス又出納金庫兩局金庫掛主

務員及金庫局附屬鑑定方現金運搬人夫等ニ授付スヘキ門鑰ハ豫メ出納金庫兩局長之ヲ領取シテ授受及管守ヲ提理スルモノトス

雜件

- 一 金庫ノ種類 明治十九年五月十七日制定本省内金庫取締規則ハ金庫ノ種類ヲ定メ省中金庫ノ四戸ニ一號ヨリ四號ニ至ル番號ヲ標記シ第一號第二號ニハ検査既了ノ正貨及金銀地金ヲ藏貯シ第三號ニハ豫備紙幣ヲ藏貯シ第四號ニハ常用ニ屬スル正貨紙幣検査未済ノ正貨及銅貨豫備紙幣ノ交換ニ充ツルモノ其他諸抵當品等ヲ藏貯シ鐵庫ニハ検査未済ノ廢紙幣等ヲ藏貯ス
- 二 金庫ノ監督 明治十九年五月ノ取締規則ニ依レハ大藏大臣若クハ次官ハ每一月一回又ハ臨時ニ各金庫ヲ監査シ又參事官ハ大臣若クハ次官ノ命ニヨリ各金庫ニ就テ臨時監査スヘク出納局長金庫局長若クハ其代理人ハ金庫監査ノ際必ス之ニ立會フモノトス而シテ毎月尾ニ金庫内貨幣見有額金種類別内譯表ヲ製シ出納金庫兩局長ヨリ之ヲ大藏大臣ニ提出スルモノトス
- 三 大阪金庫 明治十九年二月二十六日金庫ノ處務規程ヲ制定シ大阪金庫ハ金庫局大阪出張所之ヲ監守シ其鎖鑰ハ出張所長ノ管守スル所トセリ同年八月十八日金庫局大阪出張所内金庫取締規則ヲ定ム之ニ依レハ金庫ハ各號トモ金庫局大阪出張所長若クハ代理者臨檢シテ之ヲ開閉シ其印章ヲ以テ扉鎖ヲ封緘ス而シテ扉鎖ハ各種其所用ヲ記シ出張所長之ヲ管守ス金庫ノ種類ハ出張所内金庫八戸ニ各番號ヲ標記シ第一號ニハ正貨地金銀及抵當品第二號第三號ハ正貨及地金銀第四號ハ各種ノ紙幣並ニ交換紙幣第五號第六號第七號第八號ハ新舊銅貨及銅地金ヲ藏貯スルモノトス而シテ出張所長ハ毎月尾ニ金庫内貨幣見有額金種類別内譯表ヲ製シ金庫局長ヲ經テ大藏大

臣ニ提出スルモノトス又大阪米庫中ノ借庫ハ舊銅貨又ハ銅地金ノ藏貯ニ充テ出張所長若クハ其代理者臨檢シテ之ヲ開閉シ其印章ヲ以テ封緘ス但シ鑑定未済ノモノ藏貯ノ借庫ハ金庫局主金課派出ノ屬官ニ鎖鑰ヲ委付シテ開閉セシメ其印章ヲ以テ封緘セシムト雖モ出張所長時時之ヲ臨檢シ其鎖鑰ハ出張所長之ヲ管守スルモノトス

第二項 現金出納機關

第一目 前期

第一 單純機關ノ存在セル時代

爲換方ハ明治元年二月十三日三井八郎右衛門島田八郎左衛門及小野善助ノ三名ヨリ會計事務局官金爲換方ヲ幹辦スルノ申請ヲ聽許シタルニ始マリ同年十二月十四日ニ至リ東京府下ノ兩替舖三井次郎右衛門以下五十餘名ヲ選ヒ官金爲換用達ヲ命セリ翌二年正月十九日右爲換用達ヲ更ニ爲換方ト改メ三井元之助外五名ヲ爲換方頭取ニ田中次郎右衛門外二十一名ヲ爲換方頭取並ニ命セリ五年五月十五日府縣送納ノ租税金取扱ヲ爲換方ニ委任シ三井、小野、島田三組ノ設置セル各地支店ニ爲換方支店ノ名稱ヲ付シ當時支店ノ現在セル府縣ヨリ之ヲ施行シ支店ナキ府縣ハ後日支店設置ノ時ヨリ之ヲ施行スルコト、セリ蓋シ是ヨリ先キ租稅ハ主トシテ物納ニシテ其金錢ヲ以テスル場合モ亦實物ヲ以テ納付シ來リシカ是ニ至リテ始メテ爲換ヲ用フルコト、セルナリ

二 爲換御用掛

明治五年八月五日爲換方ノ名稱ヲ廢シ大藏省爲換御用掛ヲ置キ三井小野聯合銀行ヲシテ之ニ當ラシメ金銀收支ノ事務ヲ掌理セシム六年六月大藏省金錢出納事務ヲ第一國立銀行ニ委託シ大藏省第一國立銀行金銀取扱規則ヲ定メ之ヲシテ大藏省ニ於テ收納シ又ハ支出スル金銀取扱ノコトヲ掌理セシメタリ而シテ大藏省ノ金銀出納事務ヲ第一國立銀行ニ屬セシムルヤ第一國立銀行ハ本店ヲ東京ニ定メ京都大阪横濱神戸ノ四箇所ニ其出張所ヲ設置シテ其事務ヲ處置セシメタリ

三 各廳爲換方

明治六年七月二日大藏省ハ諸省使府縣ニ達示シテ大藏省第一國立銀行金銀取扱規則ニ照準シテ章案ヲ設ケ爲換出納等ヲ取扱フ者ノ姓名ヲ錄進シテ大藏省ニ照會シ省使ハ其承諾府縣ハ其指揮ニ從ヒテ結約セシム蓋シ各廳爲換方ハ從來各廳ノ便宜ヲ以テ商會若クハ豪商ニ命シテ處辨掌理セシメタルモ或ハ危險ノ虞ナキヲ保セサルヲ以テ豫メ條約ヲ規定シテ以テ後患ヲ防カントセルナリ然ルニ府縣ノ爲換方ハ大藏省ノ金銀取扱方トハ自ラ異同アリテ全ク其規則ニ照準シ難キモノアルヲ以テ同月五日府縣爲換方順序九箇條ヲ定メタリ之ニ依レハ各府縣ハ管下ノ巨商豪農其他何人ヲ論セス資産確實ノ者ヲ選擇シ大藏省ノ許可ヲ得テ之ヲ命スルモノトス而シテ其約定ハ大藏省ノ第一國立銀行ト約定セル金銀取扱規則ヲ斟酌シ府縣令參事及其主任官員ト爲換方主任員ト嚴密ニ約定スルモノトセリ七年十二月二十二日小野組負債ノ爲メニ閉店セシヨリ一時各管下ノ富商豪農等ニ官金ヲ寄託スルコトヲ停止シ若シ寄託スルニ際シテハ必ス抵當品ヲ徵シ制規ニ據リテ處理セシム八年一月十四日各府縣中爲換方ヲ命シテ官金ヲ料理セシムルノ順序ヲ經ル能ハサル者ハ適宜ニ鑑定員ヲ雇用シテ之ヲ處理セシム同月二十三日大藏省ハ大阪府兵庫縣其他

三十四縣ニ令示シ從前小野組島田組ニ爲換方ヲ命セシ向キハ更ニ第一國立銀行ニ之ヲ命セシム三月二十日府縣爲換方支障ノ際金銀取扱ノ方法ヲ改正シ各廳出納課ノ官吏二名若クハ三名ニ命シテ之ヲ掌理セシム九年九月九日各廳ニ於テ銀行若クハ爲換方ニ金錢ノ出納ヲ司掌セシムルモノハ本年十月ヨリ滿二箇年ヲ以テ期限トシ滿期ニ至リ預ケ金ノ決算ヲ爲シ有餘ノ金ハ悉皆各廳ニ完納セシム但シ期限中ニ係ルモ事故アレハ解約スルコト、セリ十年七月九日大藏省ヨリ府縣ニ達示シテ各廳爲換方ノ舊條約ヲ廢止シテ更ニ各廳爲換方命令案十八條ヲ定メ各廳ヲシテ之ニ照準セシメ大藏省ニ照會シタル後爲換方ヲ命スルモノトシ同日太政官ヨリ官院省使ニ令達シテ各廳爲換方條約書ヲ廢止シ府縣ニ達示セル爲換方命令書案ニ照準シ本省ト協議ヲ經テ爲換方ヲ命スルモノトセリ十一月二十八日郡區町村編制法ノ發布アリ乃チ國稅金領收順序ヲ定メ稅金ハ都テ稅金預所ノ管掌ニ屬セシメ二十年二月三日ニ至リ國庫金取扱所現金支拂所ヲ國庫金出納所ト改稱シ是ニ至テ爲換方ノ名稱全ク廢絶スルニ至レリ

四 稅金預所

明治十一年十二月二十八日郡區町村編制法ノ發布アリ乃チ國稅金領收順序ヲ定メ稅金預所ヲ置キ六年七月以降府縣爲換方ノ取扱ニ係ル稅金ハ自今都テ稅金預所ノ管理ト爲シ稅金預所ハ租稅ノ收納貨紙幣ノ鑑定及現金收支ヲ管掌スルヲ以テ其本務トスルモノトセリ十二年二月十七日租稅金預所命令書案ヲ定ム之ニ依レハ稅金預所ハ大藏省出納局ノ指揮ニ從ヒ諸稅金ノ鑑定保管並ニ預リ金ノ配賦ヲ料理スルモノトス而シテ稅金預所ノ配置ハ明治十一年十二月國稅金領收順序ニ依レハ大藏省ニ於テ各地方適宜ノ場所ヲ擇ヒ稅金預所ヲ設ケ其預リ人ヲ命スルモノトシ當時

各府縣ニ預所ヲ設クルコト百九箇所ニ及ヘリ而シテ從來現金出納機關ハ專ラ出納寮ノ管スル所ナリシカ明治十一年十二月稅金預所ヲ設クルニ及ンテ租稅出納二局ノ所管トナセリ即チ十二年二月ノ命令書ニヨレハ稅金預所ハ日計表ヲ作り毎隔日大藏省租稅局收稅委員ニ報告シ又收支計算ヲ作り毎旬出納局ニ報告スヘキコトヲ命セリ

五 大藏省爲換方

(一)管務 明治十二年五月二十九日稅金預所ヲ大藏省爲換方ト改稱シ命令書案ヲ改正増補シタリ但シ其改正増補ハ出納ノ手續ニ關スルモノニシテ其管掌事務ニ至テハ別ニ變更スル所ナシ十三年十一月二十七日大藏省爲換方條例ヲ定ム其規定ニ依レハ稅金稅外金等凡ソ各地方ヨリ租稅領收順序ニ據テ納進セル金額ヲ領收シ且其收支ヲ便ニスルカ爲メニ爲換方ヲ置ク旨ヲ定メタリ十四年九月十七日雜收入及諸返納金其他經費殘餘還納等ノ納付順序ヲ更正シ之ヲ大藏省爲換方ニ委託シ十五年六月十三日各廳現金管守並委託規則ニ據リテ管守スル各廳現金ノ收支ヲ掌理セシムルカ爲メ更ニ各地ニ爲換方ヲ増置セリ

(二)配置 明治十二年五月命令書案ノ改正アリト雖モ爲換方ノ配置ハ之カ爲メニ別ニ變更セラルル所ナシ十三年十一月大藏省爲換方條例ニ依レハ各地ニ於テ適宜ノ銀行會社ニ爲換方ヲ命シテ之ニ當ラシム但シ租稅局ニ於テ定メタル各地方ノ收稅區内ニ就キ之ヲ置クモノトセリ十五年六月十三日更ニ各地ニ大藏省爲換方ヲ増置シ各廳ノ現金ノ收支ヲ掌理セシム

(三)監督 明治十二年五月改正命令書案ニ於テハ大藏省爲換方ノ監督ニ就テハ別ニ改正ヲ加フル所ナカリシト雖モ十三年十一月ノ爲換方條例ハ大ニ此點ニ付テ更正スル所アリ右條例ニ依レハ

爲換方ハ之ヲ出納局ノ所管トシ爲換方ノ轉移及其司掌ニ屬スル事件ヲ處理スルニ大藏卿ノ指揮ヲ承ケ出納局長之ヲ執行ス其設置廢停等重要ノ事件ハ大藏卿ヨリ命達ス而シテ爲換方ハ租稅局ニ於テ定メタル各地方ノ收稅區内ニ就キ之ヲ置クヲ以テ其位置變換ハ出納局長必ス租稅局ニ協議シテ後之ヲ施行ス又爲換方ニ於テ定期ニ遵ヒ諸納入金ヲ領收シ之ヲ出納局ニ報告セシ後ハ出納局長ハ其本局若クハ出張所ニ於ケル一般ノ假納金ト同一ノ順序ヲ以テ之ヲ處置スルヲ得ルヲ以テ爲換方ヲ檢束シ其現金ヲ管守セシムルハ總テ出納局長ノ責任トス而シテ出納局ハ臨時官員ヲ派出シ爲換方ニ就テ其帳簿並預ケ金ヲ檢査スルモノトセリ蓋シ爲換方ハ從來租稅出納兩局ノ間ニ介立シ雙方ノ管理ヲ受ケタリシカ是ニ至テ出納局ノ專管ニ歸シ收稅委員ノ關涉スル事務ヲ解キ其規程大ニ整備シ出納上亦大ニ便宜ヲ得ルニ至レリ同日又大藏省爲換方當務心得ヲ定メ提理ノ便宜ヲ謀リ出納本局及各出張所ノ方向ニ隨ヒ爲換方ノ管理區域ヲ假定セリ即チ左ノ如シ

本局直管 東京府 神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣 三重縣 愛知縣 靜岡縣 山梨縣 岐阜縣 長野縣

大阪出張所所管 京都府 大阪府 兵庫縣 堺縣 滋賀縣 石川縣 嶋根縣 岡山縣 廣嶋縣 山口縣 和歌山縣 德嶋縣 高知縣 愛媛縣

仙臺出張所所管 福嶋縣 宮城縣 巖手縣 青森縣 秋田縣 山形縣

長崎出張所所管 長崎縣 福岡縣 大分縣 熊本縣 鹿兒嶋縣

第二 複雜機關ノ存在セル時代

一 收納主管機關(國庫金取扱所)

(一) 管務 明治十六年四月二十七日日本銀行ニ國庫金ノ掌理ヲ命シ同年七月一日ヨリ施行スルコト、ス由テ五月四日國庫納金取扱順序ヲ定メ漸次各地方ニ國庫金取扱所ヲ置キテ國庫納金ノ取扱ヲ爲サシムルコト、セリ但シ日本銀行ヲシテ掌理セシムルハ國庫ニ收入スヘキ納金ヲ領受シテ之ヲ納付スルノ手續ニ止マル六月十五日各地ニ國庫金取扱所ヲ設置シ爲換方ヲ廢止シ從來諸達書中大藏省爲換方ト記載セルモノハ國庫金取扱所ト通視セシム十七年一月十五日ニ至リ從來爲換方ヲシテ取扱ハシメタル各稅關收納金ヲモ更ニ日本銀行ヲシテ掌理セシムルコト、ナセリ

(二) 配置管域 明治十六年四月二十七日日本銀行ニ國庫金ノ掌理ヲ命スルヤ日本銀行ハ國庫金取扱ノ爲メニ特ニ本店ニ國庫局ヲ置キ支店ニ國庫課ヲ置キ事務ノ區畫ヲ明カニシテ本業ト混淆スルノ虞ヲ防キタリ而シテ又國庫金ノ收支ハ各地方ノ國立銀行若クハ私立銀行會社ヲシテ代理セシムルヲ得ルモ是亦各其事務ヲ區畫シテ本業ト混淆スルコトナカラシム同年五月四日國庫納金取扱順序ヲ規定ス之ニ依レハ大藏省ハ地方ノ納金區域及取扱所設置ノ場所ヲ指定シ日本銀行ハ其指定ニ從テ取扱所ヲ設置シ各其事務ヲ區別シテ掌理ス而シテ各區域内ニ出張場ヲ設置セシムルモノトセリ十七年一月十五日各稅關ノ收稅金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルヤ國庫納金^{海關稅}取扱順序ヲ定メ七月一日ヨリ之ヲ施行セリ之ニ依レハ日本銀行ハ大藏省ノ指定セル土地ニ取扱所ヲ設置シ且ツ取扱人ヲ稅關ニ派出シ各其事務ヲ區別シテ處理ス十九年一月國庫金取扱所事務順序及附錄ヲ定メ取扱所並ニ其出張場ノ位置及收納所管ノ區域ハ大藏大臣ノ定ムルトコロニ據ルモノトス

三 監督 明治十六年四月二十七日日本銀行ニ國庫金ノ取扱ヲ命スルヤ之ヲ大藏省出納局ノ管理ニ屬セシム而シテ國庫金取扱ニ關スル責任ハ其本支店又ハ代理店ノ取扱ニ係ルト否トヲ問ハス凡テ日本銀行其責ヲ免ル、ヲ得ス但シ避クヘカラサル變災ニシテ其證據アルモノハ大藏卿ノ査覈ヲ經テ之ヲ處分スルモノトス十七年一月三十一日出納局員派出檢査規程ヲ定メ國庫金取扱所ノ事務ヲ視察セシム後十九年一月十九日ニ至リ大藏省ニ金庫局ノ設置アリ是ニ於テ國庫金取扱所ハ金庫局ノ主管スルトコロトナリ國庫納金取扱順序等ニ出納局若クハ出納局長トアルハ以後凡テ金庫局若クハ金庫局長ト改メラル

二 支出主管機關(金錢取扱方及現金取扱方—現金支拂所)

明治十六年六月十九日金錢取扱方及現金取扱方ヲ置キ舊爲換方ヲ以テ之ニ充テ各廳ノ經費金ヲ取扱ハシムルコト、セリ十八年六月六日橫濱神戸長崎函館新潟ノ五箇所ニ現金支拂所ヲ設置シ七月一日以降各地稅關ノ經費ヲ取扱ハシム十九年三月十五日ニ至リ各地ニ現金支拂所ヲ置キ現金取扱方ヲ廢シテ其事務ヲ現金支拂所ニ繼承セシメタリ

三 特別機關(金庫局)

明治十九年一月十六日大藏省達第四號ヲ以テ金庫局ヲ置キ主金課收支課計算課ノ三課ヲ置キ中央金庫ヲ管理シ現金ノ管守出納國庫金收入所及現金支拂所管理ノ事ヲ掌理セシムル旨ヲ規定セリ前述ノ如ク國庫金ノ取扱ハ歲入金ハ國庫金取扱所ニ於テ納入セシメ歲出金ハ現金支拂所ニ於テ支拂ハシムルノ制度ナレトモ東京府内ニ於ケル官金ノ出納ハ前述二機關ヲ經ス直接ニ金庫局之ヲ取扱フコト、ナシ又大阪各廳ノ歲出入金出納ハ金庫局大阪出張所ヲシテ取扱ハシムルコト

トセリ而シテ金庫局ノ組織權限ハ之ヲ中央機關ノ章ニ讓ル

第二目 後 期(國庫金出納所)

第一 管務 明治二十年二月三日閣令第二號及大藏省令第二號ヲ以テ同年四月一日以降從來ノ國庫金取扱所及現金支拂所ヲ國庫金出納所ト改稱シ同月五日大藏省訓令第七號ヲ以テ國庫金出納所事務順序ヲ定メ四月一日ヨリ施行スルコト、セリ此規定ニ據レハ國庫金出納所ハ歲入歲出出納規則歲入取扱順序歲出取扱順序及管守順序ニ據リ其出納ヲ掌理スル所トシ日本銀行ヲシテ之ニ當ラシム而シテ此國庫金出納所ハ實ニ從來收納取扱ト支出取扱トヲ別種ノ機關ヲシテ掌理セシメタル不便ヲ除去シタルモノナリ但シ在東京各廳ヨリ納入スル第二部歲入及在東京各廳ノ歲出ハ右ニ依ラス直ニ金庫局ニ於テ出納ヲ司掌シ在大阪各廳第二部歲入及其歲出ハ金庫局大阪出張所ニ於テ直ニ之ヲ取扱ハシムルモノトセリ

第二 分掌 明治二十年二月制定國庫金出納所事務順序ニ依レハ國庫金出納所ハ歲入部歲出部雜部ノ三部ニ分課シ各部其事務ヲ分掌セシム

第三 配置 明治二十年二月制定國庫金出納所事務順序ニ依レハ國庫金出納所及其支所ノ位置及所管區域ハ大藏大臣之ヲ定ムルモノトセリ是ニ於テ同月二十四日大藏省告示第十八號ヲ以テ國庫金出納所及同支所位置並ニ出納區域ヲ規定セリ今之ニ依リ出納所及同支所配置ノ狀況ヲ左ニ示サン

道縣府廳	國庫金出納所	國庫金出納支所
東京府下	東京	麴町區 神田區 日本橋區 京橋區 芝區 麻布區 赤坂區 四谷區 牛込區 小石川區 本郷區 下谷區 淺草區 本所區 深川區 北品川 內藤新宿 下板橋 千住 西小松川 小菅
京都府下	京都	太秦 伏見 向日町 淀 醍醐 田邊 木津
大阪府下	福知山 大阪 堺	園部 龜岡 周山 綾部 舞鶴 峰山 網野 久美濱 宮津 天王寺 曾根崎 茨木 池田 牧方 長承寺 岸和田 富田林 八尾
神奈川縣下	橫濱 奈良	三輪 御所 五條 笹下 神奈川 川和 八王寺 青梅 府中 戶塚 橫須賀
兵庫縣下	神戶 姫路 明石 出石 篠山 洲本	中野 小田原 厚木 藤澤 松田總領 大磯 三田 西ノ宮 伊丹 生野 西田原 佐用 加里屋 鵜 曾根 北條 山崎 龍野 寺家 三木 社 中村 村岡 豐岡 和田山 柏原 市村

長崎縣下	長崎	福江 平戶 大村 諫早 嶋原 武生水 嚴原 佐世保 口ノ津
新潟縣下	新潟	村上 新發田 新津 巻 津川 相川
長岡	長岡	六日町 輿板 三條 小千谷 十日町
高田	高田	安塚 糸魚川 柏崎 直江津
浦和	浦和	忍 岩槻 杉戸
川越	川越	熊谷 本庄 大宮 松山
群馬縣下	前橋	沼田 中條 高崎 伊勢崎 桐生 館林 太田 富岡 安中 藤岡 万場
千葉縣下	千葉	大多喜 茂原 東金 鶴舞 柴山 木更津 佐貫 佐倉 松戸 木下 佐原 銚子 八日市場 前原 北條 關宿
茨城縣下	水戸	太田 高萩 鉾田 菅谷 笠間
土浦	土浦	麻生 谷田部 江戸崎
本宗道	本宗道	取手 境 下館 下妻
栃木縣下	宇都宮	矢板 太田原 真岡 栃木 鹿沼 足利 佐野 新町
三重縣下	津	四日市 龜山 桑名 楚原 久居 白子 松坂
山田	山田	相可 尾鷲 木本 鳥羽
上野	上野	名張

愛知縣下	名古屋	熱田	勝川	下小田井	稻葉	小折	津嶋	一ノ宮
岡崎	足助	舉母	西尾	御油	田口	知立	半田	
豐橋	富岡	新城						
靜岡縣下	靜岡	沼津	吉原	藤枝	興津	靜波	江尻	
濱松	掛川	森町	見附	氣賀				
三嶋	下田							
山梨縣下	甲府	鰺澤	河原部	谷村	大原	日下部	鶉飼	市川大門
滋賀縣下	大津	草津	今津					龍
八幡	愛知川	水口						
長濱	長濱	木ノ本						
岐阜縣下	岐阜	大垣	上有知	笠松	高富	北方	高須	嶋田
八幡								垂井
								三輪
長野縣下	御嵩	高山	中津川	多治見				
飯山	篠井	須坂	中野					
飯田	飯田	上諏訪	豊科	大町	福嶋			
伊那								
屋代	岩村田	白田						

福嶋縣下	福嶋	二本松	桑折	中村
三春	富岡	平		
若松	高田	坂下	喜多方	
須賀川	郡山	田嶋	白河	棚倉
石卷	南目	長町	角田	大河原
仙臺	涌谷	佐沼	廣淵	本吉
宮城縣下	古川	吉岡	築館	
巖手縣下	盛岡	花巻	大川目	一ノ關
青森縣下	青森	田名部	鱈ヶ澤	五所河原
弘前	八戸	黒石		
秋田縣下	秋田	七戸		
山形縣下	山形	土崎	鷹巢	能代
鶴岡	山形	楯岡	天童	寒河江
金澤	金澤	藤嶋	酒田	米澤
石川縣下	七尾	松任	津幡	小松
富山縣下	富山	羽咋	飯田	輪嶋
魚津	魚津	高岡	杉木新村	
福井縣下	福井	武生	大野	吉江
			坂井	

德嶋縣下	和歌山縣下	山口縣下	廣嶋縣下	鳥取縣下	岡山縣下	嶋根縣下
德嶋	田邊 和歌山	赤間ヶ關 徳山 山口 三次	廣嶋 尾ノ道	高梁 津山	岡山 鳥取	小濱 松江 濱田
石井	新宮 御坊 湯淺	豐浦 太田 船木	東深川 萩 三田尻	下原 新見 井村	倉敷(備) 原古才 岡田 玉嶋 笠岡 西江原	高濱 三方 敦賀
川嶋	池田 富岡 日和佐 脇町	清水 妙寺	室積 岩國 東屋代	海田市 二十日市 四日市 可部 吳	竹田 綾部 廣戸市場 勝間田 下弓削 桑下 古町	廣瀨 掛合 大東 今市 佐摩 川本
德嶋	徳嶋	徳山	庄原 吉田	府中 福山 忠海	河原 吉岡 米子 倉吉 二部	益田 津和野

高知縣下	愛媛縣下	福岡縣下	大分縣下	佐賀縣下	熊本縣下	宮崎縣下	鹿兒嶋縣下	沖繩縣下	北海道廳
高知	須崎 松山 宇和嶋	高松 福岡 久留米	小倉 大分 中津	佐賀 伊萬里	熊本 八代	宮崎 鹿兒嶋	那覇	函館	
伊野 大桶 赤岡 安藝	郡中 久萬町 今治 川ノ江 西條	長尾西村 坂出 丸龜 觀音寺 土庄	箱崎 筒井 谷村 甘木 直方 飯塚 東郷 蘆屋	大橋 香春 八屋	日出 臼杵 佐伯 鶴川 竹田 市場	四日市 高田 南豆田 森	小城 神崎 森木 高津原 柄崎	唐津	高瀬 宮地 隈府 山鹿
人吉 町山口 御船	飲肥 高鍋 高岡 都城 小林 延岡 三田井	隈ノ城 知覽 種子嶋 加治木 垂水 金久	龜田 福山 江刺 壽都 七重						

札幌 根室	小樽 厚岸 釧路	岩内 増毛 幌泉 空知 樺戸
----------	----------------	----------------------------

明治二十年六月大藏省告示第十八號國庫金出納所位置及管轄ハ爾後數回ノ改正アリ即チ明治二十年四月二十九日大藏省告示第五十一號同年六月二十一日告示第八十六號同年九月二十六日告示第四百四十二號二十一年三月告示第二十六號二十二年二月二十六日告示第二十號同年五月二十一日告示第四十四號ヲ以テ多少ノ改正ヲ施セリ其詳細ハ茲ニ之ヲ略ス

第二款 金庫ノ第二期

第一項 管務

明治二十二年十二月十一日勅令第二百二十六號ヲ以テ金庫規則ヲ制定シ從來ノ國庫金出納所ヲ廢シテ金庫ヲ置キ國庫ニ於テ保管出納スル現金ノ取扱ハ總テ金庫ヲシテ之ヲ管掌セシムルコト、シ翌二十三年四月一日ヨリ之ヲ實施シタリ

第二項 分掌

明治二十二年十二月二十日大藏省訓令第七十二號ヲ以テ金庫出納事務規程ヲ定メ金庫ノ事務ヲ分チテ歲入部、歲出部、雜部ノ三部トナシ尙ホ必要ノ場合ニ於テハ此他ニ臨時ノ部門ヲ設クルコトアルヘキ旨ヲ定メタリ

明治二十六年十一月二十四日大藏省令第三十九號ヲ以テ金庫出納事務規程ヲ改メ金庫ノ事務ヲ分チテ歲入部、歲出部、各特別會計ノ歲入、歲出部、雜部、預金部ノ五部ト爲セリ

第三項 掌理

明治二十二年十二月制定金庫規則ノ規定ニ依レハ中央金庫、本金庫、支金庫ノ現金ノ保管出納ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ定メ而シテ日本銀行ハ本金庫、支金庫ノ現金ノ保管出納ヲ取扱フ爲メ各地ニ其支店又ハ代理店ヲ設置スヘク金庫事務ニ付テハ日本銀行ハ政府ニ對シ一切ノ責任ヲ有スルモノトセリ二十八年九月二十四日ニ至リ勅令第二百二十九號ヲ以テ右金庫規則ヲ改正シ各地ニ其支店又ハ代理店トアルヲ改メテ支店出張店又ハ代理店ト爲セリ

第四項 雜件

第一目 管理

明治二十二年十二月制定ノ金庫規則ハ金庫ヲ以テ大藏大臣ノ管理ニ屬セシム而シテ大藏大臣ハ之ヲ監理ノ爲メ検査官吏ヲ派出シテ何時ニテモ金庫ノ金櫃帳簿ヲ検査スルヲ得ルモノトセリ

第二目 種類

明治二十二年十二月制定ノ金庫規則ニ於テハ金庫ノ種類ヲ分チテ中央金庫、本金庫、支金庫ノ三種トナシ中央金庫ハ之ヲ東京ニ置キ本金庫ハ各府縣下東京府及北海道札幌、函館、根室ニ置キ支金庫

ハ大藏大臣ノ必要ト認ムル場所ニ置ク而シテ中央金庫ハ各地ノ本金庫ヲ統轄シ本金庫ハ所屬ノ支金庫ヲ統轄ス但シ東京府下ノ支金庫ハ直ニ中央金庫ニ於テ之ヲ統轄スルモノト定メタリ
 明治二十八年九月金庫規則ヲ改正シ東京ニ中央金庫ヲ置キ地方ニ本金庫及支金庫ヲ置キ本金庫支金庫ノ位置及各金庫ノ出納區域ハ大藏大臣之ヲ定ムルモノトナシ且ツ中央金庫ハ各地ノ本金庫ヲ統轄シ本金庫ハ支金庫ヲ統轄スヘク本金庫ヲ置カサル地方ノ支金庫ハ中央金庫之ヲ統轄スルモノトセリ

第三目 配置

明治二十三年一月四日大藏省告示第一號ヲ以テ金庫位置及出納區域ヲ定メ四月一日ヨリ施行セリ右告示ニ於テハ中央金庫本支金庫ノ出納區域及其位置ヲ列舉シタリ其詳細ハ之ヲ略シ今左ニ中央金庫及本支金庫配置ノ狀況ヲ示スヘシ

區域	中央金庫及本金庫	支金庫
東京府	中央金庫	品川 淀橋 板橋 千住 小松川
京都府	京都本金庫	田中 太秦 伏見 向日 淀 醍醐 田邊 木津 園部 龜岡 周山 福知山 綾部 舞鶴 峰山 網野 久美濱 宮津 天王寺 曾根崎 茨木 池田 枚方 富田林 八尾 鳳 堺 岸和田
大阪府	大阪本金庫	

神奈川縣	横濱本金庫	日下 神奈川 都田 八王子 青梅 府中 戸塚 横須賀
兵庫縣	神戸本金庫	中野 小田原 厚木 藤澤 松田 大磯
新潟縣	新潟本金庫	三田 西ノ宮 伊丹 篠山 柏原 洲本 市村 明石 加古川 三木 社村 中村 姫路 高岡 田原 佐用 赤穂 斑鳩 曾根 北條 山崎 龍野 出石 一二分 豊岡 枚田
長崎縣	長崎本金庫	福江 平戸 大村 諫早 嶋原 武生水 嚴原
新潟縣	新潟本金庫	村上 新發田 新津 卷村 津川 三條 長岡 與板 六日町 小千谷 十日町 安塚 糸魚川 高田 柏崎 相川
埼玉縣	浦和本金庫	忍 岩槻 川越 熊谷 本莊 大宮 松山 杉戸
群馬縣	前橋本金庫	沼田 中ノ條 高崎 伊勢崎 桐生 館林 太田 富岡 安中 藤岡 神川
千葉縣	千葉本金庫	大多喜 茂原 東金 木更津 佐倉 松戸 佐原 銚子 北條
茨城縣	水戸本金庫	太田 高萩 鉾田 菅谷 笠間 土浦 麻生 谷田部 江戸崎 下館 取手 宗道 境
栃木縣	宇都宮本金庫	矢板 太田原 真岡 鹿沼 栃木 足利 佐野
奈良縣	奈良本金庫	三輪 御所 五條
三重縣	津本金庫	新町 四日市 龜山 桑名 大泉原 久居 白子 松阪 山

愛知縣	名古屋本金庫	田相可 上野 名張 尾鷲 木本 鳥羽
靜岡縣	靜岡本金庫	熱田 勝川 西枇杷嶋 稻澤 小折 津嶋 半田 豐橋 富岡崎 足助 舉母 西尾 御油 新城 田口 知立
山梨縣	甲府本金庫	沼津 吉原 藤枝 興津 川崎 濱松 掛川 森町 見附
滋賀縣	大津本金庫	氣賀 三嶋 下田
岐阜縣	岐阜本金庫	鯉澤 河原部 龍王 谷村 大原 石和 市川大門 日下部
長野縣	長野本金庫	草津 今津 八幡 愛知川 水口 彦根 長濱 木之本
福嶋縣	福嶋本金庫	大垣 上有知 笠松 高富 北方 高須 高田 垂井 揖斐
宮城縣	仙臺本金庫	八幡 御嵩 太田 土岐津 中津川 高山
巖手縣	盛岡本金庫	飯山 鹽崎 須阪 中野 松本 福嶋 伊那 飯田 上諏訪
青森縣	青森本金庫	豐科 大町 上田 岩村田 白田 屋代
山形縣	山形本金庫	須賀川 二本松 桑折 若松 田嶋 高田 阪下 喜多方
		郡山 中村 白河 棚倉 石川 三春 富岡 平
		原ノ町 茂ヶ崎 古川 吉岡 築館 石巻 涌谷 佐沼 飯
		ノ川 本吉 大河原 角田
		黒川口 久慈 一ノ關 水澤 宮古 遠野 盛 福岡
		釜ヶ澤 黒石 五所河原 弘前 七戸 田名部 八戸
		上山 楯岡 天童 寒河江 米澤 高畑 長井 新庄 鶴岡

秋田縣	秋田本金庫	藤島 酒田
福井縣	福井本金庫	土崎 鷹巢 能代 大曲 横手 湯澤 本庄 花輪
石川縣	金澤本金庫	武生 大野 朝日 三國 敦賀 小濱 高濱 八村
富山縣	富山本金庫	松任 津幡 小松 大聖寺 七尾 羽咋 飯田 輪嶋
嶋根縣	松江本金庫	魚津 高岡 出町
鳥取縣	鳥取本金庫	廣瀬 掛合 大東 今市 大森 川本 濱田 益田 津和野
岡山縣	岡山本金庫	西郷 福井
廣嶋縣	廣嶋本金庫	加茂 吉岡 米子 倉吉 一部
山口縣	山口本金庫	金川 輕部 今城 富山 味野 片上 小野田 撫川 倉敷
和歌山縣	和歌山本金庫	高松 岡田 玉嶋 笠岡 西江原 高梁 東成羽 新見
德嶋縣	德嶋本金庫	上市 津山 大野 神庭 廣戸 勝田 弓削 倭文東 大原
		倉敷 久世 勝山
		二十日市 四日市 可部 和庄 吉田 忠海 尾ノ道 府中
		福山 三次 庄原
		三田尻 徳山 室積 岩國 屋代 深川 萩 長府 赤間關
		太田 舟木
		宮村 岩手 田邊 新宮 御坊 湯淺
		石井 撫養 桑川 池田 富岡 日和佐 脇町

香川縣	高松本金庫	長尾西村 阪出 丸龜 觀音寺 土庄
高知縣	高知本金庫	安藝 伊野 大篠 赤岡 須崎 中村
愛媛縣	松山本金庫	郡中 久萬町 今治 川ノ江 西條 宇和島 城邊 宇和
福岡縣	福岡本金庫	八幡濱 大洲
大分縣	大分本金庫	箱崎 大野 今宿 甘木 直方 飯塚 東郷 蘆屋 久留米
佐賀縣	佐賀本金庫	北野 大川 福嶋 吉井 柳河 三池 小倉 行橋 香春
熊本縣	熊本本金庫	八屋
宮崎縣	宮崎本金庫	日出 佐伯 臼杵 國崎 玉津 竹田 三重 豆田 森 中
鹿兒嶋縣	鹿兒島本金庫	津 四日市
沖繩縣	那覇本金庫	小城 神崎 轟木 南鹿嶋 武雄 唐津 伊萬里
北海道	函館本金庫	高瀬 宮地 隈府 八代 人吉 町山口 御船
	札幌本金庫	飲肥 高鍋 高岡 小林 都城 延岡 高千穂
	根室本金庫	隈之城 知覽 上出水 中伊集院 大口 金久 北種子 加
		治木 鹿屋 岩川
		福山 江刺 七飯 久遠 壽都
		室蘭 浦河 小樽 岩内 市來知 月形 増毛
		釧路 灣月 熊牛

明治財政史第一卷

右明治二十三年大藏省告示第一號金庫位置及出納區域ハ爾後幾回トナク小改正ヲ加ヘラレタリ即チ同年告示第十三號ヲ以テ京都本金庫所屬向日支金庫ヲ向日町支金庫ト改稱シ岡山本金庫所屬窪谷郡ニ在ル倉敷支金庫ヲ窪谷郡倉敷支金庫英田郡ニ在ル倉敷支金庫ヲ英田郡倉敷支金庫ト改稱シ松江本金庫所屬福井支金庫及松山本金庫所屬城邊支金庫ヲ廢シ高松本金庫所屬長尾西村支金庫ヲ長尾支金庫ト改稱ス二十六年告示第七號ヲ以テ横濱本金庫所屬八王子 青梅 府中ノ三支金庫ヲ中央金庫ノ所屬ニ編入シ二十八年告示第六十六號ヲ以テ浦和 奈良 根室ノ本金庫及其所屬支金庫ノ欄ヲ削リ中央金庫京都大阪函館ノ三本金庫及其所屬支金庫ヲ左ノ如ク改ム

明治財政史第一卷

區域	中央金庫及本金庫	支金庫
東京府	中央金庫	品川 淀橋 板橋 千住 小松川 八王子 青梅 府中 浦和 忍 岩槻 川越 熊谷 本庄 大宮 松山 杉戸
埼玉縣		
京都府	京都本金庫	伏見 木津 園部 龜岡 周山 福知山 綾部 舞鶴 峯山 宮津 大津 草津 今津 八幡 愛知川 水口 彦根 長濱 木之本
滋賀縣		
大阪府	大阪本金庫	天王子 上福嶋 茨木 池田 枚方 富田林 八尾 境 岸 和田 奈良 三輪 御所 五條
北海道	函館本金庫	福山 江差 七飯 壽都 根室 釧路 熊牛

第二編 財政機關 第四章 附屬機關

五二七

明治二十九年告示第三十八號ヲ以テ函館本金庫及札幌本金庫所屬支金庫ヲ左ノ如ク改正ス	
區域	本金庫
北海道	函館本金庫 札幌 福山 江差 壽都 室蘭 浦河 根室 釧路 小樽 岩内 月形 増毛
同年告示第八十四號ヲ以テ臺北本金庫ヲ新設シ其所屬支金庫ヲ左ノ如ク定ム	
區域	支金庫
臺灣	臺中 臺南 鳳山 澎湖嶋
<p>明治三十年告示第六十五號ヲ以テ臺北本金庫所屬支金庫中新ニ新竹嘉義宜蘭ノ三支金庫ヲ増設ス右ノ外各金庫所在位置ノ變更及各支金庫間出納區域ノ變換等ニ至リテハ殆ト數フルニ違ナシ明治三十年十一月十六日大藏省告示第七十三號ヲ以テ從來ノ金庫位置及出納區域ヲ改正シ翌三十一年一月一日ヨリ之ヲ施行スルコト、セリ今各金庫所在ノ位置及各支金庫出納區域ハ之ヲ省略シ各金庫配置ノ状態ヲ示セハ左ノ如シ</p>	
東京府	中央金庫
區域	中央金庫及本金庫
支金庫	淀橋 千住 八王子 青梅 浦和

埼玉縣	中央金庫	川越 熊谷 本莊 大宮 松山 杉戸
京都府	京都本金庫	伏見 木津 園部 龜岡 周山 福知山 綾部 舞鶴 峯山
滋賀縣	大阪本金庫	宮津 大津 草津 今津 八幡 八日市 水口 彦根 長濱
大阪府	大阪本金庫	茨木 池田 枚方 富田林 八尾 境 岸和田 奈良 三輪
奈良縣	橫濱本金庫	高田 五條
神奈川縣	神戸本金庫	橫須賀 中野 小田原 厚木 藤澤 松田 秦野
兵庫縣	長崎本金庫	三田 西宮 伊丹 篠山 柏原 洲本 市村 明石 社村
長崎縣	新潟本金庫	姫路 赤穂 山崎 龍野 村岡 豊岡 枚田
新潟縣	新潟本金庫	福江 平戸 大村 諫早 澁 武生水 殿原
群馬縣	前橋本金庫	村上 新發田 新津 卷 津川 三條 長岡 六日町
千葉縣	千葉本金庫	小千谷 十日町 安塚 糸魚川 高田 柏崎 相川
茨城縣	水戸本金庫	沼田 中ノ條 高崎 桐生 館林 太田 富岡 藤岡
栃木縣	宇都宮本金庫	北條 大多喜 茂原 東金 木更津 佐倉 松戸 佐原 銚子 太田 松原 鉾田 笠間 土浦 麻生 谷田部 江戸崎 下館 取手 宗道 境 矢板 太田原 真岡 鹿沼 栃木 佐野